外国人に対する漢字教育

ボゲ・ネツラ・アルン

１　研究の目的

日本語を勉強する外国人にとって、平仮名や片仮名に比べて、漢字の方はずっと難しく思われる。進級するとともに、漢字の範囲も広まっていく。効果的な勉強方が分らない限り、学習者も大変苦労するものだ。

数多くの漢字を教えることも日本語の教師にとって、容易ではない。学生に漢字を覚えさせるように、教師としてどんなことを工夫しなければならないかを調べて行きたい。

日本語の学習者達に漢字の勉強が負担ではなく、楽しみとして考えていただければ望外の喜びだ。

具体的に言えば、以下のポイントが研究の目的になる：

* 漢字が覚えやすくなるよう、どう教えたらいいか。
* 効果的に漢字を勉強する方法

２　教師向け研究書

武部(1989)には、　漢字を教える際、教師が留意しなければいけないことや、漢字の教授方法が述べられている。この本は日本語の教師向けに書かれているもので、漢字の背景が中心とされていることがわかった。

まずこの本で、漢字が図形であるということに重点が置かれている。これについて、教師は漢字を教える時、鳥・馬・魚、の絵を見せて、bird, horse, fish、と言わせることは、極めて容易である。同じように、その絵を単純にして漢字に近い形で見せてもよく見分けられて誤りがない。最後に漢字、鳥・馬・魚、を見せて、bird, horse, fish、を区別させることも、決して難しくはない。

しかしながら、絵で表せない漢字も数々ある。この漢字を覚える方法が下記のように書かれている：

例えば、

１）影：　日は太陽。京はミヤコというケシキ。そのカザリがカゲ、

２）仮：　ヒトが反対の形になっている意味。カリの姿のこと、

３）採：　最はモットモ。テでモットモよいものをトリイレルことなど。

上記のように、漢字を分解して覚えることもあれば、絵を通して覚えることもある。

この本で、漢字の覚え方が書かれているものの、書き順や熟語の勉強にあまり重点を置かれていないことが感じた。漢字を覚えたとしたって、会話での使い方が分からないと、意味がない。要するに、『覚える』はできるものの、『習う』ことができない。覚えて習う

ことがその場でできたら、漢字の勉強が能率よくできると思う。
　次に形声文字の字音について、以下のように述べられている。
　漢字の字音というのは、その漢字の中国語としての読みに基づくものである。しかし中国語を学習しても、日本の漢字の字音を知ることは容易ではない。それよりも、漢字の字体から字音のカギ考えるほうが役に立つ。一般に形声文字と呼ばれている漢字の場合が、これである。
　例えば、包を基本部分とする漢字、抱・泡・砲・飽、であるが、いずれも字音はホウである。こういう場合には、基本部分が、意味だけでなく、字音も併せ示すことになるから、そのうちの一つが既習であれば、他の漢字家族の字音を類推することも可能である。さらに、例を示せば、次のようになる。
＊ 守（まもる・シュ）: ウカンムリはヤネ。寸はテの形で、点は脈を打つところ。ヤネの下から逃げないように、テで押さえる形でマモルのが守である。基本部分として、マモルに用いる。
＊ 狩：ケモノヘンは、ケモノの意味。ケモノを追い込んでマモル形のカリが、狩である。字音。シュ。
　上記のように、漢字家族がまとまった形で書かれていれば、学習者にとって何よりだ。けれども、ここで強調したいのはアテジである。漢字の音読みと訓読みがわかったところで、アテジが全然手付かずのままではよくない。訓読みや音読みと同じよう、熟語やアテジにも注意を払わなければならないと思う。

３　方法

　次のような日本語学習者向けに書かれている漢字の本を研究のため使った。
１）松岡龍美(１９９５年) 『日本語能力試験に出る漢字２級』国書刊行会
２）田中かおる＆藤井ひろし（199７年)『漫画で攻略—二字熟語なんて怖くない』実業之日本社
３）金田一 春彦(2004 年)「小学生の漫画漢字字典」学習研究社
４）氷井津記夫（１９９９）「Nine House Kanji Quiz」株式会社アスク

上の資料１、２、３で下記のことを見た：
＊ 漢字の提示順番
＊ 漢字の熟語にイラストが付いているかどうか
＊ 漫画を通して漢字からできた熟語などの実際の使い方が教えられているかどうか

４　分かったこと

４−１　資料１）

　この図書は外国人の学習者向けに書かれている。一冊の本を通して、たくさんの漢字が

覚えられるということを目標に、漢字が提示されている。漢字は訓読みや音読みやアテジによって、まとまっている。しかも、各課題は練習問題付だ。例文を通して、熟語の使い方が書かれていたが、漢字にはイラストが付いていなかった。

「１つの音」の漢字はアイウエオ順に整理してある。同様に、「2 つの音[注]」の漢字もアン、イン、ウン、エン、オンという順番に書かれている。

多くの人に覚えがたく思われる当て字は一つの課題にまとまった形に整理してある。数多くの当て字の勉強がその場でできたら何よりだと思う。

上に述べたことを一つ一つ見ていこう：

漢字の提示順番：音読みと訓読みは別々に配置してある。

１　１つの音の漢字

イ

以　以上、　以下、　以外、　以内、　以後、　以降、　以前、　以来

医　医学、　医療、　医者、　医師、　医院

位　位置、　地位、　単位　くらい

ウ

宇　宇宙

など

２　２つの音の漢字

例：

アン

安　安全　安心　安定　安易　不安　やすい

ウン

運　運転、　幸運、不運、　運河　はこ・ぶ

以下、エン、　カン、　ガン、　キン、　ギン、　クン、　グン、　ケン、　ゲン、コン、

サン、　ザンなどと言う風

３　訓読みの漢字

イ

位　位が高い　位が上がる　一の位　十の位

囲む

ウ、エなど

４　訓読みだけの漢字

掛ける、　込む、　咲く、　届けるなど

５　特別な読み方

田舎（いなか）　笑顔（えがお）　大人（おとな）などという風

４−２　資料２）

　この本は日本人向けに著されている。小学校６年生から中学生を対象にしている。各漢字にイラストもついていれば、文を通して熟語の使いわけも載っている。また漫画をとおして言葉の使い分けがきちんと整理してある。

　漢字は同音異義語や対義語のような形でまとめられている。そして、それぞれには説明がなされている「カッコで示す」。

１）　同音異義語は（読み方が同じで、意味が違う字のこと）

例えば、関心：あるものや人に心を引かれて、もっと知りたいと思うこと

感心：優れた行いなどに深く感じること。また、ほめる値打ちがあること

２）　対義語：（正反対の熟語）

例えば、

軽卒：よく考えないで軽々しく言ったり行動したりすること

慎重：注意深く落ち着いていて、軽々しく言ったり行動したりしないこと

３）　類義語：（意味が同じく見えてもそうではなく、少し差がある漢字のこと）

　日本人ならば、類義語の使い分けがよく知っているものの、外国人
にとって一番混乱しやすいところは類義語だと思う。

簡単：簡単というのは手軽で、わかったりできたりすること。込み入っていないこと。

容易：誰でも易しく簡単にできること。

４）　読み方で意味がわかることば；

分別（ぶんべつ）：種類別にわけること

本を内容に分別して、本棚を整理した。

分別（ふんべつ）：ものごとの善し悪しなどを見分けること。

小さい時からあの子は、分別のある子と、評判だった。

５）　当て字：

全ての当て字はまとめて整理してあった。

４−３　資料３

　下記に述べた課題つまり「漢字の起こり」「漢字の成り立ち」「漢字の部首」はこの本で別々の章になっている。この本の目的は漢字の基礎的な勉強となっているらしい。

<u>漢字の起こり</u>：　甲骨文字から始まった漢字の歴史は、中国という国の流れとともにその形を整えていったといえる。このように、漢字の歴史の解説が載っている。小学生向けに書かれているこの本には、漢字の歴史などの情報が漫画で描かれている。

なお、漢字の背景なども整理してある。

<u>漢字の成り立ち</u>：

漢字を次の６種類に分類している。

１）象形文字：　ものの形をかたどった字
２）指事文字：　絵で書きにくい事柄を点や線などの印で表した字
３）会意文字；　象形文字や指事文字を組み合わせて新しく文字を表したもの
４）形声文字：　意味を表す部分と発音表す部分を組み合わせた字
５）仮借
６）転注
　この分類を「六書」と言う。１）－４）は漢字の成り立ち（作り方）、５）－６）は、漢字の使い方についてのものだ。
　漢字の部首：
　漢字の勉強の際、主な部首を覚えなければということを念において、漢字の部首が紹介されている。「へん、つくり、かんむり、あし、たれ、にょう、かまえ」の整理した形でまとまっている。
　部首を勉強して次は本場の漢字の勉強に入る。それは下記のように『漢字家族』『部首家族』ですらすらおぼられよう：
　ある部分から成り立ついくつかの漢字のグループが「漢字家族」だ。それにより、ある部首からできたいくつかの漢字をその場で覚えることができる。
　例えば、主の『漢字家族』を例に出してみよう。
　　『主』という字はろうそく立ての上で、じっともえている火を描いている字。
　ひと所にじっと立っていることを表す。この字の家族に入る漢字は住、注、柱、駐
　などだ。
　　一つのページ上で漢字の意味も載っていれば、熟語と例文も付いている。こういうことが、漢字を勉強する時、能率よいと思う。

４－４　資料４）

　この本に外国人が漢字を覚えるのに役立つクロスワードのワードゲームが載っている。３×３の９マスの形にされた二字熟語の漢字のワードゲームが作られている。漢字を覚えるために、よりよい方法として取り上げられていることがわかった。勉強の合間にこういうワードゲームなどやったら、遊びのついでに勉強できるのも間違いではない。
　ところで、この本での漢字の提示順番をご覧いただきたいと思う。
２枚のページに一つの漢字とその漢字に関しての要素というペースで書かれている。例えば、『立』の漢字を例に出して見よう。
ON reading：　RITSU
KUN reading：　TA・TSU
Meaning: stand, establish

	立	

To the centre:

1. national
2. compatibility
3. establishment
4. independence

From the centre

1. to prove
2. fine, excellent
3. standpoint
4. stereoscopic

次は上記のクイズの解答が出ている。しかしながら、単語を、例文など抜きで一々覚えるのはややこしいものだ。それで、この本の著者は解答は例文付けに工夫したらしい。例えば、『国立』と解答が出ている場合、次のようにそれに例文を添えている。

国立：
東京大学は国立大学です。
Tokyo university is a national university.

上に述べた漢字の提示の流れを見ていくと、一つのことがわかってくる。それは、日本語と英語が両方とも混じっているとことである。なぜならば、この本の著者が対象としているのは、漢字を１から覚えたい人と漢字を英語で教えたい人だからである。

この本を通して分かったことは次のとおり：

英語がところどころ出ていることで、日本語と共に英語の勉強もできるわけだ。外国人の学習者のうち、通訳や翻訳の仕事を目指している方が多い。このような仕事を目指している人々には、２つの言語とも習得せざるをえない。このような本を通して、漢字を学ぶとともに英語の単語も勉強できるではないかと思う。

５　まとめ

以上のような資料を分析した結果、次のことが分かった：

１．例文付であることの大切さ：

外国人向けの本で、各漢字が例文付に整理してあった。単語を習うとともに、その使い

分けも知っておくことは大事だと思う。

２．２級の漢字テキストのいいところと不十分なところ：

２級受験者向けの本で、漢字の書き順や意味が載っていない一方、漢字や熟語の量が非常に多い。

３．漢字を覚えさせるための工夫：

６年生の漢字テキストに､同音異義語や対義語や類義語によって漢字が分類されている。漫画を通して、単語の使い分けがはっきりされている。しかも、字が色付だから、学習者が関心を持ちやすいし、より早く覚えられる。

４．漢字の勉強は基礎から：

小学生向けに作られた本で、部首を通して、漢字が紹介されている。やはり、部首は漢字の基礎になっているわけだ。

その一方、多くの外国人学習者は漢字の基礎的な勉強抜きに漢字を覚えていく。基礎的な勉強を身に付けないまま、進級に進むのはやや妙ではないか。

５．漢字の書き順が載っているほうがいい：

小学生や中学生向けの本に、漢字とともに漢字の書き順も載っていた。書き順がその場で分かると、漢字辞典を引かなくてすむ。だから、漢字の本に書き順が載っていると、能率よく勉強できるかと思う。

６．当て字の整理方法：

ほとんどの本で、全ての当て字がまとまった形になっていた。

７．奇麗な字で漢字を書く：

いくつかの本に漢字を奇麗に書けるよう、習字が工夫されていた。点線に倣って、漢字を勉強すれば、字をバランスよく書けると思う。しかも、奇麗に見える。

６　結論

私が調べた資料では、提示順番やまとめ方に差を感じた。日本語の外国人学習者向けの本を作ろうとしたら、漢字を下記のように整理していきたい。

上記の１番目に参考した２級の本に基づいて、工夫を重ねていきたい。いくつかのポイントを追加したいと思う。それは次のとおり：

１）一番最初に載せておきたいのは、たくさんの漢字に出てくる部首だ。

２）画数の優先順位の高い順に、漢字を整理していきたい。

３）漢字を載せて、すぐ隣に書き順を入れておきたい。漢字を書く際、書き順を知っておくことは一番必要だと思う。それは漢字をバランスよく書くためだ。

４）次は漢字の具体的な意味を説明しておきたい。漢字の歴史までいかなくても、部首と漢字の意味との関係を入れておきたい。

例えば､『誤』という漢字は「つじつまの合わないことをいう意味の呉と言を合わせ

た字」というような説明をしたい。

5）そして、その漢字からできている熟語を紹介したい。熟語を紹介しながら、例文を取り上げていきたい。それで、単語の使い分けがはっきりされると思う。
ここで工夫したいことが一つある。熟語を載せるとともに、その熟語は普段、どのような形で使われているかを述べたい。例えば、ある単語がニュースや新聞などに限って使われている反面、日常会話においては、あまり出てこない。こういう風な区別をはっきりさせたいと思い､ある単語があらたまった形でよく使われているか、それともくだけた形で使われているかを述べておきたい。両方に使われる単語も数々ある。その場合、単語に別な色を付けて書くほうがわかりやすいと思う。

6）次は、その漢字の部首に関連する漢字を述べていきたい。ということは、同じ部首の漢字がその場で紹介しておけば、勉強の能率が上がるではないかと思う。こういう風に漢字を整理していきたい。

7）次の課題は対義語にして、ここまで述べた単語の対義語を整理したい。対義語の提示順番にあまりこだわらず、適当でもいいと思う。

8）対義語の後に類義語を紹介し、意味にある微妙な差を説明していきたい。類義語はまとまった形に整理してあれば、わりと覚えやすくなるかと思う。

注）

資料１で用いられている用語である。「１つの音」の漢字は一つの音で表されている漢字のことで、「２つの音」の漢字は二つの音で表されている漢字のことである。

参考文献

武部良明（1989 年）『漢字の教え方』株式会社アルク

資料

金田一春彦(2004 年)「小学生の漫画漢字字典」学習研究社
田中かおる＆藤井ひろし（1997 年）『漫画で攻略―二字熟語なんて怖くない』実業之日本社
松岡龍美(1995 年) 『日本語能力試験に出る漢字２級』国書刊行会
氷井津記夫（1999）「Nine House Kanji Quiz」株式会社アスク

日本文化と生け花

パイ・チトラ・ビビック

０．はじめに

生け花は、いまやたいへんなブームだ。ブームというのは一時期、花火のようにパッと花咲いてしぼんいくもののようにいわれているが、生け花が、日本の伝統芸術として発祥したのは、今から約六百年前のことで、それ以来、様々な変遷を重ねながら、その時代の非常生活に密着し、人びとに親しまれながら発展してきた動かしがたい、“実績”があるからだ。

生け花は、いつの時代にもおケイコごととしてとられたり、生活芸術として追求されたりと、さまざまだった。しかも老若男女のわけへだてなく、人びとはハサミと花を握ってみたいと思うときに、生け花をいけたのだ。生け花が長い年月、すたれることがなかったのは、人びとのそういった素朴な花を愛する心に支えられているのも確かな事実だ。

そういったことを反映して、現在の日本のいけばなの流派は、約三千流派、人口も三千万人という膨大な数を誇っており、ますます発展している。

１．生け花とは

「生け花とは何ですか？」と問われて、即座に答えられる人がいったいどれほどいるだろう。「花器に花をさすのを生け花というのよ」とおっしゃるかもしれない。しかし、約六百年の歴史と伝統をもつ、日本の生け花はそのような単純な言葉で表せない“性格”を持っているのだ。

今生け花と呼んだが、その名称についても、数多くの呼び名があってどれがほんとうな呼称なのか、迷ってしまう。「いけばな」という名称は、江戸時代から用いられたものだ。この時代の新しいいけばなの様式に「生花」というのがあった。が、生花を訓読みで「いけばな」とも言った。これは花を生命あるものとして生かして飾る、という意味でもあるわけで、「生花」といけばなに違いはない。

いけばなの初期といわれる十五世紀ごろは「たてばな」といわれていたが、それが室町時代に、ひとつの完成された型を生みだしたところで「立花」と呼ばれるようになった。この時代のいけばなは、立花のことだったのだ。

それから桃山時代にかけて、いまの茶の湯が流行し始めるのだが、茶室の花（茶花という）が創案されると、「花」とも呼ばれ、今でいうところの「お花」はここから始まっている。

２．生け花の歴史

生け花の歴史は文献によってたどっていくと、明確な姿（様式）を持つのは、室町時代（十

五世紀）以後ということになる。しかし、その前に、日本人のいろんな花との接触があったことが記録にある。それが土壌となって室町時代に鑑賞される“花”としてひとつの形をとって現れたのが生け花と見るのが妥当なようだ。

古くは「万葉集」に見られるが、生け花の原型を求めるとすれば「供花」、つまり、仏前供養の花として見ることができる。しかし、それだけなら東洋の仏教国と同じく、供花は供花の形のままにとどまっていたはずだ。

それが生け花に発展したのは、やはりそこに日本人独特の花との触れ合いの仕方があったからだ。

３．現代の生け花の実情

現在、生け花界の人口は約二千万人とも三千万人ともいわれている。それほど、数えきれない人たちが生け花に親しんでいるのだ。そして、生け花の流派は全国に約三千流派といわれているが、人口の増加とともに、実数のつかめないのが実情だ。

実数がつかめなくても、職場や学校での生け花は盛んだし、町のいたるところに教場も林立している。そして、かつて女性のおケイコごとといわれた生け花が単なる女性の花嫁修業というイメージを打ち破り、社会的にも認められる立派な職業になった。こういった傾向を、生け花界の人たちはうれしい傾向だと見ているが、確かにその通りだといえよう。つまり、それは生け花にたづさわることが単なる遊びごとではない、という証拠だからだ。この傾向はますます強くなると思われる。

今、職場では、花嫁修業のひとつにしかとらえていないが、高校や大学では、課外活動から正課に取り入れる学校も出てきている。それも、生け花人口をより大きくすることになるわけだが、すでに学校法人として授業をおこなっているところもある。

約六百年の伝統を持つ生け花がさまざまな変遷をたどりながら、今日は、われわれの日常生活に密着し、生活の中になくてはならないものとなっている。これは1955年ごろから経済の著しい成長によって一般の生活が向上するにともない、生活を便利に、快適に楽しむ雰囲気がしだいに濃くなってくると、生け花も生活と結びついていっそう関心が高まってきた結果といえる。

すでに、そのころ、生け花は“床の間”を抜け出し、暮らしの中の生け花として“茶の間”で楽しむ生け花となる傾向にあった。つまり、生け花は床の間のものというイメージが、生活様式の近代化に伴い、２DKや１DKの中に飾る生け花と変わってきたわけだ。そして、経済の好況が日常生活を豊かにし、生け花を趣味として習う人が増え始めた。

ことに、1964年の東京オリンピックは、生け花を内外ともに飛躍的に発展させた。それはオリンピックによって、世界の目が日本へ向けられ、日本の文化、芸術まで注目された結果といえる。

生け花の近代化に伴い、外国人の生け花熱は大変なもので、海外進出は著しいものがあった。ことに1956年、「イケバナインターナショナル」という世界の婦人たちが生け花で手

を結ぶ会が結成され、それまでフラワー・アレンジメントなどと呼ばれていた生け花は“いけばな”として世界に知られるようになった。

４．季節の生け花

花の取り合わせ

花の取り合わせというのは、季節ごとに咲く花を、いろいろに組み合わせて、つくり出される面白さ、楽しさを味わうものだ。俳句が五―七―五の言葉の組み合わせでやるのと全く同じように花の組み合わせによって季節感を表現したり、ドラマをつくりあげたりすることができる。

花の取り合わせというものは、どこの流派でも決まりのあるものではない。だからといって、ただ何種類かの花を適当に、二つ、三つと組み合わせてもいいというものでもない。取り合わせを決めるには、この花に何の花を加えてみようかと考えることから始める。どんな花をいけようか、どんな花を飾ろうかと考えることが、取り合わせて美しく表現することにつながなる。

春の生け花

早春の花は素朴で、春の盛りの花はみずみずしく、晩春の花はあでやかである。草木は非常に季節に敏感である。枯れた草の下に緑を見つけると、春がきたのだとしみじみ思う。こうした草花の生命のいとなみに感動する心が、花を生ける主要な目的となる。寒風も雪も知らない春の草花は、陽春の光に恵まれてすこやかに育だつ。その素朴で新鮮な印象はいかにも、春は希望にあふれているといった感じがする。明るい色には夢のような雰囲気があり、時には苦難を知らないはかなさがかくされている。

こうした春のムードは、形式にこだわらない構成によって表される。感触の柔らかさと、薄く白っぽいさわやかな色に包まれた全体の構成に、暖かく明るい春の色が配されます。春の生け花は春が来た感じを表すように花を生ける。

夏の生け花

さわやかな初夏がすぎれば焦熱の夏が訪れる。水と緑のある陰に行きたくなる季節です。強烈な太陽に耐えて草は花をつけ、木々は枝をしげらせる。酷暑にあえぐ眼に花はさわやかに見え、緑は心をやすませてくれる。時には強烈な日のもとに燃えるような花を開く植物もあるが、夏の生活にとって必要なのはさわやかさとやすらぎに満ちた生け花である。

夏の生け花は、単純な構成と明決な表現を持ち、涼しさを誘い、さわやかさをもりあげるものです。

秋の生け花

秋には生命の実りが訪れる。草や木には染めたような彩りと、内に満ちる充実感が現れ

る。秋の生け花は、これらの草木のうえにやがて訪れる生命の転機に目をとどめながら、この秋の色を形の上にもりあげてゆく。

冬の生け花

冬の生け花は、春を心にみたしてさえいる。冷たい大気の中にすでに春の気配が流れ、生命がひそやかに動き始める。草木のわびしい外観の中に、春の動きは一点に集められ、やがて明るく広がっていく。この一点に凝集された力が、やがて全体をおおう動きとなる構成を持つのが冬の生け花の姿勢である。

私は春の生け花しか生けたことがない。春は花がいっぱい咲く季節なので、春の生け花はいろんな花を使い、いろんな色の花を使って生ける。

このように季節によって花の生け方は違う。

５．生け花に使う道具

生け花を生けるにはいろんな道具を使う。花を挿す道具もかかせない。例えば、はさみ、花瓶、器、剣山などである。生け花を生けるときは大体この四つの道具を使う。

はさみ

はさみは、余分な枝葉を切ったり、花の根元を切って茎の長さを調節する時に使う。

根元の切り方は花材の種類や花留めの方法によって異なるが、多くの場合、斜め切りにする。これは花材を花器の内側や剣山（けんざん）に固定しやすくし、花材が水を吸いやすくするためだ。

花瓶（かびん）

花を生けるときに使う、縦に細長い花びんだ。
花材には横木をして、花びんの内側３か所で固定する。
このような花瓶は平価（生け花の一種類）を生けるとき使う。

器（うつわ）

花瓶とともにこのような器に花を生けることもある。大体盛り花(生け花の一種類)を生けるときは、このような平たい器を使う。花材を固定させるために剣山と一緒に使う。

剣山（けんざん）

盛り花を生けるときの道具で、長さ１センチくらいの針が一面についている。

この針に花材を刺して固定する。右の剣山には針がついているが、針がついていない剣山も使われている。左の花器にある丸いものも剣山だ。

両方とも剣山だが。形が違う。右の剣山は太い枝などを挿すのに便利で、左の針がついていない剣山はそのあいている穴に花を挿す。

６．生け花の流派、種類

生け花はただ花を挿すだけではなく、決まった形に花を挿す。そして、生け花にはいろんな流派があり、“池坊”とか“小原”という家元がる。生け花を習う人々は池坊とか小原の流儀を教わり、その教えのとおりに生けるのだ。流派ごとにそれぞれ生け方が違っており、私が習ったのは池坊流の生け方だ。

生け花は決まった形に生けるのだが、決まった形にするために、生ける時にそれぞれの花の長さを考えて切る。決まった形としては、「天」が最も上に生ける花、「地」が最も下に生ける花、そして、「人」が天と地の間に生ける花だ。決まった形に生けると、次の写真のようになる。

生け花にはいろんな種類があるが、おもなものは次の三つだ。

１） 盛り花

２） 平花

３） 荘厳花

盛り花（もりばな）

盛り花は平たい器と、花材を刺す針が付いた剣山（けんざん）を使って生ける技法だ。平面的な広がりを持つように生け、花を盛り合わせることによって自然のたたずまいや花の美しさを再現する。盛り花を生けるときは、緑を多く使い、そこにいろんな花をいける。盛り花は自然の様子を表す。木がいっぱいあり、花がたくさん咲いている様子である。盛り花では水のあることがとてもよいと言われている。水は川の流れを表す。

盛り花は明治時代になって生まれ、花材も西洋の草花も用いて自由に生けることができる。飾る場所も日本建築の床の間だけでなく、洋間や玄関などにも飾られるようになった。盛り花は大体写真にあるようにいける。

盛り花はこのように平たい器を使う。この盛り花に使った花材は鉄砲ゆり、擬宝珠、スターチス、カーネーションだ。

また、盛り花にもいろんな種類がある。例えば

１） 右盛体（うせいたい）

右盛体の「う」は右という漢字だ。つまり、この生け花は右の方に傾くという意味だ。右といっても、見ている人から見て右ではなく、花器から見て右に花を生ける。

右盛体の場合、木とか川の流れは右から左に流れている感じをあらわす。

２） 左盛体（させいたい）

左盛体の「さ」は左という漢字で、写真のように、花を花器の左方面に生ける。

この場合、自然の流れが左から右に向かう感じを表すように生ける。

３） 立盛体（りっせいたい）

立盛体の場合、漢字は「立つ」という漢字で、枝と花はまっすぐ立てて生ける。

この場合は生けている花の長さが大切になる。この生け方は自然の流れが後ろから前に向かうような感じに生ける。立盛体を生けるときはほとんど細長い花瓶を使う。

右の写真のようになる。

４） 飾盛体（しょくせいたい）

飾盛体は自由スタイルとも言われている。飾盛体には決まった形もないし、守るべきルールもない。飾盛体という漢字のとおり、飾盛体は飾りものとして置く。

花材によって生け方が違う。写真のものはどんな感じがするだろうか。

平価（へいか）

平価は、細長い花瓶に花を縦長に生ける技法で、生け花の基本の一つだ。平価の一番の特徴は、自然の花の持っている感じを損ねずに、それを花瓶のなかに風流に再現するという姿勢だ。

口元のせばまった瓶や壺などの高さのある器を使って、挿し口の部分がすっきりと引きしまって見えるように生けることが大切だ。細長い花瓶に安定させるため、横木などの留め木を使って生ける。

平価の構成は、主枝（しゅし）、副枝（ふくし）、客枝（きゃくし）の三つに別れ、それぞれの長さや挿す位置、角度の変化によってさらにいくつかの種類に分けられる。平価ではほとんどの場合、細長い花瓶を使い、花の枝を切らずに生ける。そのため花瓶の中で花を留める。花の留め方にも、前留（まえどめ）、横留（よこどめ）、向う留（むこうどめ）、見越留（みこしどめ）、藍留（あいどめ）、乱れ止（みだれどめ）などいろんな種類がある。

平価を生けるときは、大体細長い花瓶を使う。花の長さが大切であるが、平価を生けるとき、花を使わずに葉っぱだけを使う場合もある。そのとき普通の花瓶は使わず、花器を使います。右の写真のような感じになる。

平価にもいろんな種類があり、たとえば、三勝の景という三つの景がある。（高雄の景、嵐峡の景、挺湖の景）

平価には景色を花で表す生け方が七種ある。

1） 深山の取り方（しんざんのとりかた）－この生け方は山の奥深くに隠されているきれいな景色を表す。
2） 森林の取り方（しんりんのとりかた）－森や林の多彩な彩りや形を表現する独特な取り方である。
3） 野辺の取り方（のべのとりかた）— 野原の野生的な美しさを表すのがこの取り方の特徴だ。
4） 池水の取り方（ちすいのとりかた）－この生け花は清い水のある池の景の感じがするように生ける。
5） 沼沢の取り方（しょうたくのとりかた）－この生け方は水辺や湿地の景色の感じがするように生ける。
6） 河川の取り方(かせんのとりかた)－大きい河と小さい川の流れを表す生け方だ。
7） 海浜の取り方（かいひんのとりかた）－この生け花は浜辺の美しい風景の感じを与えるように生ける。

平価はこのようにいろんな種類の生け方を組み合わせる。

7．おわりに

生け花はいろんなところで見られる。昔は生け花は床の間におくものと考えられていたが、今日の生け花は、昔と違って畳敷きの部屋に飾ることはめったにない。昔はお寺などで、生け花の展覧会が開かれていたので、拝見法がきびしかったのだろう。今はそういった場所で開かれる展覧会とは別に、現代的にデパートやホール、茶室、台所や応接間などにも見られる。

生け花はいろいろな機会に置かれる。昔はそうではなかった。茶会や結婚式のときぐらいだったが、現代では家庭でもレストランでもよく見られる。花にまつわる行事としては「花とり踊り」、「花みこし」など数多くある。

このような行事は日本に限らず世界各地にある。ユリの花はキリスト教でも「復活祭」の花として使われ、その姿を神の復活と意味づけている。

普通の日本人に生け花を生けるかと聞けば、できないと答えるかもしれない。生け花は習わなければできなかった。しかし、昔の日本人は今の若者と比べると生け花を生けることができる人はずっと多かったそうだ。歴史的に有名なところには昔から生け花を教えて

いた流派があり、今日本には約3000もの流派がある。日本でもっとも有名な流派は「池坊（いけのぼう）」、「草月（そうげつ）」、「小原（おはら）」だが、「いちばん古い流派」は池坊で、その流派の学校は京都の六角堂寺にある。各流派により、生け方、花態（基本となる形態）などがすこしずつ異なる。

日本の文化としての生け花、インドはどうか？

日本では花を使ういろいろな飾り方があり、それを生け花という。花をきれいに並べるのだ。日本には生け花を教える特別な学校がある。それらの学校で教えている先生はみんなプロで、何十年も教えつづけている人もいる。生け花には花の並び方とか、枝のきり方とか、ルールがある。

インドにも花を飾る習慣はあるが、それだけでは生け花とはいえない。インドでは花を飾るための特別なルールはないし、花の飾り方を教える学校もない。結婚式のときとか祭りのときにはインドでも花をきれいに飾る習慣があるし、お見合いに行くときも花を持っていく習慣がある。花はみんな自分の好きなように束にするか、店の人に頼んで束にしてもらう。また、インドでは花をプレゼントすることがよくある。母の日、父の日、教師の日などである。

私がこのテーマを選んだのはインドには生け花がないからだ。せっかく日本にいるので生け花を習おうと思って華道のサークルに入って生け花を教えてもらった。そして、生け花の授業を受け、生け花がどんなものか分かってきた。授業では、いろんな種類の生け花を習った。日本人と一緒に花を生けたり、話したり、皆で一緒に料理を作ったりしたので、生け花だけではなく日本の伝統文化、習慣を味わうことができた。華道の授業では花の生け方だけではなく、日本のいろんな習慣を経験することができた。例えば、部屋に入るときの先生への挨拶の仕方（両手を床で合わせておじぎする）、花を生けるあいだ、ずっと正座をしているところが面白かった。そして、生け花を習い始めてから道ばたの花に眼を向けるようにもなった。

向こうでも生け花を習い、展覧会にも参加して腕を磨いていこうと思う。

以上。

日本の昔話とその研究

楊　海燕（ヨウ・カイエン）

０．はじめに

日本では、経済が発展するにつれて、全国にテレビ、ネットワークなどが非常に普及してきた。生活が豊かになることで、生活の楽しみ方も豊富になった。都会でも、田舎でもお年寄りが子供たちに「むかし」を語ることが極めて少なくなってしまっている。一方、全国を調査する地味な努力のおかげで、お年寄りに語ってもらったままの資料集がかなり豊富に出版され、今や日本は、総類話数で八万話とも言う昔話資料大国でもある。現在では、子供向けに再話されたり、絵本化されたり、テレビ番組になったりし、いろんな形で子供たちに知られているものもある。これが、日本の昔話が現在おかれている状況である。

１．　語り口のおもしろさ

昔話は長い年月、常に変化しながら、伝えられてきた。でも、あらゆる変化は口で伝えるという行為の枠の中で起きる変化だった。しかし、現在子供向けの出版物の中には、口伝えのよさが削られたものが多くあるように見受けられる。昔話に独特の語り口は昔話の本質とおもしろさを表している。これが昔話が長い年月を経てきても、伝え続けられている秘密でもあると思う。ここで、その独特な語り口を紹介する。

ここで使う考え方は、1947 年ヨーロッパの昔話研究を一つの頂点にまで持って行った学者マックス・リュッテイの理論に基づいたものである。彼の理論はヨーロッパの昔話の研究を通して、分ってきたものだが、かなりの部分が日本の昔話にも言えることがすでに確認された。だから、ここで、日本の昔話以外に、ヨーロッパの代表的なお話『白雪姫』も例にする。

昔話の大事な特徴

（1）「くりかえし」

まず、みんながよく知っている『白雪姫』（注1）について述べたいと思う。この物語の中で、継母は自分より美しい白雪姫を殺すために、さんざん悪知恵を働かせる。一度目は紐を持って、二度目は櫛で、三度目は毒りんごを持って、白雪姫を殺しに行った。物語の中では、同じような言葉を三回も繰り返す。そのくりかえしが語りの性格をよく示している。つまり、一言で言ってしまえば、語りというのはある種の決まった形を持っているということである。短くはしょって、語ることはできない。出来事のくりかえしが三回あったなら、三回とも言葉を節約しないで、全部繰り返さなければ、語りにならないわけである。言葉を節約すると、物語のおもしろさも、十分感じられない。

日本の昔話のなかに、『馬方山老』という話がある。その中に、山老が一度目は甘酒を作ったのに、馬方に飲まれ、二度目にはもちを取られ、三度目にはうまくだまされて木のからどに入ってしまう。そして、三度目は致命傷につながるので、最も重みがある。比べながら読むと、ヨーロッパでも、日本でも、昔話の繰り返しは、ほとんどが三回であることに気づく。そして、その中では三回目が必ず最も重要な役目を持っている。白雪姫は三度目に毒りんごで殺され、生き返らなくなったからこそ、最後に王子と結婚することになる。

写実的な文学なら、このように同じ言葉を使って繰り返すと、単純すぎる、何の変哲もない言葉を言い重ねている、などの非難を受けるところだが、昔話は逆に同じ場面には同じ言葉で繰り返すことを生命としている。そうすることによって、聞き手の頭の中に結ばれたイメージははっきりしたものになり、昔話が明確な姿で受け取られる。音楽と同じく、昔話は時間にのった芸術である。本に書かれた芸術ではないので、聞き手にとっては、読み返しができない。だから、昔話を聞き手に鮮明にイメージとして与えるためには、同じ場面を同じ言葉で繰り返し述べることが必要なのである。

（２）昔話の中の色彩

昔話は、原色を好む。『白雪姫』の場合には、こんな語りがあった。「それからまもなく、女王は女の子を産みました。その子は、雪のように白く、血のように赤く、黒檀のように黒い髪をしていたので、白雪姫と名づけられました」と語られている。昔話は中間色をほとんど持っていない。日本の昔話によく出てくる鬼も、赤鬼、青鬼、黒鬼というふうに言うが、えんじ色の鬼とは言わない。さらに、『白鳥の姉』（注２）という話はタイトルを見ただけ、白という文字に気づく。白という色は、特に昔話の中でよく使われているような気がする。神秘的な雰囲気をもたらし、読者に想像の余地を与えてくれるからだろう。

（３）エピソードの孤立性

昔話では、それぞれのエピソードはいわばカプセルのなかに閉じ込められていて、お互いに関連がない。

継母に家を追い出され、殺されそうになった白雪姫は、山の中で七人の小人の家にかくまわれて暮らしているが、そのうちに物売りに変装してきた継母から、きれいな紐を買い取り、その紐で首を絞められて殺されてしまう。

幸いなことに、夕方帰ってきた小人たちが紐を切ってくれたので生き返るのだが、またしばらくして物売りが櫛を売りに来たとき、白雪姫はまたもやその櫛を買ってしまう。そして、その櫛を使うと毒が回って、また死んでしまう。再び小人たちに救われるが、三度目は物売りが来てりんごを買わないかと言われ、白雪姫はそのりんごを買い、食べて死んでしまう。

常識からいえば、あるいは写実的な文学として考えれば、一度物売りに殺されそうになった人間は、二度目には決して一人でいるとき、物売りからものを買うことはないだろう。しかも、三度も繰り返すことはありえない。それなのに、このかわいい白雪姫は、三度も死んでしまうのだ。どうして、このようなことが昔話の中では可能なのだろうか。紐を買って殺されること、櫛を買って殺されること、りんごを買って殺されること、それぞれは関係を持っていないということである。つまり、昔話の登場人物たちは、一度目の経験を二度目に生かすことはできない、というわけである。いわば、昔話には経験知がない、といえる。

（4）状況に対する行動

昔話の主人公たちがどんな風に行動しているかといえば、主人公たちはそのときに自分が置かれた状態の中で、その時引き起こされた出来事に合わせて行動している。

白雪姫の例で言えば、白雪姫は、物売りのおばあさんが売りに来た紐を見て、きれいだと思ってすぐ買ってしまう。そして、そのために死ぬのだが、それを繰り返していくうちに、結局最後には死んでいたために王子に発見され、めでたく結婚し、幸せになる。

昔話の主人公のこうした対応の仕方は、人生の真実の姿ではないだろうか。人間は、それぞれがおかれた状況の中で、その時その時の出来事に対応していく。よく考えれば、それはその人の人生にとって、必然的な流れであるわけだ。人間は、人生でそれぞれの立場に応じて、主体的に行動してきたつもりでも、世界を動かしている力、キリスト教徒から見れば神の意志、キリスト教徒でなければ、運命の意志というかもしれないが、世界を統治している、目に見えない、巨大なある意志、というものに結局は動かされているものなのだろう。

（5）探せば、必ず発見できる

昔話では、話の筋の展開に重要なことはすべてぴったりと合う、という大きな特徴がある。『白雪姫』では、自分より千倍美しい白雪姫が七人の小人の家で暮らしていることを知った継母は、その家を探して山の中へ入っていくのだが、このとき、継母はすぐ簡単に白雪姫の家を発見する。「継母は山の中を探し回ったけれど、ついに白雪姫の家を発見することができず、疲れた足を引きずってむなしくお城にもどりました」などと語る昔話はないといえる。なぜか分からないがぴったりと命中するとでも言えるような正確な出会い方が、実は昔話のもう一つの特徴である。『鬼が笑う』（注３）という話では、鬼にさらわれた娘を探しているうちに日がくれた。その時「ちょうど」向こうに小さなお堂があり、そこの尼さんにとめてもらった。翌朝、教えられたとおりに川縁へきたら、また「ちょうど」大きな犬、こま犬がいねむりしている。というふうに語られている。

なにもかもがちょうどうまい具合につながっていくという昔話の構成は、もしそれが創作文学であるならば、不器用といわれるだろう。人間の世の中を写実的に描こうとする文

学にとっては、このようになにもかもがちょうど結びついていったり、すれすれのところで、結びついていったりすることはありえない。けれども、「ちょうど」とか、「すれすれ」という構成の仕方が、昔話のあちこちに見られる。

（６）一次元性

伝説では、超自然的存在と人間が出くわす場所は村の中が多く、人間はそのとき驚き、恐ろしさに震える。その体験こそが伝説の話題の中心として伝えられるのだが、昔話では、超自然的存在はほとんどの場合、人間の住む世界から遠いところに住んでいる。しかも、人間がそこに到達できないことは絶対にない。白雪姫の場合は、七人の小人の住んでいる森のことを考えればよく分かる。つまり、普通の世界と超自然的な世界との間に精神的な断絶がないということである。昔話にとって、地理的に遠いことは、別世界のものを表現する唯一の正しい手段であるといえる。昔話は、精神的に区別されたものを、一本の線の上に投影し、内的な隔たりを外的な距離によって暗示するのである。

浦島太郎（注２）は、竜宮に着いたとき、その美しさ、豪華さに感嘆するが、乙姫や魚たちが日本語をしゃべって歓迎してくれること自体は不思議に思っていない。このことは『猿婿入り』、『ねずみ浄土』などについても言える。

（７）昔話の平面性

昔話では、肉体を立体として扱わず、一つの平面のように扱う。平面的に描かれている人物は、一つの「図形」なのである。図形としての人物には、心の奥行きがない。これは、日本に伝えられている『手無し娘』（注４）を見れば、明らかである。継母のイジメによって、嫁は両手を切り取られるのだが、その時、血が飛び散ったり、肉が盛り上がったりとは述べられない。そして、手を切られた娘は、別に気を失って倒れるでもなく、子供を背負って家から出て行くのである。ここでは、嫁は切り紙細工のような図形として描かれているにすぎない。

それに、肉体の回復も一瞬にして行われる。『手無し娘』の場合には、主人公は同じように手を切られた子供を背負って家を追い出される。暑い日だったので、のどが渇き、子供を背負ったまま、かがんで水を飲もうとすると、子供が水の中におちそうになる。すると、落ちようとするその瞬間に、親の腕がぱっと回復して子供をつかまえる。つまり、切られた両腕が回復するためには、ある条件が満たされなければならないのだが、その条件さえ満たされれば腕の回復は一瞬にして行われる。しかも、いったん回復してしまえば、腕に傷跡などは決して残らない。両腕が次第に伸びてきて、何ヶ月かのちには指も生えてきた、というような語りは、昔話には決してない。回復するとすれば、それは一瞬にして終わる。回復した腕にしばらく包帯を巻いていたとか、切られた後時々傷口がいたんだ、などと語られることも決してない。いったん回復した腕は、もう以前とまったく同じに完全な腕になるのである。

昔話の登場人物には、時間も関係なければ、周囲の世界もなく、肉体は切り紙細工のように図形として語られている。だからこそ、腕がすっぱりと切り取られたかと思うと、またぴったりとくっつくことができるのである。そして、その性質や感情は話の筋によって表現される。つまり、感情や性質は一つの平面に投影され、その同一平面にほかのすべてのものも投影されているのである。そして、時間も昔話の中では点としてしか存在せず、「徐々に」という時間の経過はない（注５）。

実は、『手無し娘』とそっくりの話がヨーロッパにもある。悪魔に金持ちにしてもらうために、父親が実の娘の手を切った。娘は父親の引止める手を振り払って、家を出た。そして、王様と出会って結婚した。そして、戦争に出た王様との手紙のやり取りで、悪魔の介入によって誤解が生じ、娘は家を出なくてはならなくなるが、彼女の信心のおかげで、手が元通りになる。そして、戦争から帰ってきた王様と再会し、生涯幸福に暮らすことができた、という話である。日本の話と大筋においてはよく似ているが、比べてみたら、細かいところに違いがあることに気づく。特に人間関係の違いが西ヨーロッパと日本の家庭、社会の違いの一面も反映している。一番大きな違いは、ヨーロッパの話では、母親より父親のほうが大きな役割を持っていることである。日本の場合は、主人公の背後に存在するプロモーター的な存在が母性である。母親は主人公に大きな影響を与える。

もう一つおもしろいことがある。日本の類話はほとんど継母と娘の話であり、そのほかの話型が存在しない。これは注目すべきことと思う。そのような話型が日本人に(むしろ、アジア地域、特に中国や韓国にも)もっともぴったり合うので、受け入れられたのだろう。ここで、日本の昔話における継母の意味について、考えて見よう。「日本の昔話大成」で継子関係に分類されたお話を通観して、気づくのは、そのほとんどが継母、娘関係であるという事実だ。現実を見てみれば、実は母親が子供を殺したり、捨てたりしても別に不思議ではないのだが、社会によって、一般に承認される意識のようなものを考えると、母親は絶対に肯定的なものとされ、その否定的な面はもっぱら、継母というイメージに集約される。このため、昔話に出てくる継母は、実際より、はるかに悪いイメージを背負わされることになる。継母、娘の関係はシンデレラの物語に典型的に示されているが、日本のお話の特徴は、娘の結婚話が生じるまでは、継母による娘への迫害がまったく語られず、結婚の相手も簡単に決まってしまうところにある。だが、シンデレラにおいても、日本の昔話、『手無し娘』でも、娘が継母によって、苦労させられることが必ず語られる。男性に見出されるまでのいろいろな経過や時には結婚後も続く継母による妨害などが述べられる。深く考えれば、継母と娘の関係は、母と娘の結合が以前のように一体ではなく、娘が母親の否定的な面を意識していることを示しているのかもしれない。人間は他の者との一体性を破り自立しようとするとき、まず、相手の否定的な面を意識する必要がある。これは、多くの思春期の女性が母親に対して、急に批判的になったり、実際よりはるかに母親を低く評価したり、時には嫌ったりする現象として現れる。彼女たちは、時に自分の母親は、

ほんとうの母親だろうかと疑ったりもする。このような時期を経てこそ、女性は母から自立することができるのである（注6）。

２． 昔話と子供

昔話はよく作り話と言われる。確かに、昔話の中に起きた出来事は虚構である。だが、昔話は、誰でも作れる、内容はどうでもいいと言うような価値のないウソの話ではない。昔話は一種の文芸である。それに、その話の一つ一つには歴史そのものが秘められている。日本人の古い信仰の名残とその変化も見られる。『猿婿―水乞い』は、田に水を入れてもらうために、サルに娘をやるという話である。田の神様としては蛇がよく知られているが、サルも田の神として尊敬を受けていることが日本民族学の成果として認められている。だから、この話の中に出てくる動物は、猫でも、犬でもなんでもかまわないというわけではない。昔話となりきった話では、わかりにくい部分があるが、そのような古い日本の信仰が背景にある話であることはたしかである。

昔話の大切さをこの例を通して少しは理解してもらえるだろう。民俗学以外には、文学、宗教、心理学など、いろんな角度から、昔話の研究が行われている。だから、昔話には、子供の成長にとって大事な要素が含まれているといえるではないだろうか。

３． 昔話は子供に与える喜び

昔話は一種の冒険物語でもある。次々と新しい事件がおき、主人公は新しい体験を重ねていく。「これから、主人公の運命はどうなっていくのだろう」「困難にあったら、うまく乗り越えるのだろうか」「援助者にどんな方法を教えてもらえるのだろうか」と聞き手は聞いている間、緊張しながら、主人公と一緒に冒険しているような気分になる。この「未知のものと出会う喜び」が子供に満足感を感じさせる。

前にも述べたように、昔話には「くりかえし」という非常に大事な特徴がある。しかも、同じ場面は同じ言葉で語られている。聞き手を文芸的にあるいは音楽的に楽しませるときに、この形は楽しんでもらいやすいだろう。子供にとって一度聞いたことをまた聞くというのは「既知のものとの再会の喜び」といえる。緊張に満ちた冒険の中に繰り返しを加えることによって、人に一種の安心感を与えることができるのではないだろうか。昔話は、長い口伝えの歴史の中でそうした語り口になってきたのである。考えてみれば、人の一生も、この二つの喜びに貫かれているといえるだろう。若いときは、誰でも未知のものへの好奇心が強い。好奇心を持っていたら、常に新しいことを知りたい、挑戦したいと思うようになるのではないだろうか。それで、勉強したり、体験したり、教えてもらったり、これから先の未知のものを探るように少しずつ技術とかを身につけるのである。この過程は、子供を楽しませて、成長にも役立つはずだ。外国旅行をして、毎日珍しい風景を見たり、ごちそうを食べたりすると、もちろん満足するのだが、国に帰ってきて、たとえ簡単な食

事でも、今まで、味わえなかった味がすることもあるのではないだろうか。再会の喜びは、心に安らぎを与えてくれる。

子供は聞いている間、単純に話を受け入れているのではない。実は、ストーリーの流れにしたがって考えているのである。つまり、子供は聞くことでも育つのである。聞いていると、「それで」「それから」「つぎは」と話の先を求める心がわいてくる。そして、話の展開を頭の中で想像しているのだ。自分の想像したものがもとの話と合ったり合わなかったりすると、もっと子供の興味をそそる。これも、また一つの喜びになる。

昔話には、主人公が困難にあったとき、必ず、ヒントを教えてくれる援助する者、あるいは忠告する者がでてくる。主人公はその意見を聞き入れて、成功に向かっていく。現在は、もちろん日本も含めて、核家族化している。それに、近所付き合いも薄くなった。他人事に口を出さない、面倒なことにかかわらないようにする世の中である。これらが原因で子供に忠告してくれる人は少なくなっている。一方、かわいがられて、わがままになった子も少なくないのではないだろうか。忠告しても、耳を貸さない子はよくいると思う。しかし、他人からの忠告、助言というのは、人生において、とても大きな意味を持っている。気づかない自分の短所を教えてもらうことによって、自分がもっと成長できたり、時に成功に結びつくのではないだろうか。忠告してくれる人のことばは、感謝の気持ちを持って素直に受け入れるべきである。昔話は、こういうことの大切さを子供たちに教えているのだ。それに、昔話は、忠告者の話を聞くだけで、成功できるとは教えていないこともとても大事だと思う。昔話の主人公は成功にたどりつくまで、自分で一つ一つの困難を乗り越え、化け物などと向き合えないと決して成功できないのである。昔話の主人公は英雄でも、幸運な人間でもない。こういう話を聞いている子供たちの意識に現れてくるのは、自分のこれからの人生の道である。この道は決して、平らで順調な道ではないことがわかってくる。自分の未来は自分で切り開かなければいけないのである。

４．　昔話の残酷性

昔話には、残酷な場面がたくさんある。昔話を語るには不可欠なものともいえるだろう。しかし、この残酷性を子供たちに語るのはよくないと心配する人もいる。このような場面をカットしたり、内容を変更したりすることもよく見られる。だが、そのようなことをする必要はないではないだろうか。ここで、この残酷性について考えてみよう。

子供はこわいお話が好き

子供にどんな話が好きかと聞いたら、こわい話が好きと答える子供が多いのではないだろうか。長年子供たちに昔話を語ってきた研究者によると、子供が好きな話には、「残酷な場面は語るけれども、描写しない」という共通点がある。なぜ、子供がこわい話が好きなのだろうか。大人になった私たちの事を考えてみよう。

大人は、変哲のない平凡な生活を送る中で、刺激を求めていないだろうか。穏やかな毎日には満足できず、いろんなことに挑戦したりするのである。危険を感じながら、喜びも沸いてくる。危険な目に会おうとすることによって、解放されたり、生きがいを感じたりする人は決して少なくない。子供も、同じような思いを抱いていると思う。こわい話を聞くことによって、慣れ親しんだ現実の世界とはぜんぜん違うところに行って冒険をしている気分になれるのではないだろうか。お話に登場する狼でもそうだし、手を切られた娘の状況を想像して、自分のことのようにこわがって困ったりする。このようなことがいつかほんとうに起こってしまうかもしれないと待ち望んでもいる。それに、子供は、単純なように見えるのだが、実は子供でも自分なりの悩みや不安を抱いている。大きくなることへの不安、世の中へ出て行くことへの不安、これから自分に降りかかる困難や恐怖やあるいは苦痛に自分がどれだけ耐えられるか、乗り越えられるのだろうかという不安である。子供は、こわいお話を聞くことで、その話の主人公に自分の姿を重ねて、これらと出会う心の準備、それらを乗り越える練習をするのである。

５．　自分の経験

昔話の残酷性を考えたとき、最初に頭に浮かんだのは『白雪姫』である。自分の国のお話ではないのだが、子どものときから、よく知っているお話なので、印象に残っている。この話はどの様な感じの話かと言うと、困難がいろいろあったけど、愛し合う二人はちゃんと結婚して、幸せに暮らせるという美しい話だと思っている人は多いと思う。しかし、もう一度残酷性という視点から考えてみれば、継母の白雪姫に対する行為は「殺人」だろう。なのに、この話がこわいとだれかから聞いたことはないだろう。なぜかというと、幸せな結婚にいたるまでに、迫害や邪魔があるというのは子供にとっても受け入れやすいパターンだからである。むしろ、邪魔があるからこそ、この結婚は幸せな結婚と思われるのである。残酷な場面は子供を楽しませるために不可欠な要素といえるのではないだろうか。もちろん、楽しませるだけではない。子供たちに現実を教えているのである。戦争のことを考えて見よう。現在はもう平和な時代なのだから、戦時中に起こったさまざまな忌まわしい出来事、悲惨な出来事は、子供の目に触れないように、教科書に事実をありのままに載せないようにしようと思う人もいるだろう。また、政治的な意図で教科書を書き変えたことで問題も起きている。親は、そのような語りにくいことをどうやって子供に教えたらいいのだろうか。ちゃんと子供に理解してもらえるかとか、心配することもあると思う。だが、事実を隠せば、うそをつくのと同じになる。事実を隠せば、もう同じようなことは起こらないと考えるのはおろかである。戦争を例に考えれば、人間の持つ残酷性を隠すことのほうがほんとうは恐ろしいことだろう。もっと身近なことで考えるなら、イジメはどうだろうか。小学校や中学校で実際に起こっているのは誰の眼にも明らかだが、学校は責任を負わないために、公開せず、処理しないでいるので、ますます事態が深刻になってきた。イジメによる自殺が相次ぎ、ほんとうに心が痛む。イジメをやっている子供がこわい。子供たちにとって、最初に出会う社会、集団

は学校、クラスである。ここで人間関係を作る経験を積んでいく。いやなことに出会ったとき、付き合いがうまくいかないとき、どうやって処理すればいいか少しずつ習うのである。親や親戚のように自分のことを中心に考えてはくれないことが分かってきて、生きているうちに必ず出会ういやなことにもなれていく。隠せば隠すほど、深刻になる。隠すより、分かってもらう、これは当たり前のことだが、一番難しいことでもあるのだろう。

6．　昔話の工夫

先に、『手無し娘』についての説明でも述べたように、昔話には、平面性という特徴がある。つまり、肉体を平面として扱う。だから、残酷な場面は語るのだが、生々しく描写しない。これも、また昔話に独特の語り口のひとつになる。たとえば、『白鳥の姉』という話で、嫁入りの前日に、継母が娘を殺すという時、このような会話がある。

> 大なべに湯を沸かしている時に、継母は
> 「さあ、玉のちゅ（娘の名前）この上で湯を浴びなさい」
> 「いやです、お母さん。煮えたぎっている湯に落ちると煮えてしまいます」
> 「あんな立派な殿様の嫁になる女がこの上で湯があびられぬということがありますか」
> そういって玉のちゅを捉えて、湯の中に投げ込みました。玉のちゅは煮えて、死んでしまいました。

お湯に投げ込まれて死んでしまうというのは、とても残酷だが、昔話は決して細かく描写しない。ぐつぐつと音がするなべとか、血まみれで、肉はどうなったとか、このような場面を描写しないことも、昔話の工夫の一つである。昔話のこの特徴を知らないで、昔話は残酷で、子供にふさわしくない話と非難するのは間違いだ。

7．　おわりに− 子供はこわい話を通して育つ

昔話の残酷な場面も子供にとっては大切である。日本の昔話の中には、かなり残酷な話がある。たとえば『かちかち山』はその代表的な話である。あらすじを紹介しておく（注７）。

> 昔ある所に畑を耕して生活している老夫婦がいた。
>
> 老夫婦の夫が畑を耕していると、毎日性悪のタヌキがやってきて不作を望むような囃子歌を歌ってからかううえ、せっかくまいた種や芋をほじくり返して食べてしまうので、業を煮やした老人は罠でタヌキを捕まえて、老婆に狸汁にするよう言い置いて畑に戻った。ところがタヌキは、家事を手伝うと言って老婆をだまし、縄を解かせると殴り殺し（ただ老婆を怪我させただけというのが今は一般的）、老婆に化けて老人に老婆の肉を煮た料理を食べさせた上で正体を現し、嘲り笑って山に帰った。
>
> 老夫婦と親しかったウサギは老人から顛末を聞き、意気消沈した老人に代わってタヌキを成敗する決心をしてタヌキの巣穴に向かう。ウサギは親しげにタヌキに近づき金儲けを口実に柴刈りに誘い出す。ウサギはタヌキの後を

歩き、タヌキの背負う柴の束に火打ち石で火をつけて大やけどを負わせる。ウサギが背後で火打ち石を打つ音を聞いたタヌキが「かちかち言うのは何だ？」と聞き、ウサギが「かちかち山のかちかち鳥だ」と答えたのがこの題名の由来である。

次に見舞いの振りをしてタヌキの元に向かい、やけどの薬と偽って芥子を渡すと、それを塗ったタヌキは痛みに転げまわり、散々に苦しんだ。

最後にウサギはタヌキの食い意地を利用して漁に誘い出し、自分は木の舟に乗りタヌキを泥でできた舟に乗せて湖に出る。泥舟はたちまち沈み、ウサギは必死に浮かび上がろうとするタヌキを櫓で殴って沈め、溺死させ、老婆の仇を討つ。（この部分は、狸が改心して、ウサギや老夫婦とも仲直りをして暮らすと変更されたものが多い）

この話を『日本の昔話』に取り入れ、また絵本でも伝承の内容のまま、書き変えずに、『かちかち山』を出している小澤俊夫は、あとがきに次のように述べている。

「昔話はしばしば、残酷であるといわれて排除されたり、そのような場面をカットされたり、変更されたりすることがあります。しかしよく考えてみると、このエピソードは、自然に囲まれて暮らしていた人間が同じ自然の中に生きている動物とまず土地の支配権争いをし、その上、食うか食われるかの、自分の存在をかけた戦いをしている物語なのです。人間は自分の生命を維持するためには、ほかの生物の命をもらわなければなりません。ところが、人間も動物の一種なので、ほかの動物に生命を奪われることだってありうるわけです。『かちかち山』はそういう厳しい生活の中で生まれた、シリアスなものがたりなのです。つまり、生命はどうやって成り立っているか、という根本問題を語っているといえます。

こうして、生命の真相を語る昔話は現在の日本のように、豊かで清潔な暮らしの中で育つ子供たちには、特に必要だと思います。自分たちがほかの動物の生命をもらって生きているのだということが豊かさのために見えなくなっているからです。

人間を含めて動物の生命は、愛を育てたり、美を産んだりする反面、残酷な面も持っているということを恐れずかたっているところに、昔話の一つの大きな価値があります。そこによく言われる「昔話の荒々しさ「荒々しい魅力」がひそんでいるのではないでしょうか。」

『かちかち山』は、自然のありのままの姿、人間と動物との、また動物同士との戦いの歴史を語っている。このありのままの姿は、ありのままの話として、子供たちに聞かせてあげるべきではないだろうか。こういう話を聞くことによって、子供は人間世界の悪と善について考え始めると思う。自分がどのような姿で生きていくのか、悪い心はこわいから、絶対うつされないようにしようとか、悪い人間に出会ったら、どうすればいいのか、・・・。昔話を聞かせることは、子供たちに人生の課題を与えることになる。答えはすぐ出ないかもしれないのだが、考えること自体が子供にとって何より大切ではないだろうか。昔話の残酷な部分は、子供には必要な要素である。書き換えたり、消したりしてはいけない。（了）

参考文献

『昔ばなしとは何か』　小澤俊夫　編著

『昔話入門』　小澤俊夫　著

『昔話と日本人の心』　河合隼雄　著

『昔話とこころの自立』　松井友　著

『昔話の時代』　稲田浩二　著

注

（1）　『完訳グリム童話(全三巻)』　グリム兄弟　著

関敬吾・川端豊彦　訳　角川文庫

（2）　『一寸法師』　関敬吾　編　岩波文庫

（3）　『桃太郎　舌きり雀　花さか爺―日本の昔ばなし』　関敬吾　編　岩波文庫

（4）　『一寸法師』　関 敬吾　編　岩波文庫より

『手無し娘』は　岩手県、新潟県、山梨県にはそれぞれ伝えられているものがあり、大筋においてよく似ているが、細かいところに違いが見られる。

参照：　『日本昔話集成（全六巻）』　関敬吾著　角川書店　1950-

本文に述べたようにヨーロッパにも　同じような物語がある。

参照：『完訳グリム童話集（全五巻）』　J.グリム＋W.グリム著、金田鬼一 訳　岩波文庫　1979.

『完訳グリム童話（全三巻）』　グリム兄弟著、関 敬吾・川端 豊彦訳　角川文庫

（5）　参考　『昔ばなしとは何か』第二章２　リュッテイの理論のまとめ

（6）　参考　『昔話と日本人の心』第四章　姉の死、p.109

（7）　出典: フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia）』

この話は、もとはウサギがタヌキを散々いじめる後半部だけの内容で、同じような動物説話は世界各地に見られる。江戸時代になって、前半部である、タヌキが悪事を働く部分が付け加えられ、ウサギの行為を正当化する、いわば仇討ちの物語になった。これが勧善懲悪や忠義を重んずる江戸時代の人々に受け入れられ、広まったと考えられる。（あらすじは地方によって細部に違いあり）

日本におけるいじめに関する研究

張　子静（チョウ・シセイ）

導入

●　「いじめ」を選ぶ理由

いじめというのは、人間社会には必ず存在している。私はそう考えている。日本だけではなく、世界中のどこでも起こっているのだろう。しかし、日本に留学している間、ニュースで、ほぼ毎日いじめの報道をしている。しかも、ただの子供たちのイタズラだけではなく、深刻ないじめで自殺してしまう件も少なくない。それほどのいじめ事件が毎日繰り返されていることに、正直ものすごく驚いた。いじめはどこでも存在しているのは確かなことだと思うが、日本のいじめ問題は普通でないほどひどいではないのだろうか。他の国については調べていないが、香港ではそんなに深刻ないじめはめったにない。いじめで自殺するというニュースも全く耳にした事がない。日本のいじめ問題はなぜそんなに深刻なのか、なぜなかなか解決できないのか、その原因を知りたい。そこで、今回は日本におけるいじめ問題をテーマとして研究した。

●　研究方法

日本におけるいじめについて、統計資料から実態を把握し、先行研究をもとにいじめの原因・克服のあり方、また報道の問題について分析する。

１.「いじめ」の定義と判断

いじめの定義、辞書によると、「肉体的、精神的に自分より弱いものを、暴力やいやがらせなどによって苦しめること」[1]と書いてある。もちろん、辞書の意味通りに誰から見ても明らかにいじめにつながる行為だと判断できるいじめがある。が、実はいじめは「見えにくい」といわれている。つまり、判断しにくいということである。なぜかというと、いじめがあったかどうかを決定するのが、いじめる側の動機や、外から観察していじめ行為が事実としてあったかどうかによって決めるというよりは、むしろいじめられる側の被害感情による。いわば被害者の主観的世界を基礎とする現象なのである[2]。そのため、被害側がいじめられたという感情を持っていれば、「いじめ」となり、持っていなければ、ただの「遊び」や「ふざけ」となる。また、被害者自身からいじめられている苦しい気持ちを表さない限り、まわりの人はいじめを判断しにくいのだ。

---

[1] 大辞泉 増補･新装版（デジタル大辞泉）／監修：松村明

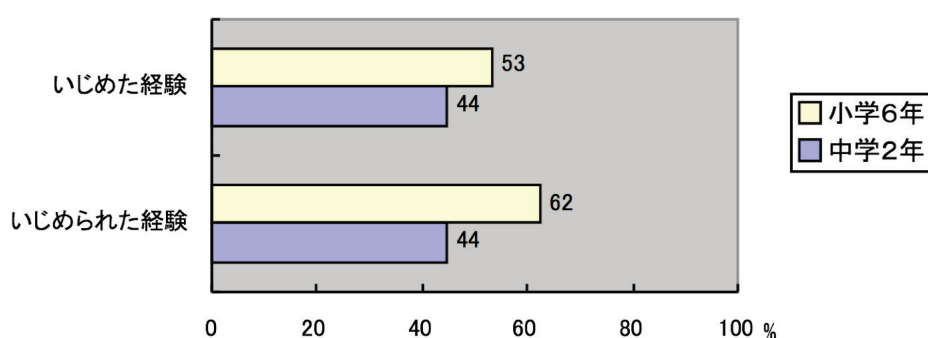
[2] いじめ：教室の病い／森田洋司，清永賢二著、東京　金子書房　1994. 7、P.21

いじめが判断しにくいもう一つの原因は、被害者の感情とまわりの人による事態の認識の間にずれの存在にある」。その「ずれ」はどのようなものか、例を挙げてみよう。例えば、ドッジボールのなかでいじめられっ子に中心してボールを投げつける。「ポロレスごっこ」と称して相手をいためつける。わざと足を出して相手を転倒させておいて、頭をかきながら「ごめん」といってあやまる手口など[3]。それは明らかに悪質ないじめ行為だが、加害者の側が巧みにいじめの動機を隠したり、正当化したりする。そうすると、まわりの人は、こういう行為はただの「遊び」や「ケンカ」に過ぎないとみる。これが、被害者とまわりの人によるいじめの認知のずれである。このような「ずれ」があるからこそ、いじめはしっかりと観察し、両者の気持ちを聞き、判断する必要があると考える。

したがって、いじめであると判断するには、被害者側の被害感情はもちろん、外から判断するためには、加害者側の動機を組み込む必要がある。

２．なぜ、いじめるのか

日本のいじめ問題の深刻さはテレビをつけると、なんとなく分かってくる。ほぼ毎日繰り返すいじめに関するニュース。いじめでの自殺と殺人事件も少なくない。そして、調査によると、今の子供がいじめに会う比率は、思った以上に高いようだ。この経験の比率とは、調査対象は今までにいじめたり、いじめられたりなんらかのかたちでいじめに関わってきた者の比率を意味している。調査によると、小学六年生での経験率は７７％であり、中学二年生では６２％を占めている[4]。そして、いじめた経験といじめられた経験についての調査もある（図①参照）。

図①ーいじめ経験率

注:『いじめ：教室の病い』／森田洋司，清永賢二著、東京　金子書房　1994.7、39 頁を参考に筆者作成。

---

[3] 同上、P.22
[4] 同上、P.39

図①によれば、いじめた経験者は小学六年生で５３％、中学二年生では４４％である。また、いじめられた経験をもつものは小学六年生で６２％、中学二年生で４４％を占めている。以上のデータを見ると、今日の日本の子供たち、いじめへの接触率はかなり高い。いじめは学校生活のひとつだと言っても過言ではないのだろう。

しかし、なぜ日本の学校でそんなにいじめ起きやすいのか。やはり日本の教育、社会、家庭の状況と深く関係があるではないだろう。まず、日本の教育から分析したいと思う。

（１）受験と学歴社会

近代社会は昔のような血縁による世代間継承はなくなったが、代わりに学歴社会になった。つまり、学歴によって社会的地位や評価が定まる社会である。これは表面から見ると、確かにいいことかもしれないのだが、一方、無意識に子供たちに重いストレスをかける状況を生み出している。そして、そのストレスを解消するためにいじめが発生するのではなかろうか。

学歴社会といえば、学歴によって人の価値がはかられる社会である。学歴を重視する結果、受験中心の教育社会が生まれた。進学競争や偏差値向上は子供の日課になってしまうのが今の状況である。親と学校からの強く期待に応えて、受験でいい点を取るために、ほとんどの日本の子供は塾を通っているそうだ。文部科学省の調査によれば、この現状は明かである。学習塾へは小学生の３７％、中学生の５１％が通っている（図②参照）[5]。

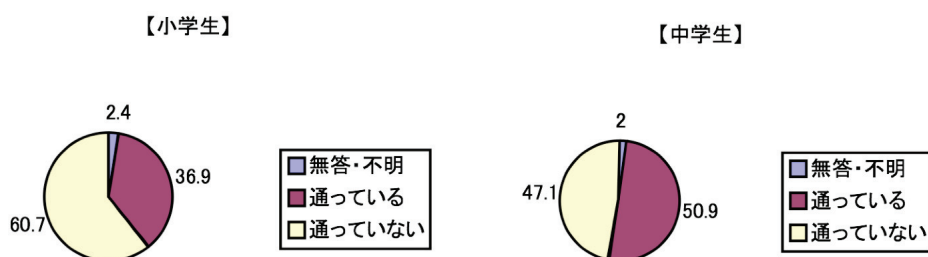
図②ー学校段階別通塾の状況

【小学生】

2.4
36.9
60.7

【中学生】

2
50.9
47.1

無答・不明
通っている
通っていない

子供としては、もちろんもっと遊びたいであろう。しかし、学歴至上の社会に対して、それは無理に近いのだろう。結果として、ほとんどの子供はこの「学歴至上」の価値観を認め、親と学校の期待に応えていい子ぶっている。しかし、本音はもちろんそうではない。こんな状態で子供たちは不満やストレスを溜まりやすいのではないだろう。いい子を演じ続けるせいで溜まってしまったストレスを解消するために、子供がいじめなどの反社会的な行動をするのも珍しくなかろう。親と教師を「見えないところ」で弱い子をいじめて、普段の束縛された生活から解放できるのだろう。もっと遊びたい、自由でありたい子供た

[5] 「『義務教育に関する意識調査』結果の速報（概要）」文部科学省（2005 年 6 月）

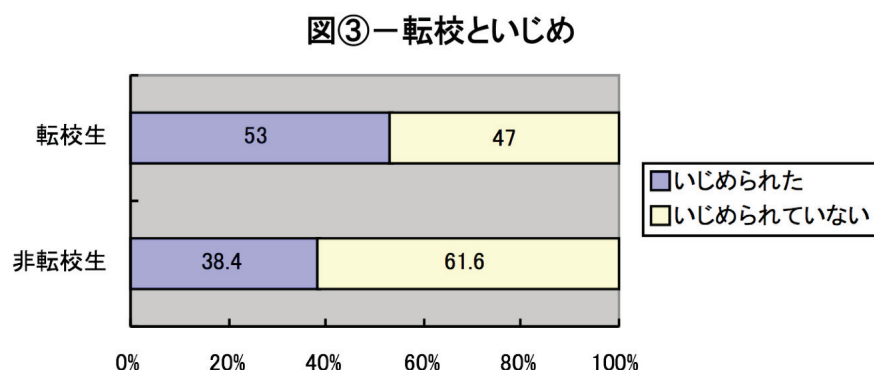
ちにとって、「いじめ」はただの「遊び」あるいは「うさばらし」のひとつかもしれない。

（２）独特な社会文化

● 集団主義

資料によると、日本人の特徴は、集団行動が好きであり、仲間との同一行動をとりやすいといわれる。日本人の個の確立の乏しさは、従来から、指摘されていることである[6]。つまり、日本人は個人的に目立つことはあまり好きでない。できる限り、まわりの人と同じことをして群れる。一緒に群れることができない者は、異端者として無視・敵視されるのである。また、その群れられない子を「ネクラ」、「グズ」、「ドジ」[7]として蔑視することもあるそうだ。このような社会文化を受け、親は子供たちに学校で必ず目立つ行動をするのを戒める。その結果、未成熟の子供たちはまわりの人と同調できない、群れることができない者が「悪い存在」として認識してしまう。自分も異端者とならないためを配慮する一方、まわりの「平凡でない」異端者を攻撃し、排斥することになるのだろう。つまり、いじめが発生するのである。

異端者としてみなされやすいタイプは、いつも性格が極端的に内気、無口などの子だが、転校生も異端者としてみなされやすいタイプのひとつのだ。なぜかというと、転校生は集団への新規参入者だからだ。つまり、まわりと違う存在なのである。周囲と違うものは異端者に見える社会文化により、転校生はいじめされる確率は普通の生徒より高いのだろう。また、集団主義によると、人々は必ず自分の位置や役割がある。転校生は新規参入者として、迎える集団はこの新規参入者が集団の中にどのように位置をつけるか試したいため、さまざまな企てを仕掛けてくる傾向もあるそうだ。このような傾向は調査によると明らかにわかる（図③参照）。

図③ー転校といじめ

注:『いじめ：教室の病い』／森田洋司，清永賢二著、東京　金子書房　1994.7、70 頁を参考に筆者作成。

図③に見るように、転校経験のある子では５３％の子がいじめられた経験をもっている。

---

[6] いじめ：見えない子供の世界／箭内仁（ほか）共著、P.42

[7] 同上、P.43

転校経験のない子では、いじめられた経験をもつ子が３８．４％であり、両群は結構差が見られる。この調査結果を見ると、転校生がいじめられる傾向があるようだ。これは、日本の集団主義の産物ではないのだろうかと考えている。

● **縦社会**

縦社会は人間関係において、役職・階級など上下の序列が重視される社会である[8]。つまり、下の弱者は、常に上の強者に管理されることになってきていることである。この状態はちょうどいじめと同じではないのか。いじめは、強者による弱者への攻撃的支配行動の面をもつ[9]。現在の日本社会はこういう縦社会の概念はまだ健在している。ある意味で、社会自体がいじめの構造となっているのではないだろうか。先輩からの「しごき」という名のいじめは昔から今までずっと存在しているし、上の人からのいじめのせいで、自殺してしまう子もあるそうだ。

２００５年１２月６日

長野県立丸子実業高校の１年生の男子生徒（１６）自宅で首吊り自殺

朝、長野県の県立丸子実業高校１年・T君（16歳）が、御代田町の自宅で首を吊って死んでいるのを母親が見つけた。自室には「いじめについて何も解決していません」「学校の先生にもっと早く謝ってほしかった」などと書かれた手紙やノートがあった。

T君の所属するバレー部では、7月に先輩が1年の生徒を正座させ、ハンガーで殴るということがあった。またT君は大きな声が出せない体質だったが、先輩に声の真似をされて馬鹿にされるということもあったという。[10]

こういう弱肉強食の社会体制で育っていた子供たちが弱者であるといじめられるだろうという意識を無意識に持っているかもしれない。これも、いじめを発生しやすい原因の一つのではないかと考えている。

（３）家庭構造の変化

日本は少子化、核家族化が著しく進行している。昔と違って、家族の人数がだんだん少なくなった。子供たちは少人数の家族の中で、対人関係を学びチャンスも少なくなる。そして、親は中流を維持するために、仕事ばかりで、子供に顧みることさえもできなくなって、子供の教育が全部学校に依存しようとしているのも現在の日本家庭の現状だ。こういう子育て意識の低下のせいで、子供たちは家族とのふれあいが少なく、人間関係もうまくコントロールできなくなるのではなかろう。そして、学校で同じ状況を共有している子供

---

[8] 大辞泉 増補･新装版（デジタル大辞泉）／監修：松村明

[9] いじめ：見えない子供の世界／箭内仁（ほか）共著、P.35

[10] いじめ自殺／http://yabusaka.moo.jp/ijime-jisatu.htm

たちはグループになって、家族への不満や苛立ち、ストレス解消として他の弱い子をいじめることとなる。しかし、やはりこういう家庭で育ってきた子供たちに対して、いじめることはただのゲームにすぎないかもしれない。なぜかというと、兄弟関係の貧困の核家庭で育ってきて、喧嘩なども経験したことのない子供たちが、もちろん意地悪される苦しみや痛みも知らないはずのだ。そして、少子化で家族からの溺愛すぎることも問題があると思っている。なぜかというと、こういう育ち方で育ってきた子供たち、ただ享楽的な遊びに楽しみを求めるだけになりやすいのではないかと考えている。わがままで、一方的に自分の欲望を満ちたいだけである。

その結果、いじめることもただのゲームに認識してしまう。相手の痛苦は全然考えもしないのだろう。このように、私は家庭構造の変化もいじめと関係があるのではないかと思っている。

３．なぜ、いじめは解決できないのか

● 正当化されていくいじめ

日本のいじめ問題はずっと昔からあった。以上の書いたように発生する原因は実はなんとなくわかっているが、なぜ今に至ってまだ解決できないのだろう。むしろ、深刻化になっていくようだ。私の考えによると、その一番の原因は日本のいじめは「正当化されていく」ことにある。

私にとっては正当、または正しいいじめは絶対にありえない。どのような原因があろうとも、いじめる側が悪いと考える。しかし、最近、日本には「いじめられる側にも大いに問題がある」という考えを持っている人がしばしばいるそうだ。ある民間の組織に主催されたいじめについてのアンケート（図④）[11]で、こういう質問があった。「いじめられている側も悪い」という考えに対して、あなたはどう思いますか？」。結果は「強くそう思う」と「そう思う」と答え人を合わせると43%と「そうは思わない」の28%を大きく上回った。

設問

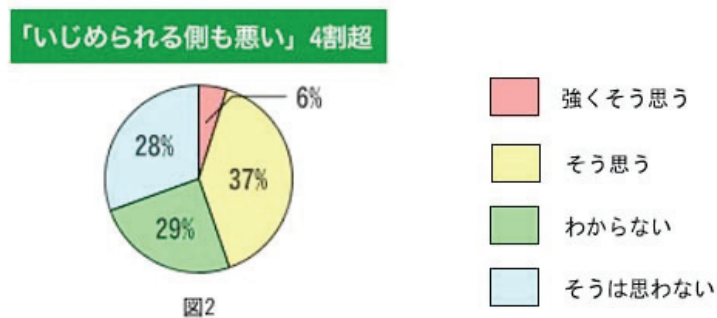
いじめは「いじめられている側も悪い」という考えに対して、あなたはどう思いますか？（図④）

回答

「強くそう思う」と「そう思う」を合わせると43%と「そうは思わない」の28%を大きく上回った。これは、上記の設問と相反するように思えるが、４割を超す人が、根強く「いじめ」を正統化する意識があることを示している。これについても、男女間、世代間の差があまりなかった。

[11] 『いじめ』に関するおとなの『声』アンケート／http://www.hiroshima-soka.jp/keisyou/ijime.html

図④

図2

この回答に対して、正直驚いた。いじめる側が、いじめられる側に、何らかの理由を感じたとしても、「いじめ」はしてはならない。もしいじめを受ける人にも問題があるという考えがあったら､それはいじめる側の口実になってしまうかもしれないではないのだろう。「いじめられる側は自身が問題があるから､いじめされてしまうのも仕方がないでしょう」ということになってしまう可能性があるのだろう。結局、いじめ側は自分の悪さがわからなくなってしまう。それはいじめを正当化ということのであろう。もし子供たちは「いじめをするのはどんな理由があっても悪い」というのがわからなかったら、いじめ問題の解決をより困難にするのではないだろうか。

もう一つの調査もいじめが正当化されていくのを表している。京都市教育研究所の調査によると、小学生、中学生ともに半数近くが､「理由によっては弱いものいじめは悪くない」と答えている。「理由によっては弱いものいじめは悪くない」この考えは根本的な誤りのではないだろうか。確かに様々な事例によると、いじめられっ子の性格普通はかなり内気、おとなしい、反応が鈍い、生意気などユニークな子ばかりだが、これらはいじめの理由にならない。つまり、「いじめている側が100%悪い」という価値観が普遍化しない限り、いじめはなかなか解決できないと考える。

そして、いじめの理由についてのアンケート（図⑤）[12]の結果によるといじめっ子はやはり「相手に悪いところがあるから」いじめするという答えが一番多いのだ。しかし、面白いのはただいじめを見るのみの観衆によって「相手に悪いところがあるから」という答えはただ36.6%しかないのだ。それは何を表しているのだろうか。なぜいじめっ子の答えと比べたらここまで大副に減少するのだろう。

[12] いじめ：教室の病い／森田洋司，清永賢二著、東京　金子書房　1994.7、P.63

図⑤ーいじめの理由

	相手に悪いところがあるから	おもしろいから	なんとなくいじめたくなるから	その他	計(%)
いじめっ子	65.5	10.2	20.4	3.8	100.0
観衆	36.6	38.2	17.6	7.6	100.0

それはやはりいじめっ子は自分のしていることは、「正当化されるいじめだ」という意識を持っているからではないのだろうか。「相手が悪いから、私はいじめます。」そんな考えがあるからこそ、別に相手が悪いところがあるかどうかも構わず、自分の行為を正当化するようにする。もしこんな考えを持つ子供たちが増えたら、いじめが絶対解決できなのではないのだろう。しかし、先に見た資料によると、このような考えを待つ人は実際は少なくない。いじめが正当化されていくのは今の日本社会の趨勢なのだろう。

「いじめられる側にも大いに問題がある」といういじめを正当化される考えをまず変わらないといじめ問題の解決は非常に難しいと思う。

しかし、ここまで書くと、一つの質問が湧いてくる。それはなぜいじめられる側は反抗しないのだろうか、ということだ。確かに「抵抗しなさい」」というのは、いうだけなら簡単だが、実際にいじめを受ける子にとって、抵抗することは非常に難しい。なぜかというと、前に書いたように、いじめはいつも親と教師が見えないところで生じる。だから、いつもいじめられっ子のそばにいるのは親でもなく、教師でもなく、いじめっ子なのだ。だから、相談しに行くと、もっといじめられるリスクを負わなければならないのだ。しかも、相談を受けても、ただの励まして、「自分で克服して成長していきなさい」程度のことを言われるだけだ。結局、リスクも負わなければならないし、役に立つ助けももらえないのだ。それに、いじめられっ子はいじめられたという被害意識をだんだん自分の中に膨らんでいく。しかも、相談もできないし、どこでも解消できない。その結果、登校拒否や自殺などな逃げるような行動になってしまう。

自殺に走った被害者がもちろんかわいそうだが、加害者のほうも深く傷つくと考える。なぜかというと、加害者の方は前に書いたように、自分の行動をすでに自分の中で、正当化している。つまり、自分がやってことはあまり罪悪感を感じていない。だから、自殺の被害者が出たら、初めて自分の行動はどのくらいひどかったのかが分かるのである。それはかなりのショックを受けるだろう。従って、被害者はなぜ抵抗しないのかを問う前に、まず加害者にいじめはどのくらい人を傷けるのかを教えたほうがいいのではないだろうか。

● 軽すぎる罰

いろいろないじめに関するニュースによると、いくら被害者が自殺してしまっても、加害者に対する罰はそれほど厳しくないそうだ。例えば、２００７年６月の福岡いじめ自殺事件によれば、加害者の三人の同級生が不処分こととした。そのニュースを読んだとき、正直にビックリした。罰はちょっと軽すぎるではないかと思える。しかし、日本の判例では従来は更正を前提としている少年法を根拠に未成年者の犯罪者にはたとえ凶悪犯であろうとも厳罰には処さないのが通例であったそうだ[13]。確かに、未成年の青少年に対して、更正するチャンスが大切であることには間違えない。だが、社会環境の変化によると、今の子供は昔のように単純ではないと思っている。精神としては大人に近いかもしれない。ずるい面もある今の子供たちに自分を反した行為に適当な罰が必要だと思っている。いじめることも同じだ。適切な罰を通して他の人の体と精神を傷つく行為は犯罪と同じなものと認識してほしい。そして、一つの判例に出たら、ほかのいじめっ子にも警戒することができるのではなかろうか。子供たちは自分の非行についてちゃんと認識したら、いじめもだんだん減っていくのではないかと考えている。

４．香港におけるいじめとの比較

日本のいじめ問題はだんだん深刻に行く一方、ほかのアジア国と比べたらどうなるのだろうか。私の出身地、香港と比べるとどうだろうか。香港では、いじめというのは、日本みたいにほぼ毎日ニュース、新聞に繰り返すことは全然ない。いじめで自殺してしまう子供もあまり聞いたことがない。学校内のいじめは当然あると思うが、大きな騒ぎになる程度ではない。正直にいうと、「いじめ」という言葉、香港にはめったに聞いたことないので、広東語でどうやって翻訳するのもちょっと迷った。しかし、よく考えてみれば、香港の社会現状は実は日本とそんなに異なるとも思えない。

例えば、香港の受験地獄もとても有名であり、イギリスから残ったエリート制度も今まだ健在している。ストレスといえば、日本の子供たちとそんなに違わない。そして、学歴も絶対的な存在である。家庭構造から見ると、核家族もだんだん増えていく。では、ここに問題が出てきた。社会状況、家庭構造もなかなか似ている日本と香港はなぜいじめ問題の深刻さはそんなに違うのだろう。

私の考えではあるがによると、それはやはり考え方に関わるのではないだろうか。香港は 1997 年まで、長く前にずっとイギリスによって支配されてきた。そのため、考え方も西洋西方に似ていると思っている。個人主義的なのである。個人主義の定義は、辞書によると「国家・社会の権威に対して個人の意義と価値を重視し、その権利と自由を尊重することを主張する立場や理論がある」[14]。西洋的な西方の個人主義的な社

---

[13] フリー百科事典『ウィキペディア（Wikipedia)』
[14] 大辞泉 増補･新装版（デジタル大辞泉）／監修：松村明

会の下したで育ってきた香港人は割りと強気のではないかと考えている。そして、日本のいじめ事件から見たら､いじめられっ子はいじめられたらすぐ自分がどこか悪いのでいじめされてしまうという消極的な考えをつい持っているそうだ｡反抗もあまりしない。逆に、香港の人なら、いじめされたら、たぶん自分が他の人より優れていて､嫉妬されてしまういので、いじめられると考えるのではないだろうかでしょう。そのためだから、日本に来てからたら、毎回いじめのニュース見ると、なぜ子供が抵抗反抗しないのがすごく不思議であった｡そして､時々遺書にいじめっ子にごめんと書いてあることもあった。不思議で仕方がない。私は、どのように考えても､いじめる側が悪いと思っている。日本は加害者の方に甘いのではないかと考える。香港なら、どうなるのだろうか。しかし、いじめに関する判例が見つからないので、なんとも言えない。ただ、強気な香港人なら、軽すぎる罰が出たら、絶対誰か抗議しに行くであろう｡自分の意見をちゃんと表すのも香港の人の性格の一つである。

　このように考え方と性格の違違いもう上に､いじめが発生する確率にも影響するといえようがあると思える。ストレスはあるが､きちんとそれを家族や友人などに話せるため､別に溜まりすぎることもない。いじめられても､別に自分のせいにしない。抵抗などをしたり、精神的に相手に勝つこともできる。それは香港人の特徴だと思う。したがって、社会状況と家庭構造が日本と似ても、考え方が違うため、いじめ問題もさほどひどくないのではないだろうか。

結論

　いじめという問題は、決して簡単に解決するものではない。親、教師、子供たち自身、協力し合わないといじめは延々続いているのではないだろう。しかし、現実的にみれば、「助ける」あるいは「協力する」というのは簡単だか、実際に非常に大変なことであろう。だから、少しずつ進めばいい。まず、一番重要なのは、やはりいじめに対する考え方を変えないといけないのではないだろうか。いじめる方もいじめられる方も悪いという考え方はまずありえないと思える。やはりどう言ってもいじめる方が完全に悪いと考える。こういう考えはきちんと子供に伝えれば、いじめは少なくなるのではなかろうか。もちろん、大人たちもこういう考え方を持っていなければならない。陰湿ないじめが増えていく現状に対して、いじめる方の言い訳をきちんと認識した上で、日ごろの観察と当事者以外の言動も考慮しつつ適切に判断するのが必要である。適切な判断で、そして加害者に適切な罰を与え、少なくとも他のいじめっ子に注意できることが可能になるのでなはなかろうか。「こういうことをしたら、こんな罰を受けるよ」というメッセージをちゃんと子供に伝えるのもとても大事だと思う。こういう方向に少しずつ力を入れて進めば、いじめもだんだん少なくなるのではないだろう。

参考文献

1. 大辞泉 増補･新装版（デジタル大辞泉）／監修：松村明
2. いじめ：教室の病い／森田洋司，清永賢二著、東京　金子書房　1994.7
3. 「『義務教育に関する意識調査』結果の速報（概要）」文部科学省（2005 年 6 月）
4. いじめ：見えない子供の世界／箭内仁（ほか）共著　東京　慶應通信　1986.3
5. 学校ｽﾄﾚｽの深層 ： いじめ問題の背景を探る／井上敏明著　京都　世界思想社　1986.5
6. 登校拒否のｻｲﾝと心の居場所 ／坂本昇一著東京　小学館　1993.9
7. 文部科学省　生徒指導上の諸問題に関する調査研究会報告書（平成 17 年 6 月）
8. いじめ自殺／http://yabusaka.moo.jp/ijime-jisatu.htm
9. 『いじめ』に関するおとなの『声』アンケート／http://www.hiroshima-soka.jp/keisyou/ijime.html（2007 年 1 月閲覧）

現代日本語の若者語の研究

黎　斯琳（レイ・シリン）

1.　はじめに

「平成１４年度　国語に関する世論調査」によると、約８割の回答者が日本語は乱れていると答えた。そして、読売新聞の調査によれば、乱れの原因として「意味のわからない流行語や新語が多い」、「若者の話し言葉で意味のわからないものが多い」、「敬語が適切に使われていない」などが挙げられている。つまり、日本語の乱れの主因の一つが若者語だと思われているのである。しかし、言語は時代とともに変わっていくものである。元は若者語だったものが、世間に認められて普通に使われるようになった例も少なくなく、若者語は言語が変化する過程の中で欠くことのできない要素である。本レポートでは、若者語の歴史と現代の若者語を調査し、若者語の変化について研究したいと思う。

2.　若者語の定義

米川（1997）[1] によると、若者語というのは、中学生から 30 歳頃までの若い世代、特に学生や OL が、仲間内で使う、いくつかの特徴を持つ特有の語や言い回しである。人は何かの集団に属している。そして集団の存在するところには、集団語が存在する。若者語は集団語の一つであり、親しい仲間内の言葉である。それゆえ、隠語的、暗号的で、ヨソ者にはわからないという特徴を持っている。本レポートでは、若者語を米川の定義に基づき、中学生から 30 歳頃までの人々が使う言葉として取り扱う。

3. 若者語の歴史

明治：女子学生―てよだわ言葉（あたいいやだわ・見てよ）、男子学生語（失敬・無礼千万）、
　　　　外来語の借用（ミス・ワイフ）、る言葉（バイオる・エンビる）
　　男子学生―書生言葉（フレンド・たまえ）、寮の言葉（コンパ・万年床）
大正：女子学生―遊ばせ言葉（ごきげんよう・恐れ入ります）、人に関する隠語（エス・おめ）、男子学生語の借用（とても・猛烈）、荒いぞんざいな言葉
　　男子学生―ドイツ語づけ（ドッペル・エトバス）
1945 年以降：女子学生―巧みな造語（MMK・ロンパ）、人の評価語（エッチ・H 型）、外貌・服装を表す語（シミチラ・ヘヴン）
　　男子学生―ドイツ語（ゲルピン・キッセン）、麻雀・パチンコ用語（ジャン魔・ガチャ万）、犯罪隠語の借用（ヤバイ・スイバレ）、アプレ語（トンデモハップン・ネバー好き）

---

[1]米川明彦『若者ことば辞典』（東京堂出版 1997.3）

男女共通―感嘆詞（キョウイ・キゼツ）、省略語（エネロス・シクル）、
る言葉（デブる・ソバる）、外来語を用いた混交（モチコース・デポテ）、意味の転用（浪人・東大）

1960 年代：男子主導の言葉、学生運動用語（代々木・ひよる）、フーテン用語（ラリる・トロる）

1970 年代：女子の言葉が中心になる、言葉への不信から意味不明語と言葉遊び、
スケバン用語（ツッパル・まぶい）、女子高生・女子大生の性関係用語（移動大使・体制）、人をマイナス評価する語（ダサイ・メルっ子）、形容する語（ムズイ・きもい）、野菜語（ピーマン・トマト）、深夜放送から出た遊び言葉（ノーキョー・おやくろ）、OL 言葉（シンジケート・ブリーチ）

1980 年代：言葉遊びが盛んになる、言葉が娯楽の手段になる、
会話のノリを重視した言葉、若い女性の言葉が元気

1990 年代：言葉の暗号化・隠語化、女性が男性を馬鹿にした言葉（アッシー君・赤丸君）、アップトーク、～じゃあないですか、コギャル語（オール・こくる）、新たな比喩表現（～入ってる・～って感じ）

米川（1998）[2]によると、明治時代前半に西洋文明を受け入れ始めたことや女子が教育を受ける機会が増えたことなどがきっかけとなって、若者語が生まれた。男子学生には外国語を振り回す言葉と「僕、君、貴様」など「書生言葉」が使われていた。女子学生には「～てよ」、「～だわ」など下品と非難される「てよだわ言葉」が広がり、男子の学生語や外来語も使われていた。

大正時代から昭和初期までは、学校の履修科目の一つだったので、ドイツ語が男子学生の間でよく使われていた。女子学習院の学生は東京の華族の婦人、少女が日常使っていた言葉、例えば「ごきげんよう」、「恐れ入ります」などを「遊ばせ言葉」として使っていた。そして、人に関する隠語、男子の学生語もよく使われていた。

1945 年に戦争が終わり男女共学が始まると、感嘆詞、省略語、「るを語尾につけて動詞を作る」る言葉など男女共通の学生語も増えてきた。また、女子学生の言葉には巧みな造語、人、特に男性の評価語、外貌・服装を表す言葉が増え、男子学生には当時流行っていた麻雀・パチンコの用語も使われていた。犯罪隠語も不良により学生語に入った。

1960 年代は学生運動が激しい時だったので、男子主導の荒々しい言葉と学生運動用語が多かった。「フーテン」もこの時に日本に紹介されて、アメリカのヒッピーを真似する「フーテン族」の言葉も学生語の中に入ってきた。

1970 年代になると、女子大生が増加し、男子が学生運動の失敗で表から姿を消したこともあって、女子の言葉が中心になり、人をマイナス評価する言葉、形容詞、野菜語、OL 言葉などが流行るようになった。

---

[2]米川明彦『若者語を科学する』（明治書院 1998.3）

1980 年代の若者は、明るくておしゃべりでおしゃれと評価された。その時代は漫才ブームもあって、会話のノリがとても重視され、言葉遊びが盛んになった。

1990 年代は、ポケベルの大ヒットで若者語がさらに暗号化・隠語化された。女子中高生の遊びに関係するコギャル語、女性が男性を馬鹿にした言葉、「～入ってる」、「～系」などの新たな比喩表現もたくさん作られた。

70 年代から女子の言葉が若者語の中心になった。この傾向は今も続いていると見られている。

4. 現代若者語の発生

現代の若者語はメディアより大きな影響を受けていると考えられる。その一つはインターネットである。インターネットの普及により、日常の会話でだけではなく、インターネットでの会話でも特別な言葉が作られている。特に日本最大規模、利用者９００万以上の電子掲示板 2 ちゃんねるの影響がとても大きい。IT Media の調査によると 2 ちゃんねるの利用者は 50%以上が 30 代以下である。2000 年の西鉄バスジャック事件と 2004 年の電車男ブームで 2 ちゃんねると 2 ちゃんねる用語が非利用者にも注目されて、2 ちゃんねる用語が別の場所でも使われるようになった。ここに 2 ちゃんねる用語の一部を挙げる。

消防	小学生	厨房	中学生
工房	高校生	逝く	行く
乙	お疲れ様	おまい	お前
しる	～をしろ	人大杉	人多すぎ
コピペ	コピー・アンド・ペースト	儲	信者
外ゥー	タトゥー	マスゴミ	マスコミ
倒狂・頭狂	東京	逝印	雪印
海門	シーゲート	火狐	Mozilla Firefox
おわった	ｵﾜﾀ	逮捕	タイーホ
くわしく	kwsk	落ち着け	餅つけ

そして、若者に人気のある芸能人が使う特別な言葉も若者語になりやすい。例えば、漫画・アニメ好きで有名なアイドル中川翔子が自分のブログや出演番組で使っている、しょこたん語という独特の言葉は、最近若者の間でも流行っているそうである。以下はしょこたん語の例である。

～お・～だお	です・ます・だった・でした・だよの意味	りんぐ	現在進行を表す語
まんた	「ました」の意味。活用として「まんたった」に変化。	ギザ・ギガント	「超」の意味
ウレシス	嬉しい	カナシス	悲しい
カワユス	可愛い	モエルス	燃える、夢中になる
カッコヨス	かっこいい	らいらい	語尾に「お」をつけることにより挨拶として活用できる
キターッ!!、きたーッ!!	驚いたり嬉しかったりしたとき、感激した瞬間に発する言葉		

また、最近の人気バラエティ番組「はねるのトびら」の中に若者達が使う短縮語を紹介する「短縮鉄道の夜」というコーナーがある。このコーナーでは、新しい言葉だけではなく、比較的に古い言葉も紹介している。

『はねるのトびら』短縮鉄道の夜で紹介された短縮語
2007.04.09　放送分

ハネトビ	はねるのトびら	キムタク	木村拓哉
ファミレス	ファミリーレストラン	フユソナ	冬のソナタ
ワンピ	ワンピース	ジカチョウ	次長課長
ポテチ	ポテトチップス	フリマ	フリーマーケット
シモキタ	下北沢	ドラクエ	ドラゴンクエスト
ブラピ	ブラッド・ピット	キャミ	キャミソール
アケオメ	明けましておめでとう	タキツバ	タッキー＆翼
タナボタ	棚からぼたもち	スマスマ	SMAP X SMAP
メアド	メールアドレス	インパ	インパルス
ハンズ	東急ハンズ	ファンデ	ファンデーション
タカトシ	タカアンドトシ	ドリカム	DREAMS COME TRUE
ハナダン	花より男子	マンキツ	漫画喫茶
アジカン	ASIAN KUNG-FU GENERATION	エアコン	エアコンディショナー
エコ	エコロジー	ハセキョー	長谷川京子
パリコレ	パリコレクション	ナカメ	中目黒

ガバショ	頑張りましょう	ハリポタ	ハリー・ポッター
ツウハン	通信販売	アイルケ	愛の流刑地
ニコタマ	二子玉川	カメリハ	カメラ・リハーサル
ヤフオク	Yahoo!オークション	ワタオニ	渡る世間は鬼ばかり
イタメシ	イタリア料理	プリプリ	PRINCESS PRINCESS
スケボー	スケートボード	ヒルズ	六本木ヒルズ
カキコ	書き込み	バンプ	BUMP OF CHICKEN
パンプ	DA PUMP		

2007.04.12 放送分

プリクラ	プリント倶楽部	ポケモン	ポケットモンスター
アメフト	アメリカンフットボール	シャーペン	シャープペンシル
ミニスカ	ミニスカート	イタデン	イタズラ電話
チュウキン	駐車禁止	ファミコン	ファミリーコンピューター
アキバ	秋葉原	サンチャ	三軒茶屋
セリーグ	セントラル・リーグ	ジミヘン	ジミ・ヘンドリックス
モームス	モーニング娘。	シャメ	写メール
マツジュン	松本潤	アンミラ	アンナミラーズ
ガクサイ	学園祭	ドクモ	読者モデル
ヒサロ	日焼けサロン	メリクリ	メリークリスマス
テニプリ	テニスの王子様	スカパラ	東京スカパラダイスオーケストラ
ロンブー	ロンドンブーツ１号２号	ブラマヨ	ブラックマヨネーズ
オギヤ	おぎやはぎ	ウッチー	内田恭子
ナカミー	中野美奈子	チャクメロ	着信メロディー
ミスコン	ミスコンテスト	ヘリ	ヘリコプター
ポカリ	ポカリスエット	タワレコ	タワーレコード
エビタイ	海老で鯛を釣る	オスピー	おすぎとピーコ
ゴクツマ	極道の妻たち	メチャイケ	めちゃ^{2}イケてるッ！
ミスチル	Mr. Children	キシュヘン	機種変更
パンフ	パンフレット	ブラ	ブラジャー
トイプー	トイプードル	レッキリ	レッドホットチリペッパーズ

2007.05.01 放送分

アクセ	アクセサリー	コラボ	コラボレーション
ウラハラ	裏原宿	ゴマキ	後藤真希

ロイホ	ロイヤルホスト	ファミマ	ファミリーマート
サブカル	サブカルチャー	トリセツ	取扱説明書
ヒャッキン	百円均一	アポ	アポイントメント
ガムテ	ガムテープ	ゴクミ	後藤久美子
イトコン	糸こんにゃく	バイト	アルバイト
ビーサン	ビーチサンダル	キャパ	キャパシティー
ギブ	ギブアップ	エンレン	遠距離恋愛
イメチェン	イメージチェンジ	スタバ	スターバックスコーヒー
ケツメ	ケツメイシ	キンキ	Kinki Kids
ジュディマリ	JUDY AND MARY	マイラバ	MY LITTLE LOVER
レンジ	電子レンジ	ルイトモ	類は友を呼ぶ
アカプリ	赤坂プリンス（ホテル）	サプリ	サプリメント
セカチュー	世界の中心で愛をさけぶ	チカチュー	地下駐車場
オナチュー	同じ中学校		

2007.05.23 放送分

キャンギャル	キャンペーンガール	ミスド	ミスタードーナツ
リーマン	サラリーマン	パンスト	パンティーストッキング
ガムシロ	ガムシロップ	チャクレキ	着信履歴
ガチ	ガチンコ	ロベカル	ロベルト・カルロス
エレカシ	エレファントカシマシ	サザン	サザンオールスターズ
サンポ	サンポマスター	コメコメ	コメコメ CLUB
ボニピン	BONNIE PINK	モンパチ	MONGOL800
ケミ	CHEMISTRY	ラルク	L'Arc~en~Ciel
オダジョー	オダギリジョー	オザケン	小沢健二
マツケン	松平健	シムケン	志村けん
ルロケン	るろうに剣心	スラダン	スラムダンク
キャプツバ	キャプテン翼	ベルバラ	ベルサイユのばら
ロクブル	ろくでなし BLUES	ハチクロ	ハチミツとクローバー
ハガレン	鋼の錬金術師	こちかめ	こちら葛飾区亀有公園前派出所
メルマガ	メールマガジン	カシオレ	カシスオレンジ
アニソン	アニメソング	オタ	オタク
モンナカ	門前仲町	ヘソピ	ヘソのピアス
エクステ	エクステンション	デキコン	できちゃった結婚
リフレ	リフレクソロジー	メタボ	メタボリック症候群

ゴスロリ	ゴシック＆ロリータ		

2007.05.28 放送分

コンビニ	ゴンビニエンスストア	パイカリ	バイレーツ・オブ・カリビアン
イベサー	イベントサークル	ゴゴティー	午後の紅茶
オモサン	表参道	ハマアユ	浜崎あゆみ
ポテサラ	ポテトサラダ	タキクリ	滝川クリステル
グラドル	グラビアアイドル	ヤブヘビ	藪をつついて蛇を出す
マイミク	マイミクシィ		

2007.06.22 放送分

カジテツ	家事手伝い	デジカメ	デジタルカメラ
ホムペ	ホームページ	ドンキ	ドン・キホーテ
テツオタ	鉄道オタク	ソニプラ	ソニープラザ
サントラ	サウンドトラック	セタドウ	世田谷通り
ツナマヨ	ツナ&マヨネーズ	ジコマン	自己満足
ギョタン	魚群探知機	ニシオギ	西荻窪
レミオ	レミオロメン	ホコテン	歩行者天国
タベホ	食べ放題	スギリョウ	杉良太郎
ストツー	ストリートファイターⅡ	シッタカ	知ったかぶり
パケダイ	パケット代	トウダイ	東京大学
キョウダイ	京都大学	アオガク	青山学院大学
ジンダイ	神奈川大学	メット	ヘルメット
カラコン	カラーコンタクトレンズ		

2007.07.09 放送分

グラデ	グラデーション	ノースリ	ノースリーブ
オキッパ	置きっぱなし	チャゲアス	CHAGE&ASKA
ダンチ	段違い	ヒトリ	劇団ひとり
デコメ	デコレーションメール	カラメ	空メール
スキマ	スキマスイッチ	シャホチョウ	社会保険庁
ユウジュウ	優柔不断	マツキヨ	マツモトキヨシ
チュート	チュートリアル	ブル	ブルドーザー
メルトモ	メール友達	サトエリ	佐藤江梨子
ドンペリ	ドンペリニヨン	ボイパ	ボイスパーカッション

イケメン	イケてるメンズ		

5. 現代における若者語の特徴[3]

若者語は仲間内の言葉である。職場語・職業語・業界用語と同じで、関係者以外の者が聞いてもわからない。若者語はヨソ者が聞いてわからない、隠語めいた言葉でもある。

また、若者語は会話促進・娯楽・連帯などのために使われる言葉である。その中でも会話促進と娯楽のために使用されることが最も多い。会話促進に関しては、80 年代から会話の「ノリ」が重視されるようになり、またテンポ良く話すために省略語が多用されるようになった。娯楽に関して言えば、笑いを取るために珍しい語形、突拍子もない転義の語が使われるようになったことを挙げることができる。若者語は一言で言えば会話の「ノリ」のための言葉だと言える。

規範からの自由と遊びも若者語の特徴である。現代の若者は自由を主張し、言葉の規範からも自由に新たな語を造り出し、新たな意味と用法で使っている。自由だからこそ、言葉に縛られることなく、逆に言葉で遊んでみせる。若者語は平和な社会で遊んでいる人々の言葉である。

6. 流行と若者語

若者語はその時代の社会も反映している。参考に最近三年間の「新語・流行語大賞」の受賞語を挙げてみる。受賞語を見てみるとメディア、またマスコミの影響で選ばれた言葉が明らかに多い。メディアが新しい言葉を造り出し、若者がその言葉を取って使う。あるいは若者が造り出した言葉をメディアが広げる。メディアと若者語はお互いに影響し合ってきたと言える。

新語・流行語大賞[4]

2006	
イナバウアー	トリノオリンピックのフィギュアスケート金メダリスト、荒川静香の得意技。上体を反らした独特のポージングが話題に。本来は両足の爪先を外側に大きく開いて横に滑る技。体を反らせることをさすわけではない。
品格	藤原正彦著『国家の品格』の爆発的な売行きとともに広まった。氏は「論理よりも情緒を」と、日本人が備えていたはずの品格について説き、「儲かれば何でもよい」というマネーゲーム全盛の世の中に一石を投じた。
エロカッコイイ(エロカワイイ)	ボンデージにバニーガール、下着など、際どい衣装で一

[3]米川明彦『若者ことば辞典』(東京堂出版 1997.3)
[4]新語・流行語大賞　http://www.jiyu.co.jp/singo/

	気に人気者になった倖田來未。彼女のセクシーな衣装やスタイルは、「カッコイイ・カワイイ」ファッションとして認知され、肌を露出する女性が増加した。
格差社会	これまでの「一億総中流」が崩れ、所得や教育、職業などさまざまな分野において格差が広がり二極化が進んだといわれる。市場原理を重視し、改革・規制緩和を進めた小泉政治の負の側面との指摘もある。
シンジラレナ〜イ	2006年のパ・リーグを制した際に、日本ハムファイターズのヒルマン監督がお立ち台でこう絶叫。その後、日本一にも輝き、やはりインタビューの際に「シンジラレナ〜イ」を披露。スタンドのファンは大いに沸いた。
たらこ・たらこ・たらこ	キューピーのＣＭに登場する「たらこキューピー」が、少し気持ち悪いキャラながらも人気を集めた。小学生ユニット・キグルミが歌うＣＭソングはＣＤ化され、オリコン初登場で２位に入るヒットに。
脳トレ	簡単な計算や音読などで脳の活性化をはかるトレーニング法の通称。「脳を鍛える」という言葉とともに普及し、脳トレの結果、自分の脳年齢がいくつになったかを知るというゲーム感覚が受けている。
ハンカチ王子	2006年夏の甲子園を沸かせた早稲田実業の斎藤佑樹投手の通称。持っていた青いハンカチ(ハンドタオル)で汗を拭うその姿と爽やかさが世の女性を虜に。その後、ハンカチで汗を拭うパフォーマンスが流行した。
ミクシィ	日本で最大の会員を獲得(2006年9月時点で570万人)したSNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)。なお同社の笠原健治社長をはじめ、はてなの近藤淳也社長らはIT界の新世代の意で「ナナロク世代」とよばれている。
メタボリックシンドローム(メタボ)	代謝症候群、内臓脂肪症候群とも。肥満に高血圧、高血糖、高脂血症などが重複して発症してる状態で、心筋梗塞や脳梗塞になりやすい。へそ周りが男性は85cm、女性は90cm以上ある場合は内臓肥満が疑われる。

2005	
小泉劇場	2005年9月の衆院選は、小泉首相の意図するせざるに関わらず「造反」「刺客」「くのいち候補」の登場、郵政民営化問題に絞られた単純な争点などにより、さながら「小泉劇場」の態をなした。その結果「小泉一人勝ち」。

想定内（外）	ライブドア堀江貴文社長が、その負けず嫌いな性格からフジVSライブドア騒動の中で連発した。簡単な言葉に翻訳すれば「そんなことわかってますよ」。
クールビズ	2005年夏、政府が主導した軽装運動。ネクタイを外し、上着を脱ぐことで、冷房の温度設定を上げようというもの。ネクタイ業者に配慮したためか、秋口からはウォーム・ビズが提唱されている。
刺客	2005年9月の衆院選、小泉首相は、郵政造反組の自民党候補者に対し、造反を理由に公認を与えず、対立候補を立てた。綿貫民輔、亀井静香、堀内光雄、小林興起などに当てられた強力候補は「刺客」とよばれた。
ちょいモテオヤジ	岸田一郎編集長率いる月刊ファッション雑誌『LEON』（主婦と生活社）が繰り出すコピー群とその周辺文化。02年に特集された「モテるオヤジの作り方」を皮切りに30〜50代男性に向け「チョイ不良（ワル）オヤジ」などのフレーズを生み続けている。
フォーー！	お笑いコンビ・レイザーラモン(住谷正樹と出淵誠)の住谷がハードゲイに扮し、レイザーラモンＨＧとしてテレビに登場したところ大ブレイク。独特の腰の動きを真似して親に頭をたたかれる子どもが続出。もちろん子どもの答えは「ＯＫわかりましたフォーー！」。「フォー」（正確には「フー」）はその持ちネタ。
富裕層	「金持ち」という名称に阿漕さが臭うため「高額所得者」と言い換えられ、さらに色を薄めた「富裕層」になった。
ブログ	ウェブログ(Web-log)の略称。従前よりは格段に容易に、また低コスト(ときに無料）で、個人がウェブ上に日記や写真等を公開・更新できるため大人気。他のブログと連携するトラックバックなど機能も十分。
ボビーマジック	2005年プロ野球日本一に輝いた千葉ロッテ・マリーンズのボビー・バレンタイン監督の采配、選手起用等への賛辞。ロッテナイン（とりわけ前任時に育成された選手や今回抜擢された若手）を指してボビーチルドレンとも。
萌え〜	「ある事物に対して、深い思いを抱く」ことをさす「萌え」は、2005年にはおたく世界を越え、かなり一般化。萌え業界、萌え銘柄、もえたん、萌え株本、萌え属性などさまざまな使われ方をしている。

2004	
チョー気持ちいい	8月15日のアテネ五輪2日目。男子100メートル平泳ぎで金メダルを獲得した北島康介選手がプールから上がって述べた感想。優勝を確実視されたプレッシャーからの解放感を素直に吐き出したものだが、ゴール直後には1位かどうかわからず「応援席の盛り上がりを見てとりあえずガッツポーズ」と裏話を披露。

気合だー！	ボディビルポーズで前傾姿勢になり、顔をクシャクシャ(一生懸命な感じ)にして「気合だ～！」と心の底から叫ぶ。娘の浜口京子選手をアテネ五輪へ送り出すとき、成田空港で 10 回連続で叫んだ。数年前より、すでに浜口氏のトレードマークであったもの。
サプライズ	英語 surprise は「びっくりさせる」の意味だが、小泉首相に関しては単なる「サービス」の意味で使われる。第 1 次内閣から田中眞紀子外相など組閣にあたって意外な女性を採用。このコトバは拡大解釈され 2004(平成 16)年 7 月の参院選前に突然訪朝してジェンキンスさんを返せと金正日総書記に迫った行動なども、小泉流サプライズ。同年 9 月の第 2 次組閣ではついに「ノーサプライズ」とがっかりされる始末。
自己責任	本来はリスクをとって行動した者が自ら「結果責任」をとることをいうが、最近では責任を転嫁する際にしばしば用いられている。特に自己責任という言葉が頻繁に用いられたのは、2004(平成 16)年 4 月、戦闘が続くイラクで発生した武装グループによる日本人人質事件のときだった。3 人の日本人人質に対して自己責任という言葉が向けられたのだ。政府の勧告を無視してイラクに向かったのだから、自業自得だという議論だった。彼らが果たそうとしたイラクの子供たちへの支援や真実の報道という尊い目的は無視され、政府に迷惑をかけたことだけがクローズアップされた。全体主義の下で、自ら考え、独自の行動をした人を切り捨てるための言葉が自己責任となってしまった。
新規参入	近鉄・オリックスの合併で 5 球団となったパ・リーグに、新たにライブドアと楽天が参入を表明。業種は両者とも IT 関連の情報産業。おまけにライブドアが仙台・宮城球場を本拠地と定めたのに続き楽天も同球場を指名したために NPB 側は受け入れる 1 社をどちらかに決めなくてはならず、公開ヒアリングを開き選定を急いだ。結果は 2004 年 11 月 2 日のオーナー会議で楽天に決定となった。
セカチュー	2001(平成 13)年 4 月に発売された片山恭一の小説『世界の中心で愛をさけぶ』が、村上春樹の『ノルウェイの森』の 238 万部を抜いて小説過去最多部数に。04 年

	6 月時点で 306 万部。柴咲コウ、大沢たかお主演で映画化され、興行収入歴代ベスト 10 入り。ＴＢＳが 7 月の連ドラに。初恋の人が白血病という純愛ストーリーブームのはしりとされる。なおタイトルはハーラン・エリスン著のＳＦ『世界の中心で愛を叫んだけもの』にオマージュを捧げたアニメ『エヴァンゲリオン』の最終回(同名)にオマージュを捧げたもの。
中二階	次期リーダーのポジションにいながら、いまひとつ影がうすい自民党の有力者、具体的には平沼赳夫前経済産業相、古賀誠元幹事長、高村正彦元外相、麻生太郎総務相のビミョーさを表現したことば。小泉首相が使って脚光をあびたが、考案者は自民党若手で世代交代の切り込み隊長、山本一太参院議員。実に言い得て妙。
って言うじゃない…／○○斬り！／…残念！！	って言うじゃない： ギター侍こと波田陽区（本名：波田晃）が、ギャグの転調時にはさむ言葉。着流し姿でギター一本を持ち現われる波田は、物憂い目つきで流行を取り上げ、ヨン様「って言うじゃない」と歌い、続けて「残念!!」と切り返す。「ヨン様と結婚したら、名字がぺだから、残念！」、と斬る。日テレ『エンタの神様』出身。 残念!!： 着流しにギター姿という風貌の芸人・波田陽区(ギター侍)が、漫談の切れ目あるいはオチに用いる常套句として人気が出た語。「残念!!」が向けられるのは辛めのトークで“斬られた”人物。
負け犬	「30 代、非婚、子なし」を女の“負け犬”と定義したコラムニスト酒井順子のベストセラー『負け犬の遠吠え』からきている。映画『結婚しない女』(アメリカ・1977 年)で輸入されたシングルズ・ウーマンという生き方と、「エンゲージリングは給料の 3 カ月分」と煽った玉姫殿が作り上げた 3 高結婚との、20 数年に及ぶ対立への回答。松原惇子の『クロワッサン症候群』はメディアを恨み、谷村志穂の『結婚しないかもしれない症候群』はとまどい、林真理子の『花より結婚きびだんご』は決定的な本音とされたが、酒井は好んで「負け」ポジションをとることによって安穏と結婚生活を送り、子なしを批判する主婦をおとしめた。見事な戦略

	に、負けたらどうしよう、と本気で悩む女性たちも。
冬ソナ	2002年1月から3月に韓国ＫＢＳテレビで放送された人気ドラマ「冬のソナタ」は、日本でも03(平成15)年4月からＮＨＫ－BS2で放映され、好評を博した。そのため、04年4月からはＮＨＫ総合テレビでも放映され、最高15%の視聴率を記録した。純愛物語や映像の美しさが中年女性層の強い支持を受け、同年6月には日本経済新聞社が「ヒット商品番付」西の大関に主演の「ヨン様」(ペ・ヨンジュン)を選定した。ドラマ挿入歌は日本語に翻訳され、ドラマの舞台が韓国観光の目的地になった。「ヨン様」が来日した際には、羽田空港に7000人ものファンが押し寄せる騒ぎになるなど一種の社会現象となった。ペに加えて、イ・ビョンホン、チャン・ドンゴン、ウォンビンは「四天王」と称され、「韓流」の象徴的存在となった。 韓流： 中国語。「はんりゅう」と発音。1990年代末、中国語圏で韓国製のドラマや映画、音楽が流行し、こうよばれた。日本では映画『シュリ』(99)に続く『冬のソナタ』(冬ソナ)、ＢｏＡなど韓国歌手のヒットなど合わせてブームに。『冬ソナ』は韓国で70年代に大流行した『キャンディキャンディ』がお手本だそうな。

7.　まとめ

近代の日本は個人の解放、自由を求め、さまざまな束縛や規範から自由になりたがっていた。この思いは言葉の面にも求められ、新しい言葉が生まれた。若者語は日本の近代化の産物と言え、若者語の歴史は言葉の自由と遊びの歴史と言える。

明治時代から戦後頃までは、若者語は学生を中心とした、ほんの少しの人にしか使われない言葉だった。この時期の男子の学生語はエリートが持つ優越感のため、外国語をやたらと振り回していたことが特徴的である。また、彼らに負わされた将来の指導的立場に拘束され、言葉に遊びがほとんど見られず、原義のまま使用していたことに、時代の制約が見られる。

男子の学生語と違って、この時代の女子の学生語は下町の女の子が多数入学したため、下品と非難された言葉を盛んに使い、良妻賢母教育に反発するかのように規範の「女らしさ」から自由であろうとする言葉遣いをした。また、国家とは無縁の女学生達の間では、

言葉の遊びが盛んであった。

60 年代は学生運動の時代で、言葉に遊びや笑いがあまり見られなかった。学生運動の挫折により、言葉への不信と言葉の意味が失われていたことは 70 年代の若者語の特徴になった。この時代から、女子の言葉が中心となっていく。

80 年代からは消費文化が始まり、特に OL・女子大生はそのターゲットになった。この時代の若者語は遊びが盛んになって、会話の「ノリ」が重視されていた。また、若い女性の言葉が非常に元気が良く、若者語と言えば女性の言葉を意味するまでになった。

90 年代は 80 年代に進んだ会話の「ノリ」を楽しむことがさらに低年齢化して、女子高生が若者語の話題提供者になった。彼女達が造った「コギャル語」がマスコミによって広められた。

若者語はそれぞれの時代の背景とともに変化してきた。若者語を造ってきたのは若者達だけではなく、近代化によって個人の自由を追い求め、規範からの解放を追い求めてきた日本社会であろう。言葉の規範から脱しようとして、言葉の遊戯化が起き、臨時的な勝手な言葉が生まれ、言葉が次々に造られる一方で、次々に捨てられていった。社会の平和、娯楽化の中で、言葉も緊張したものではなく、娯楽化したものとなり、言葉が遊びの対象となる現象が生まれた。現代の若者語はその流れの頂点にあると言えよう。[5]

参考文献

米川明彦『若者語を科学する』(明治書院 1998.3)
米川明彦『若者ことば辞典』(東京堂出版 1997.3)
中野 独人『電車男』(新潮社 2006.12)
ウィキペディア　http://ja.wikipedia.org/
新語・流行語大賞　http://www.jiyu.co.jp/singo/
２ちゃんねる掲示板　http://www.2ch.net/
しょこたん☆ぶろぐ　http://yaplog.jp/strawberry2/

[5]米川明彦『若者語を科学する』(明治書院 1998.3)

日本におけるマンガ文化
―マンガのマーケットとして見た日本―

呂　玲玲（ロ・レイレイ）

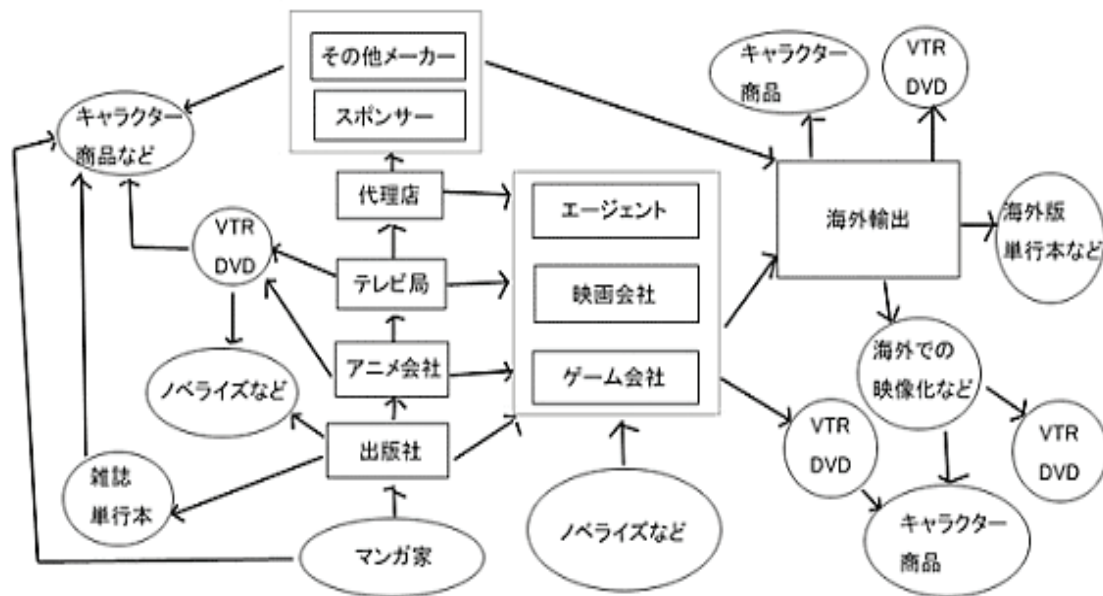
１．はじめに

マンガは日本人にとって、欠かせない存在である。生活の中でもよくマンガが見られる。マンガが日本で流行っているのはマーケットがあるためだ。

しかしながら、マンガは日本人にとって、必ずしも欠かせない存在ではなかった。マンガマーケットが始まったのは、実は戦後なのである。また、マンガマーケットは一気に拡大したわけでもない。当初マンガは戦後に生まれたベイビーブーマー、つまり子供向けだった。そして、時代の経過とともに、マンガマーケットは拡大し続けている。二十一世紀になり、マンガ産業は不振になったといわれているが、これからこの産業はどのような方向に向かうのか、このレポートを通じて考察したい。

２．マンガマーケットの歴史

マンガマーケットの構造と規模

図１　マンガコンテンツの広がり

『マンガ産業論』より[1]

1　中野晴行著：『マンガ産業論』（埼玉：筑摩書房、2004）P79

マンガの原稿は雑誌に載せられて、そして二次使用として単行本が発行される。アニメ化されれば、放映しているテレビ局はスポンサーから広告収入が入る。スポンサーはアニメキャラクターを使った商品で稼ぐ。人気の高い作品は劇場化アニメで興行収入が入る。収益を上げることができるマンガ市場はかなり広いのだ。

テレビの役割とマンガマーケットの拡大

一九五三年、テレビが登場した。テレビにお客を奪われた一方、テレビのお陰で、マンガマーケットが拡大し、また、テレビ・アニメはマンガの認知度を高めた。テレビがマンガに火をつけた。テレビの普及と同様、視聴者の購買力も上がった。このようにして、六十年代に、テレビは新しいメディアとして、マンガを産業化したのである。

ジャンル

戦後、四十年代後半から五十年代、手塚治虫によって「ストーリーマンガ」が誕生した。ストーリーマンガとは、ストーリーが映画的手法で描かれた複雑な物語である。五十年代半ばから六十年代前半には、「劇画」が誕生した。劇画とは荒い線、黒い画面、現実に近いストーリー展開で描かれた物語である。『マンガ産業論』によると、六十年代から、子どもは自分の小遣いでマンガが買えるようになった。[2]そのころ、小、中学生も貸本マンガに夢中になっていた。貸本マンガは単行本、雑誌と違って、内容や表現が自由で、多様性があった。六十年代に入ると、少年週刊誌がそのスタイルを確立していく。雑誌の人気漫画が続々新書判スタイルで単行本化されるようになった。この時期、高校生や大学生を対象として、マンガの内容がさらに多様化した。ストーリーが複雑になって、人間の内面の闇や残酷描写などに広がった。七十年代半ば、「三流エロ劇画誌」が自動販売機などで販売され始めた。マンガの性的な表現がマーケットに受け入れられたことで、マンガの表現の幅はさらに広がった。七十年代後期、読者層が拡大したため、さまざまなジャンルが誕生した。例えば、マニア向けの耽美系、思春期世代向けの恋愛マンガ、大人向けのエロ系などが続々現われた。少年誌、少女誌、青年誌の雑誌タイトルも増えていく。さらに八十年代後半から、ジャンルは細分化していく。主流の少年マンガや少女マンガの他に、さまざまなマニア向けのジャンルが現れた。

売り上げ

六十年代半ばから七十年代まではマンガ産業のスタートラインだった。この時期、マンガ雑誌が続々と売れ、『週刊少年マガジン』の発行部数は百万部に到達した。マンガ雑誌の読者が高校生、大学生まで広がり、読者のコアが高校生、大学生に移ったため、読者の年齢層が上がった。この頃までには、マンガが子供の文化から対象を広げて、若者のカルチャーになっていた。青年コミック誌も大人の読者を対象として、大幅に伸びていた。

---

[2] 中野晴行著：『マンガ産業論』（埼玉：筑摩書房、2004）P33—34

七十年代前半、一時期少年誌の売り上げが低迷していた。大学生の読者が社会人になったからである。当時、マンガの社会認識がまだ低かったのだ。七十年代後半、マスコミや社会がようやくマンガを子供だけの文化ではないと認識し始めた。「三流エロ劇画誌」と呼ばれる大人向きの新ジャンルが現われた。そして、マンガ界の最大のイベントという「コミックマーケット（コミケ）」は一九七五年に始まった。雑誌に掲載された作品が二次使用として、積極的に単行本化され始めた。文庫マンガもこの時期に現われた。マンガマーケットはさらに広がった。マンガの読者がマンガだけの消費者ではなく、アニメも含めた周辺商品の消費者になった。

八十年代に入ると、マンガ読者のコアは七十年代の大学生から中高生に移ってきた。少年誌のロマコメ路線への移行とともに、少年誌と少女誌の読者のクロスオーバーもより進んだ。そして、八十年代に代表的なコンビニセブン・イレブンが開店し、販売チャンネルが多様化された。マンガ雑誌はコンビニの主要アイテムになった。このごろから、ロマコメの『サンデー』、ツッパリの『マガジン』とアニメとタイアップの『ジャンプ』という各誌のカラーがし始める。

八十年代後半から、バブル経済の下で、マンガ誌の創刊や売り上げが上がった。このころ、出版社側は大人の女性をターゲットとしたマンガ雑誌の細分化を進めていくことになった。マンガ読者の年齢上限は四十代に近づいた。少年誌の絵の上手さと美形キャラクターの人気が若い女性にまで至った。売れっ子マンガ家はマニア的なファンを獲得している。この後、雑誌は売れないのに、単行本が売れるという現象が見られるようになった。一九八九年、消費税がスタートし、そのため、マンガ雑誌の売り上げが下がった。読者は雑誌から単行本ではなく、ほとんどテレビなどのメディアから単行本に入っていく。そのため、雑誌の売り上げが落ちたのだ。

九十年代に、情報時代に入ったとともに、マスコミの影響力はバブル景気と相俟って、マンガの読者は増えてくる。そして、古書店ブック・オフが登場した。情報消費者の読み捨てをきっかけに、新たな中古品市場が登場したのである。このころ、親たちは、子供たちが読んでいるマンガ単行本が有害マンガだと訴え、書店では性的な表現が登場するマンガに「成年コミック」とマークを付けるようになった。

人気連載マンガが終わるとともに、読者はジャンプを卒業し、「日本一売れている雑誌」といわれる『ジャンプ』の売り上げ落ちてきた。『ジャンプ』を始め、他のマンガ雑誌の売り上げも同様に落ちてきた。その一方、この時期、テレビの影響力が強く表れた。アニメ化されたマンガの売れ行きが大幅に上がったのだ。話題になれたのは、やはりアニメ化、メディアミックス化された作品である。このころからマンガ作品を小説化、ゲーム化、アニメ化するなどの、いわゆるメディアミックスが一つの戦略要素になる。

３．マンガマーケットのシェア

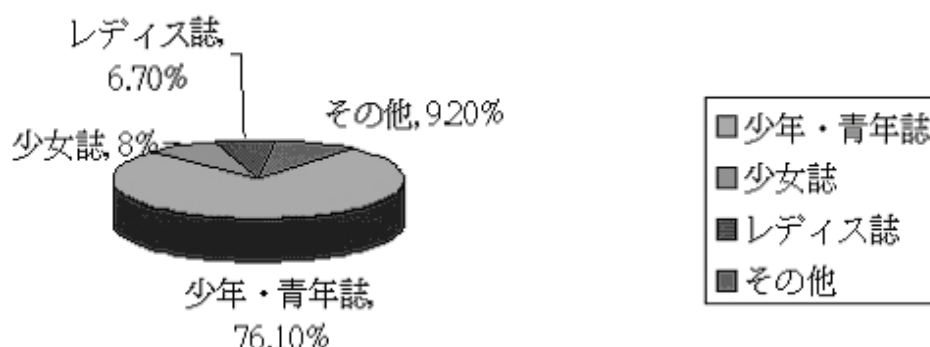
図2　2002年マンガ雑誌総発行部数（出版科学研究所調べ）

出版科学研究所によると、年間総発行部数でみれば、マンガ市場は主に少年誌、青年誌、少女誌、レディス誌、この四ジャンルによって占められている。少年誌の発行部数は四億八千六十三万部、青年誌は四億七千百十八万部で、少女誌、レディス誌と合わせ、マンガマーケットのおよそ九割を占め、[3]ほかのジャンルは僅か一割を占めているに過ぎない。これは細分化されたジャンル、例えば耽美系、美少女H、パチンコマンガなどが特定の読者層を狙っているためである。

表1　1991 年ふだん読んでいる雑誌ベスト１０

	男子	女子
小6	①　週刊少年ジャンプ	①　りぼん
	②　コロコロコミック	②　なかよし
	③　コミックボンボン	③　週刊少年ジャンプ
	④　週刊少年マガジン	④　明星
	⑤　6 年の学習	⑤　小学六年生
	⑥　ファミコン通信	⑥　6 年の学習
	⑦　ファミリーコンピュータ Magazine	⑦　ちゃお
	⑧　月刊少年ジャンプ	⑧　ひとみ
	⑨　週刊少年サンデー	⑨　ピチレモン
	⑩　6 年の科学	⑩　プチバースデイ
中3	①　週刊少年ジャンプ	①　明星
	②　週刊少年マガジン	②　SEVENTEEN
	③　月刊少年ジャンプ	③　りぼん
	④　週刊少年サンデー	④　Lemon
	⑤　月刊少年マガジン	⑤　週刊少年ジャンプ

3　中野晴行著：『マンガ産業論』（埼玉：筑摩書房、2004）P183

	⑥ CDでーた	⑥ なかよし
	⑦ ヤングマガジン	⑦ 別冊マーガレット
	⑧ ファミリーコンピュータMagazine	⑧ My Birthday
	⑨ ザ テレビジョン	⑨ マーガレット
	⑩ ファミコン通信	⑩ プチseven
高3	① 週刊少年ジャンプ	① non no
	② 週刊少年マガジン	② SEVENTEEN
	③ ヤングマガジン	③ 別冊マーガレット
	④ 週刊少年サンデー	④ an・an
	⑤ 月刊少年マガジン	⑤ 週刊少年ジャンプ
	⑥ 月刊少年ジャンプ	⑥ プチseven
	⑦ YOUNG JUMP	⑦ mc Sister
	⑧ Hot・Dog PRESS	⑧ Pop Teen
	⑨ ビッグコミックスピリッツ	⑨ PATI・PATI
	⑩ ザ テレビジョン	⑩ 別冊フレンド

毎日新聞社「第３６回学校読書調査」、月刊『創』編集部編1991より

毎日新聞社「第３６回学校読書調査」[4]の小学生から高校生のふだんよく読んでいる雑誌ベスト１０によると、女子が少年週刊誌を読むことがわかった。面白いことに少年誌を支えている読者の一部は女性である。その一方、少女マンガを読む男性はめったにいない。少女マンガを読むと「男らしくない」と考える男性が多いためだろう。それに対して、男性と比べると、女性は少年マンガに対して抵抗感が少ない。つまり、女性は男性より選択が多いのである。マーケットが主に少年・青年誌に占められているのはそのためだろう。

表２　子供がよく読む雑誌

	男子	女子
小4	① 月刊コロコロコミック	① りぼん
	② 週刊少年ジャンプ	② ちゃお
	③ Vジャンプ	③ なかよし
小5	① 月刊コロコロコミック	① りぼん
	② 週刊少年ジャンプ	② ちゃお
	③ Vジャンプ	③ なかよし
小6	① 週刊少年ジャンプ	① りぼん
	② 月刊コロコロコミック	② ちゃお
	③ Vジャンプ	③ なかよし
中3	① 週刊少年ジャンプ	① プチSeven
	② 週刊少年マガジン	② non no

4　宮原浩二郎、荻野昌弘編：『マンガの社会学』（京都：世界思想社、2001）P143

	③　週刊少年サンデー	③　SEVENTEEN
高３	①　週刊少年ジャンプ ②　週刊少年マガジン ③　週刊少年サンデー	①　non no ②　CUTIE ③　Zipper

毎日新聞社「読書世論調査」2001 年版より

表２によると、女子は中学生になると、マンガを読まなくなる。これは男子よりも早い。女性は三年おきに、読む雑誌が変わることがわかる。そのため、出版社は女性のニーズに応じて、マンガ誌を細分化している。男子はだいたい十年おきに、読む雑誌が変わることもわかった。小学生から高校卒業まで、ずっと同じ少年誌を読む人が多い。『マンガの社会学』によると、一九九五年時点で、少年誌が二十三誌であるのに対して、少女誌は四十五誌もある。[5]そういうわけで、女性向けのマンガ誌は発行部数と比べると、種類が多い。

学習研究社刊『小学生まるごとデータ/小学生白書二〇〇〇年～二〇〇一年』によると、小学生のお小遣いは六年生で平均八六九円。財団法人日本青少年研究所『中学生・高校生の日常生活に関する調査報告書』によると、高校生は三分の一が五千円から一万円のお小遣いをもらう。[6]そのため、消費力が一番あるのは中高生である。マンガマーケットのシェアの中心は中高生なので、少年誌のコンテンツも中高生を対象としたものが集中している。少年誌と青年誌は中高生の読者に集中しているので、子供が読む面白いマンガがだんだんなくなってしまう。このようにして小学生の読者は少年誌から離れていくのだ。

一九九九年十一月四日付けの日本経済新聞の夕刊には、「子供のマンガ離れ進む」という記事が出ており、子供の娯楽の中心が、マンガからテレビゲームに移り、特に小学生女子の関心の対象ではなくなってしまった点を報じている。[7]文学に比べればマンガはまだましだが、もしかしたら、現代の子供もマンガすら読まなくなるかもしれない。

そうすると、大人向けのマンガが手薄になってくれば、大人の読者も少年誌を卒業していくようになるのだろうか。

マンガ雑誌と単行本の相互関係

九十年代から、マンガマーケットは不振になり、マンガが売れなくなったといわれている。実は、売れなくなったのは単行本ではなくマンガ雑誌である。

5　宮原浩二郎、荻野昌弘編：『マンガの社会学』（京都：世界思想社、2001）P144
6　中野晴行著：『マンガ産業論』（埼玉：筑摩書房、2004）P188
7　宮原浩二郎、荻野昌弘編：『マンガの社会学』（京都：世界思想社、2001）P150

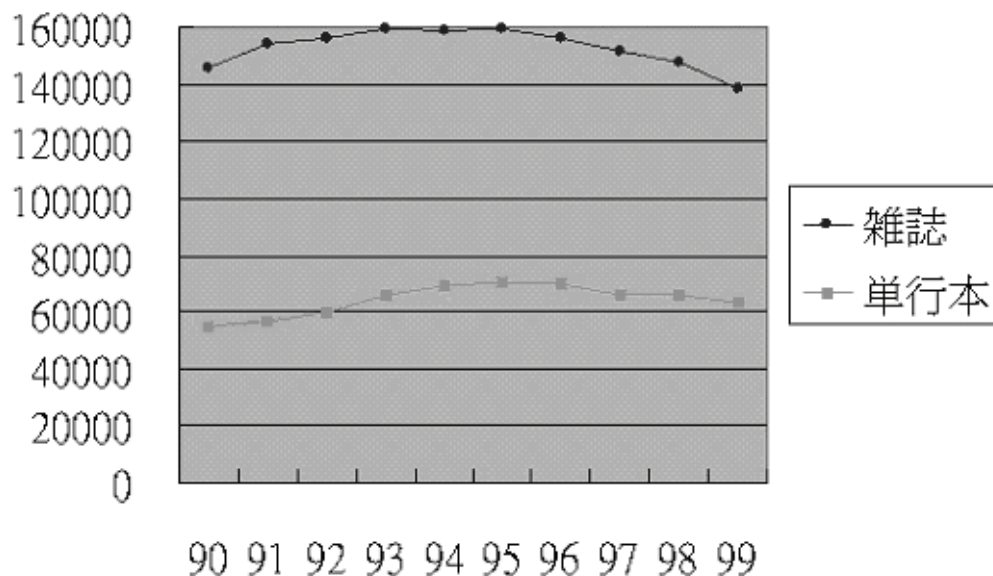
図３　1990～99 年マンガ雑誌・単行本の発行部数（万部）

（出版科学研究所調べ）

図３によると、一九九〇年と比べると、一九九九年の少年誌、青年誌、少女誌、レディス誌など、発行部数に減少傾向が見られるようになっていく。『マンガ産業論』によると、マンガ単行本の販売金額は出版科学研究所の調べで九九年が二千三百二億円。二〇〇〇年が二千三百七十二億円。二〇〇一年が二千四百八十億円。二〇〇二年が二千四百八十二億円と漸増している。[8]つまり、マンガ雑誌の減少傾向に反して、単行本は僅かではあるが伸びている。これは、長期連載の超人気作品が続々と終わるとともに、毎週目が離せないマンガがなくなったためだろう。しかも、中高生をメイン対象とした、マンガのコンテンツはさまざまあるが、特に優秀な作品は少ない。そういうわけで、マンガ雑誌は読み捨てになってしまう。毎週数百円で一度読み捨ての雑誌を買うより、十週ぐらい待って、自分が好きな作品の単行本を買ったほうがましだと思う人が多くなったのである。

マンガ産業の根本はマンガ雑誌である。マンガ雑誌が売れないと、マンガ産業はこれ以上発展が見込めない。雑誌を舞台として人気が集まらないと駄目である。テレビさえあれば、大ブレイクするマンガは生まれるかもしれない。しかし、マンガがアニメ化されるかどうかは、テレビ局のスポンサー次第なのである。彼等がまず見るのはその作品の人気度である。もしマンガ雑誌が売れなくなれば、多くの人の目に触れる機会が減り、作品はブレイクしにくくなる。マンガ雑誌と単行本はお互いに補完する関係なのである。

[8] 中野晴行著：『マンガ産業論』（埼玉：筑摩書房、2004）P210

マンガマーケットのメディアミックス展開

マンガを読まなくても、アニメやゲームや映画など見る人がいる。そういう理由からなのか、近年、マンガからドラマ化、映画化される作品が増えてきた。日本の出版業界における対応またマンガへの関心の経路を増やすため、マンガの映画化やドラマ化や小説化など、さまざまなメディアミックス展開が行われている。

中でも、特にドラマ化、映画化されるマンガ作品が増えてきた。yahoo！ニュース[9]によると、制作サイドにとって、コミック原作のドラマの安定した人気は好調な視聴率が確保できるという点で、とても都合がいい。というのも、コミック原作のファンは、かなり高い割合で視聴者になってくれるからである。また、人気コミックであれば、それだけで認知度も高く、一般の人にも興味を持ってもらいやすいと言っていい。確かに、マンガを読まない人でも、とても面白かったドラマや映画の原作がマンガであったことを知れば、そのマンガ作品に興味を持つようになる。それをきっかけに、マンガファンになるかもしれない。しかし、もし原作のイメージを損なうようなできであれば、そのドラマや映画の大ブレイクは期待できない。

日本貿易振興機構（JETRO）が二〇〇六年十月にまとめた調査レポート「日本の出版産業の動向」[10]によると、〇五年のマンガ単行本の販売は過去最高の二千六百二億円となった。これはアニメ化、映画化された『NANA』やテレビドラマ化された『花より男子』、『ドラゴン桜』といったヒット作が売上げを伸ばしたためで、前年比4.2%増。販売額の二千六百億円台乗せは初めてとなった。メディアミックスは必ずしも成功するとは言えないが、これからも、マンガ作品はドラマや映画の提供元として、続々と増えていくだろう。

４．おわりに

日本のマンガマーケットの今後の変化方向

六十年代に、テレビは新しいメディアとして、マンガ市場を産業化した。今はインターネット化、デジタル化の情報時代である。

単行本と違い、マンガ雑誌は保存性が低い。使い捨ての雑誌時代はそろそろ終わるかもしれない。その代りに、マンガがインターネットや携帯で配信される時代になるだろう。今のパソコンや携帯電話はたくさん機能を持っているので、そこにビジネスチャンスがある。そのような機能を活用するのに、コンテンツが必要だからである。マンガ雑誌のマーケットは縮小傾向にある現在、新しい市場を捜す必要がある。インターネットや携帯配信は新しいビジネスの場として有望である。

---

9 「コミック発の連続ドラマ、続々ヒット！の理由」（yahoo！ニュース）2006/10/27
<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20061027-00000019-oric-ent>

10 「産業レポート　日本の出版産業の動向」（日本貿易振興機構）2006/10
<http://www3.jetro.go.jp/jetro-file/BodyUrlPdfDown.do?bodyurlpdf=05001297_002_BUP_0.pdf>

参考文献

１． スーザン・Ｊ・ネイピア著：『現代日本のアニメ』（東京：中央公論新社、2002）

２． 木野評論：『文学はなぜマンガに負けたか！？』（京都：青幻舎、1998）

３． 中村正史編集：『AERA COMIC ニッポンのマンガ 手塚治虫文化賞１０周年記念』（東京：朝日新聞社、2006）

４． 中野晴行著：『マンガ産業論』（埼玉：筑摩書房、2004）

５． 宮原浩二郎、荻野昌弘編：『マンガの社会学』（京都：世界思想社、2001）

６． 森永卓郎著：『萌え経済学』（東京：講談社、2005）

参考サイト

１．「コミック発の連続ドラマ、続々ヒット！の理由」（yahoo！ニュース）2006/10/27
<http://headlines.yahoo.co.jp/hl?a=20061027-00000019-oric-ent>

２．「産業レポート日本の出版産業の動向」（日本貿易振興機構）2006/10
<http://www3.jetro.go.jp/jetro-file/BodyUrlPdfDown.do?bodyurlpdf=05001297_002_BUP_0.pdf>

日本とベトナムの親の愛に関する
ことわざの対照比較研究

ホアン・マイ・トゥ

０．はじめに

ことわざは、言うまでもなく，その国や社会や民族の文化を反映するものである。特に，長い歴史や豊かな文化を持っている世界の国々で、ことわざは日常生活に欠くことができないものである。

私は研修生として日本語日本文化の勉強のなかで､特に日本語表現の特別演習のなかで、日本のことわざとベトナムのことわざの間の違いや類以に興味を持ってきた。それで、このようなことわざの対照比較研究をすることにした。

ところで､「ことわざ」の意味は何だろうか｡『事情ことわざの事典』(小学館) によると、「ことわざ」の「こと」は言葉で､「わざ」は神業、離れわざと同源で、行為やはたらきを意味するものと思われる。「言葉のわざ」が「ことわざ」の本義だそうである。

日本のことわざには中国、西洋に由来するものも含んで長い歴史を通じて言い伝えられてきた約一万五千個があって、豊かなことわざの財産を持っている。その中でも、欠けてはいけない部分は親子関係のものである。なぜかというと、日本は他の東方の各国と同じで、倫理、人間関係を重んじる社会だからである。

そこで､今回は日本とベトナムの親の愛に関することわざを以下のような項目に分けて、対照比較してみることにする。

１．親の愛は一方的

一般的に親の愛は子供に対して一方的なものと言えるが､ことわざには次のようなものが見られる。

（V１）Con liền với ruột

（子は親の腸につながる）

ベトナム語で､腸を意味する「ruột」という言葉は気持ちを表すのによく使われている。例えば、慣用句の「tiếc đứt ruột」というのは、腸が切られたようで悔しいという意味を表す。(V１）では、子は親の一部で、もし自分の子供が転んでけがをしたり何かよくないことがあったら、親は、実際には自分のものでもないのに、自分の腸が切られたようでその痛みを感じると表現している。

子は生まれて以来、いつも親の愛や保護の中に生きているのに、ほとんど感じないものである。それは例えば、ちょうど空気や水のありがたさをめったに意識しないのと同じで

ある。

（J１）親の思ふほどは思わぬ

（J２）親煩悩に子畜生

（V２）Nước mắt chảy xuôi

（涙は下の方に流れる）

などに見られるように、親の深い愛が子にはなかなか通じないということを伝えている。（J1）は親が子を思うほどには子は親を思わないという意味を表している。（V2）は陰喩表現を使って、親の心を涙の流れに比べる。涙は物理的に、地球の重力によって下の方に流れて、どうしても上の方に上がらないものである。親の愛はその流れどおりに行くということである。そして、親は子供のためにこれを思い、それを悩んでいるが、子供は普通はそのことになかなか気付かずそれほど親に対してその愛のことを思わない。（J2）の「煩悩」とは仏教で人間の心身の苦しみを生み出す精神のはたらき、肉体や心の欲望で、「畜生」は鳥獣虫魚、つまり動物である。これは、親は子供が欲しく、子供のことをあれこれと思うが、生れ出た子は親の情けを動物のように何の感じも持たないということである。

また、次のような比較もおもしろい。

（J３）子を思へど子は糞たれる

（V３）Cha thương con út, con út đái lụt chân giường

（父は末っ子を愛し、末っ子はベッドの脚に小便して洪水を起こす）

親は子を慈しみ育て、子を甘やかしているのに子はその愛情を裏切るようなことをする。両国には、（J3）と（V3）のような非常によく似た表現がある。親の恩に対して「糞たれる」や「ベッドの脚に小便して洪水を起こす」という表現がある。「糞たれる」のも強烈であるし、もちろんいくら小便しても洪水は起こされないが、（V3）と（J3）の誇張法は子が裏切るようなことをすることを強調している。

以上のことから、日本とベトナムのことわざの中にそれぞれ親子の愛情関係が見られる。両国ともに親の愛は一方的に子に注がれると述べられているが、どちらかというと、日本では親が子を思うほどには子は親を思わないということが強調されている傾向がある。

２．功利を超越した絶対的な愛

（J４）鈍な子ほどかわいい

（J５）かたはな子ほどかわいい

（J６）悪い子ほどかわいい

（J７）馬鹿な子ほどかわいい

子を生んだら、親は誰でもかわいい子が欲しいし、優れている人になって欲しいと思っている。しかし、あいにく、「鈍な子」、「馬鹿な子」、「かたはな子」や「悪い子」がいたら、親こそ苦痛である。「鈍な」や「馬鹿」は先天的なものである。そして子の全部の生ま

れつきのものは親の責任である。生れ出ることにおいて何の責任のない子が、どこかに先天的な欠陥を持てば、親としてはすまない気持ちで胸がいっぱいになるだろう。

さらに、「馬鹿」や「鈍な」にも程度は違いがあるが、両方とも頭の動きが鈍いという意味を表すものである。しかし、頭の悪い子供は誰にも素直で優しいことが多い。親にとっては、子に優しくされるほど嬉しいことはないので、そんな愚かでも優しい子をかわいそうに思って、賢い子より愛することはよくあることである。

また、「かたはな子ほどかわいい」は肉体的に不自由な子も精神的に不自由な子と同様にかわいいということを表している。

この以上のようなことわざはベトナムではないが、興味深いのでもう少し検討したいと思っている。

そして、両国でも、次のような親の愛の表現が見られる。

(J８) 仲の良い他人より久離切った我が子

(V４)Bán cháu nuôi con, không ai bán con nuôi cháu

(孫を売り、我が子を育てる。我が子を売り、孫を育てる人はない)

「久離」とは、江戸時代に行われた勘当で、町奉行所に訴えて人別帳から消し除き、親子の縁を切って追放したことである。(J８) は、例えば、勘当して縁を切った仲であってもどんなに仲が良いとはいっても血のつながらない他人より、親子の情愛の方が深いと伝えている。(V４) では、ベトナムの封建時代には、ほとんどの農民は自分の子供さえ育てられないほど貧しかったので、子を売る (bán con) しか仕方がなかった。「子を売る」というのは、子をお金持ちの家に家事をしに行かせて、かわりにお金を多少もらうことであるが、実はいい条件のお金持ちにその子を育ててもらい、もらったお金をその弟妹達を育てるのに使ったものである。そういっても、親として自分の子が離れるのは辛いことで、それに、行かせた子供は実際にきちんと育つか親として心配しなければならないことであった。(V４) では、例えば、孫と自分の子を一緒に育てて、お金に困ったら、孫を売って、自分の子を育てることを表している。孫も血縁の関係ではあるが、子に対する愛情の方が絶対だから、子を自分のそばに置いて、慈しみ育てるのは当然である。

以上の分析によって、親の子に対する愛情は絶対的で、どんな関係より非常に深いものだと分かってきた。日本のことわざに見られる親の愛は、功利を超越すると表現する傾向があるが、今回の資料では、対応するベトナムのことわざは見られなかった。

３．親の愛は盲目的

親の思うほど子は親を思わないと知りつつも、親は自分の子がかわいくて仕方がないのである。だから、自分の子の欠点は見えない。それは以下のことわざに見られる。

(J９) 親に目なし

(J10) 親のひいき目

(J11) 我が子の悪事は目に見えぬ

（V5）Con người ỉa đầu đường thì thối, con mình ỉa đầu gối thì không.

（人の子が道の端にうんこをし、臭い。我が子が膝にうんこをし、臭くない）

（V6）Bênh con lon xon mắng người

（子の肩を持って、考えずに人を叱る）

上の両国のことわざから、親の愛情は自分の子供だけに向けられ、まさに盲目的なことが分かる。

（J９）、（J10）、（J11）は、親は子がかわいいから、なんでも子のことが良いように見えると語っている。何のとりえもないつまらない子でも、優れた子であるように思って、少しでもとりえがあれば、「ひいき目」で見るので、ひどく優れているように思う。反対に、劣っているところや悪いところがあっても、気がつかないことが多い。この中で面白いのは「目なし」である。「目なし」は目の見えないことではなく、ここの「目」は正しい判断力である。それで、（J９）は、親は子供のことになると愛情に溺れて、自分の子が悪事をしてもそれが悪いか正しいかの判断もできなくなったという意味である。

一方、ベトナムのことわざの中には、以上のことわざと同様な表現はないが、（V５）や（V６）もおもしろいと思う。（V５）は文字通りには、他人の子が道の端にうんこをしたら、臭いが、自分の子はすぐ膝にうんこをしても、全然臭くないと語っている。「đầu đường」（道の端）は外、遠い所で、「đầu gối」（膝）は内、近い所である。外が内と、遠いところが近いところ、「con người」（人の子）が「con mình」（我が子）と対立する。ここの対照法は他人と自分の子の差別を強調している。「ỉa」（うんこをする）という行動は同じだが、他人の子のことに対しては悪いと思ったり嫌に思うが、自分の子のことに対しては良いと思う。

（V６）は、例えば、子供が他人と喧嘩したら、母親は自分の子の方が間違えているか相手の方が間違えているか判断せずに、自分の子の味方をして、すぐ相手を叱ってしまう。それは母の自然な反応である。「lon xon」という擬態語は悪い結果をもたらすことを十分に考えずに急いでするさまである。これは親の愚かさを笑うのである。（V６）と内容も表現も似ている日本のことわざにはこんなのがある。

（J12）子供の喧嘩に親が出る

また、親の盲目的な愛はこのようなことわざにも見られる。

（J13）我が子の自慢は親の常

（J14）子に甘いは親の常

（J15）他人の善人より子の悪人が可愛い

（V７）Có vàng vàng chăng hay phô, có con hay nói trầm trồ mẹ nghe

（母は金を持って見せびらかさず、しゃべる子を聞いてたたえる）

（V８）con vua tốt vua dấu, con tôi xấu tôi yêu

（王の子がかわいい、王が愛す。私の子が悪い、私が愛す）

以上のことわざから、親は千里眼があっても、子に対する愛着で目が覆われるようにな

ることが多いと分かる。両国のことわざを対照比較してみると、表現と内容ともよく似ているものは（V６）と(J12)で、内容がよく似ているものは(J15)と(V8)である。しかし、日本の「目なし」という表現はベトナムのことわざには見られない。

４．親の愛は教育的

親は、いつも子を愛していて、子が立派に育って欲しい、善悪の区別ができるように子に教えたいと思っている。それは次のように表現される。

（J16）かわいい子には旅をさせよ。

（J17）かわいい子は打って育てよ。

（J18）かわいい子には灸を据えよ。

ベトナムでは、次のようなことわざがある。

（V９）Thương cho roi cho vọt, ghét cho ngọt cho bùi

（愛すれば、棒をあげる。嫌いなら、甘えをあげる）

（V10)）Yêu con cho vọt vào lưng

（子を愛し、腰を打つ）

（V11）Thương con để dạ

（子を愛すれば、腹の中で）

（V12）Dạy con từ thuở còn thơ

（幼い時から子を教える）

子がかわいいのは親の常である。子を愛するからといっても、いつも親のそばに置いて守るわけではない。そうして、子を安全に守ろうとしたために、かえって子は気が弱くなり親に頼るようになるかもしれない。教育方法としては、子を自分の足で立たせたり、つらいことでいろいろな体験をさせたりするのである。（V9）と（V10）は一つの方法を出す。それは、子供が過ちを犯したら、二度としないように、親に打たれ、罰されたものである。

（J16）の「旅」というのは今日のような旅行だけではない、家を出て離れているところに行くことを言ったのである。知らないよその地に行って、特にそこで働いたりすることは苦しいことであったに違いない。しかし、親の保護のもとを離れて、その苦労を体験すれば、鍛えられて成長するものである。このような内容は（J17）と（J18）にも見られる。

これらは人間の長い間の経験から得られた結論であり、しかし、今日人々はそれをしないようになったようである。

そして、（V11）では、いくら子を愛しても、子がそれを知らないようにすることを意味している。ベトナム語の「bụng」（お腹）は体の部分だけではない、秘密を隠すところである。親がなぜ子を愛しても、その愛情を隠すのかというと、もし子が自分のあれこれを親に思ってもらったり、悪くてもかわいいと思われることが分かれば、自分がいい人にな

るように努力しないで、わがままになるのではないかと心配するからである。だから、外見の表情から見ると、そんな考えを持っているベトナム人は子に対する愛情を表さないので、子供をそんなに愛さないかと思われる。

このように、子は甘やかすより厳しく育てた方が良いという点で、日本とベトナムのことわざは内容的に一致している。

５．親の苦労

子を育てるのに苦労しない親はいないであろう。

母親は、妊娠している時、子供の健康を九月十日間ずっと気にかけ、出産の時、非常な痛みを耐えているのに、子の無事を祈る。子を産んだら、

（J19）子を生みや苦を生む

（V13）có con phải khổ vì con

（子がいると、子のために苦労する）

などのようになる。乳児を育てる時、子がお腹がすいて泣いたら、親は夜中でも起きて食べさせ、子が病気になれば、心配で目も合わせずに看護する。医学が発展していない昔は、乳幼児死亡率が高かった時、子が大病やけがなどで、生きるか死ぬか親は何より心配するものであった。子さえ元気に生きれば、寿命が縮んでも喜ぶという親は少なくない。この点では、今でも依然変わらない。（J19）と（V13）はこういう内容によく似合っている。そして、乳児が成長する間には、

（V14）Con biết ngồi, mẹ rỗi tay

（子は腰を掛けることができれば、母は手が空く）

のように、子が腰を掛けることができないうちは、子が寝ている時を除いていつも子を抱いているので、母の手は空いていないのである。家事をする時にも、子を抱きながらする。

次に、このような表現もある。

（J20）親が痩せると子が太る

（V15）Con đóng khố, bố cởi truồng

（子が褌をすると、父が褌をしない）

（V16）Chỗ ướt mẹ nằm, ráo để phần con

（濡れた所に母が横たわる、乾いている所に子を譲る）

これらは、親の立派な犠牲を示す。(J20)では、子を育てることで、子のために、親は自分の食べ物を減らし、それを子に与えているのである。また、（V15）のように、褌も一枚しかないほど貧しい時には、子にそれを譲り、（V16）のように、自分は寒いのに子を乾いた所に置いて、子が寒くないように守る。（J20、V15、V16）が使っている対照法では、親は子のためにつらくても、どんなこともできることを強調している。愛情がなければ、こんなことはできるわけがないと思う。

６．おわりに

以上のように、日本とベトナムのことわざを対照比較してみると、日本人とベトナム人の考え方、各民族の文化、風俗、習慣の違いと類似が見られる。

両国のことわざの内容から見ると、日本でもベトナムでも、親は子を育てるのは無条件の愛情をもとに、子のためにあれこれ思って、自分は辛い目にあっても最も良いことを子に譲る。そして、子を思う親の心に比べて、親を思う子の心が弱い。

表現から見ると、両国のことわざの中に、どちらにも体の部分が取り入られている。ベトナムの方には「ruột」（腸）、「nước mắt」（涙）、「đầu gối」（膝）、「bụng」（お腹）、「lưng」（腰）などがあって、日本の方には「糞」、「目」などがある。なぜなら、ことわざは人間や人生の事情の批評、あらゆる面の生活の正直な反映だからである。ことわざは民衆の暮らしから生まれたので、言葉が簡単なら簡単なほど、覚えやすい。それに、宇宙の万物ができた後、人間の姿も出現したので、人間にとって体の部分により生活に近いものはないであろう。

また、両国の親の子に対する愛情に関することわざの表現形式の特徴の共通点は比喩表現と誇張法、対句法などが使用されている点である。その他、直接的な表現もよく使われて、意味が一見して分かる。

しかし、ことわざは生活の中から発生したから、各国、各民族の社会背景や風俗習慣によって、表現形式も異なると思う。ここにまとめたことわざには、日本の方は比喩表現がよく使われ、それに対して、ベトナムの方では、対句法がよく使用されている。そして、「子は親の一部」や「子を愛しても、愛情をお腹に隠す」などのようなベトナムのことわざの表現は日本には見られないのに対して、「親の愛は功利を超越する」、「ひいき目」等のような日本のことわざの表現はベトナムにはない。

日本とベトナムの「親子」に関することわざを以上のようないくつかのテーマに分けて対照考察し、そこに見られる表現の仕方と考え方の類以点と相違点を検討してみた。そうすることで、日本の文化、風俗、習慣をもっと理解し、さらにベトナムの文化、風俗、習慣を再認識することもできた。

参考文献

金子武雄　『日本のことわざ　評釈』海燕書房（1982）
金子武雄　『日本のことわざ　続評釈』海燕書房（1982）
浮田三郎　「現在ギリシヤ語と日本語における「親と子」に関する諺の対照研究」『プロピレア』(2004)
浮田三郎　「現在ギリシヤ語と日本語における「金持ちと貧乏」に関する諺の対照研究」『プロピレア』(2005)

小学館　『故事俗信ことわざ大辞典』(1982)
広島大学 『日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集−第 19 期』(2005)
Nguyen Xuan Kinh, Nguyen Thuy Loan, Phan Lan Huong, Nguyen Luan『Kho tàng tục ngữ người Việt（ベトナムのことわざ事典)』文化情表出版社 (2002)

日本の侍の使った甲冑に関する研究

ムンフバト・エンヘー

0. はじめに

私は、モンゴルの大学の２年と３年に在学している時に、旅行会社で働いていた。そこで、たくさんの日本人の観光客に会った。ツアーの間に、モンゴルの歴史のことを話すと、何人かのお客さんに「モンゴルのチンギス・ハーンは日本の侍であったという話を聞いたことありますか？」、と何回も聞かれたことがある。これは、義経が衣川で奥州藤原氏の襲撃を受けて自害したのではなく、実は生きのびて北海道から中国大陸に渡ってジンギスカンになったという伝説である。もちろん、この「義経＝ジンギスカン伝説」はあり得ないことだと思う。このような考え方が日本社会で流布したのが江戸末期から大正期であったことを考えると、当時の中国大陸の利権を狙うという日本の社会的な風潮から生まれたのではないかとも思われる。ただ、「義経＝ジンギスカン伝説」は、私に「侍というのは誰か？」そして「侍とは何者か？」という疑問を抱かせた。また、トム・クルーズ主演の『ラストサムライ』という映画を見る機会があり、一層、侍に興味を持った。『ラストサムライ』で，馬に乗った武士達は霧の中から走って来るシーンがあり，そこから甲冑に魅力を感じるようになった。馬術、弓術、剣術を駆使して戦う侍は、モンゴルの戦士に似ている。モンゴルの甲冑は革と鉄からできていて色は入ってない。しかし，日本の甲冑は防具であるとともに、芸術でもある。日本の甲冑に色彩が豊かである。こういう理由で、侍に興味をもち、研究テーマとした。以下，日本の甲冑について述べていく．

まず、山岸素夫・宮崎眞澄著の『日本の甲冑の基礎知識』（1990 年，雄山閣出版）と笹間良彦著の『図解日本甲冑事典』（1988 年，雄山閣出版）の甲冑の時代の変化を要略する。

１．古墳時代

日本で最古の甲冑として現在、古墳時代の甲冑が出土された。したがって、日本の甲冑史は古墳時代から始まると言っていいだろう。笹間良彦著の『図解日本甲冑事典』では、兜と鎧を二種類に分けている。兜の場合は衝角附系と眉庇附系、鎧の場合は短甲系と掛甲系である。

衝角附系の兜というのは、兜の前に軍艦の舳のように突き出した形で、眉庇附系の兜というのは、兜の前の下の方に帽子の眉庇を突き出した形である。これらの名称は文献に伝えられたものではなく、現代の考古学者らの形式区分の時付けた名称である。

古墳時代の甲冑は鉄で出来ていた。三角形や長方形の鉄板を革綴（とじ）あるいは鋲留し、形成したものと草摺を別に設けた堅硬な板物鎧と長さ１０センチの細片に断った鉄小札を横に糸絡み重ね革緒（かわお）や組糸で威し立てて形成した小札鎧という２種類の甲冑があ

る。
考古学上では、これに短甲・卦甲の名称をあて、板物甲を「短甲」, 小札甲を「卦甲」と称した。板物甲には衝角(しょうかく)付兜正面に鎬（しのぎ）の立った鉢に数段のシコロを付けた兜や眉庇付兜と呼ばれる丸鉢に文様を透彫した装飾的な大形の眉庇を設けた兜、及び頚鎧(あかべよろい)・肩鎧・篭手・(こて）当てなどの小具足が添えられた。これらは主に四世紀以降の古墳から出土し、その構造上徒立戦用の甲冑と考えられている。韓国から同じ様式の板物甲が出土したことからは朝鮮半島を経て、伝来した様式とも推測される。
小札鎧には、衝角付兜または眉庇付兜のほか、小具足として頚鎧・肩鎧・篭手・臑当など添えられた。甲冑が板物製から小札製に推移したことを示すこれらの遺物は五世紀半以降の古墳から出土された（山岸・宮崎, 1990)。

２．奈良時代から平安時代

この時代は仏教の興隆（こうりゅう)、唐の文化を模範とする律令政治の徹底、辺境の開発経営などが、国家統一の意識をもって推進された時代である。日本の文化は各方面にわたり飛躍的な発展を遂げ、武具にも唐代の様式が濃厚に反映されたと考えられている。しかし、当期の甲冑の完全な伝世品は一領も存在してない。その様式や構造はわずかな文献の記述と、正倉院伝来の大破した小札甲及び東大寺大仏展須弥壇下出土の残片など、不完全な遺物によって推察しかない。
当時の甲冑は律令によって設置された諸衛府及び軍団つまり古代律令国家の武力的基盤を成す官兵の着用で主である。挂甲は胴甲のみ構成から主に行幸の供奉宮門(ぐぶみやもん)の警備などを担当した諸衛府の武官の武用や儀仗に着用されていたが､平安時代中期頃から次第に武用を離れて、後期にももっぱら儀仗の料に推移したものと考えられる。
鉄甲は廃れた定期的に修理を加えられるに止まり、革甲を基本とする方向へ大転換がされた。革甲に変化した後も兜は鉄を用いたことが推測される。これは中世の兜の鉢は鉄製であることと相通じ、この時代における中世甲冑との基本構造の共通性を見出しうる。
その頃の甲冑は短甲、挂甲などと呼ばれている大陸から伝わった防具を真似て作った物であった。

３．平安時代から鎌倉時代

平安時代になると、戦いの形態が騎馬によるものに変化しそれにともない甲冑の形態が著しく進化した。騎馬戦では弓が主な武器なので矢に対する防備が重要になり大きな袖、脇を守る栴檀の板・鳩尾の板などが特に発達した。下腹部・大腿部を保護する草摺は左右が長く、前後は馬に適合するようにスリットが入っていた。
兜には古代のシャーマンが儀式で鹿角を使用した影響か鍬形と呼ばれる前立て飾りが付いた。初期のものはいたってシンプルな作りであったが、個人の美を競う戦に風習からか次第に華麗な装飾を施したものに変化した。国衙の在庁官人や追討使・追補使となり賊

徒の追討や辺境の乱の鎮定し、遺族に仕えるなどして、次第に勢力を伸長した。日本の甲冑史における中世の甲冑の始源は、平安時代中期設定し、いわゆる日本の純日本式の鎧は平安時代から登場した。

有力武士が前代の短甲・卦甲の制によりつつも、独自美意識と実用上の創意工夫を集約して、中世的な武門の甲冑を誕生させた。武士の戦闘は、騎馬武者である射戦を主として、従者は徒立となって戦った。甲冑は必然的に騎射戦に適応する様式の甲冑である大鎧と、従武者の着用する従立打物戦用の簡便軽快な甲古は「腹巻」と呼ばれ、後に「胴丸」を名称が変化し、発達した。

大鎧の過程において多大の影響を及ぼしたのは、王朝の貴族文化である。優美な宮廷の服飾、情緒的で洗練された貴族の美意識などが武具に反映して、威毛（おどしげ）の色彩感、絵革の文様、金物の意匠や造形など、主に外容の面において大鎧の形成に大いに寄与したものである。兜や袖は、杏葉と呼ぶ掌大の小鉄板をつけて肩先を防護し、腕にさした。構造は大鎧に比べて簡略で、徒立に適応する軽快な機能を有する。小具足は甲冑の付属具として、額から頬を覆う半首（はつむり）、腕に付ける篭手、草摺のはずれから膝頭までを護る膝鎧、足の臑に付ける脛当などが用いられ、上級武士は足に貫と呼ぶ毛皮製の沓を履き、徒立の下級武士が射戦を中心とする時は、弓射をよくするために射向（左側）の腕のみに篭手を付けていた。これを両手に付ける諸篭手に対して、片篭手と称する。大鎧と胴丸の折衷様式のごとき特異な「同丸鎧」も鎌倉時代に出現した。

鎌倉幕府が崩壊し南北朝の時代になると甲冑は小型で中身が充実になって変わって行きました。長刀等を振り回すので兜のしころが小型化し、左右を見回しやすい笠じころに変化した。同様に袖、草摺なども小型化し、栴檀の板・鳩尾の板は廃され、小型の杏葉に変わりました。こうして軽く、動きやすく、着やすくなったが、基本的な素材は小札を威す従来の方法でした。杏葉は染め革などで包んだり漆などをかけたりした鉄板で前は下級武士が袖の代わりに胴丸の肩に付けていたたが鎌倉時代から袖が完備するとともに胸に付けるようになった。

４．南北時代から室町時代

甲冑は徒立戦に適応する機能と、より一層の防護力を要求され、隙間なく体を覆い包む傾向を示して、小具足が発達した。大鎧は胴を腰細に引き締め、小札を前代より細かく、薄くして軽量化をはかり、胴裏を栗色革でシコロは二、三段目、胴は正面から背面まで、草摺は二、三段目、袖は三、四段目まで鉄一枚交ぜとした。隙間を覆うべき胸板と前立挙の幅を広くし、射向に脇板を設け、草摺は幅を広くし、同じく隙間を塞ぐため両端に鎹撓を入れて重なり合うように工夫した。平安時代の末期から鎌倉時代の前期を思わせる大鎧に南北時代的な小具足で身を固め、兜を被らないようになった。

徒立打物戦に適応する機能をもち、従来下卒の着用とされていた右引合せ様式の同丸は凋落した大鎧の代わりに盛行した。胴を主とする軽快な鎧であったところから上級武士は

防備と威容のために兜と大袖を添え、小具足を便利に皆具した。兜の前立は新たな趣向によって形作られ、かつて将帥の威容を示した鍬形は当代の下克上の風潮から普遍化し、これに剣形を添えた三鍬形を生じた。さらに菖蒲鍬形・日輪・三日月・柏葉・獣角などの立物が造形された。胴丸の遺物は、南北時代から室町時代のものは大山紙神社に伝来した。

同丸より一層軽快な様式の腹巻は室町時代に流行した。これは当初胴丸と呼称されていた。腹巻の製作は胴丸と同様である。腹当も当期に用いられた。これは最も簡易で軽快な鎧である。

小具足は、甲冑の軽便化とは反対に戦闘の熾烈さを反映し、より一層隙間なく体を包んで防護する傾向を強め、ますます充実した。すなわち半首は廃れて喉輪と頬当を生じ、諸籠手の風が普及して筒籠手や篠籠手が発達し､伊予佩楯や宝幢佩楯などの膝鎧が盛行した。

室町時代に具足鍛冶の名や年紀を兜の鉢裏に刻むようになった｡これは革小札と威毛を主体とした中世甲冑が凋落し、金銅丸・金腹巻など板物主体の甲冑の盛行に伴う具足鍛冶の地位の向上があったためである。または鉄砲の修験により劇てきに進化した。これまで小札を威した胴丸が伊予札や鉄板張りの胴丸に変わった。

５．桃山時代から江戸時代

この時代は、戦国大名を服属をさせて全国を統一した豊臣秀吉により、封建体制の基礎が確立した時代である。武器は前代に引き続き槍が流行し，鉄砲も普及し、集団戦に威力を発揮し、甲冑の改革を促進した。かつて、室町時代の末頃から推定される新様式の甲冑を「当世具足」といい、一般的には具足と称していた。「今の世」を意味する「当世」具足は、隙間もなく体を覆い包んで防護する志向をより一層示した重装備の甲冑である。兜・胴と一体を成す専用の小具足を皆具した構成や肩上に籠手付の装置を設けた点は、当世具足を論じるうえで不可欠の要件というべきある。

具足は、当世の騎馬戦、徒立戦に機能する甲冑で、兜・胴と一体を成す専用の小具足を意図的に付属し、隙間なく体を覆い包む防具という意味で「当世具足」と称された。当世具足が、軽快で機能的な腹巻の様式を断承しなかった。背面に隙間のできる腹巻は、当期の隙間なく体を覆い包む志向に反することから排除され、胴丸の特色である右引合せ様式の機能と構造が認識・評価されたことにより、当世具足の基本的構造として、この胴丸様式が踏襲された。これを証する重要な遺例として厳島神社伊予札鶉革包紫糸威具足と紅糸威具足、銀小札白糸威具足などがあり、いずれも当世具足の部類に入る初期のもので、胴丸から当世具足へ移行した。

中世の大鎧・胴丸・腹巻などがその様式に応じた一定の構造・意匠・素材などは多種多様である。槍・鉄砲など武器への対応と、南蛮具足の影響から胴を鉄の板札や縫延革包の伊予札を主とした横矧胴・縦矧胴、鉄板製の雪下胴・一枚張胴など堅固な板物とし，小札製は少なくなった。喉輪も不必要になって廃れた。

肩上は革製より鉄製が多く、幅広くかつ短くして籠手付の羂を設けた。前胴と後胴を懸

け通し、従来金銅製であったコハゼには水牛の角や象牙など用いた。袖は南蛮具足の影響と打物戦への対応から廃止、篭手に仕付けた仕付け袖を用い、篭手にコハゼを利用して肩上に取り付ける置袖を生じた。
当世具足は威毛の部分が少なくなり、表面を金錆地・革包みなどにすること多く、威毛を用いたものも、黒糸・紫糸・紺糸などを主とした。兜も一新して当世兜になった。南蛮兜を模範とした桃山、鉄板を打出して物の形を象った形兜、張懸兜が嗜好された。筋兜は金錆地の六十二間、星兜も小星の六十ニ間が流行した。当世具足は機能・構造・構成・素材などの面で日本甲冑の最終的発達段階に到達したのである
江戸次代の中期になると富有な町人を中心とする都市文化が栄えたため、甲冑は為政者としての権威を示す一種の象徴的存在に化し、当時の工芸的趣向に基づく加飾が施されて威儀化していった。当世具足は軍隊の要求から生まれた堅実な様式を崩した。以後、機能とは無関係な意匠面での時流に応じた付随的変化を示しつつ推移し、幕末に完全な終焉になった。

6.1 兜

兜は敵の攻撃から頭を守るための防具である。鎧と具足とセットで用いる。日本には朝鮮半島を経由して伝わったと推測されている。これが純日本式の兜に変化したのは平安時代初期の頃である。兜は鉢とシコロとの２部からなり、鉢には眉庇が付属し、金物・絵革・立物・付物などで装飾することが多い。兜の数え方は地方によって一頭、二頭、と数えるところもあれば、一体、二体と数えるところもあるが兜が一兜、二兜と数えて鎧を一領と数える。山口県、岩国美術館には蟹を思わせる蟹形兜を初め、喋の形をしてる変わり兜やモンゴルの兜に似ている六十数枚の鉄板を矧ぎ合わせた星兜などの兜を主集した展示があった。

6.2 鉢

頭を覆う兜の主な部分が鉢と言う。鉢は半球状で，鉄でできている。鉄を素材とし、革を用いることもある。山岸素夫・宮崎眞澄さんの『日本の甲冑の基礎知識』という本によると昔は木鉢もあったという。
いろいろな名称の鉢がある。それは鉢の材料や兜の形式によって違う。鉄製の鉢は、鉄の板を継ぎ合わせ、鋲で留めて作る。兜の色が焦るを防ぎ、表面と裏面黒漆塗る。星兜と筋兜は鉄製の兜の代表と言ってもいいだろう。日本の甲冑が展示されているいくつかの神社や美術館に行って見たところ展示物のほとんどは鉄製の星兜と筋兜だった。
山岸素夫・宮崎眞澄の『日本の甲冑の基礎知識』によると,星兜と筋兜は中世期頃によく使われていて、平安時代から室町時代の初期までの大鎧と、筋兜は南北時代か以降胴丸、腹巻とセットで用いられたと記されている。
星兜も筋兜も鉄の板を継ぎ合わせ、鋲で留めて作るが筋兜には星がない。星兜の星はサ

イズによって、大星・中星・小星と名称が違う。山岸・宮崎(1990)によると，星は材料によって鉄製の星と、銅製の金鍍金（金銅)・銀鍍金（銀銅）がある。金銅や銀胴の星は、主に葵葉座・篠垂・地板に打ち、鎌倉時代後期頃からは斎垣や金銅・銀銅板包みの腰巻などに打った。また、座星と呼ばれるものがあって、これは星の下に小刻座を入れた装飾的な星を言います。平安時代の星に一部見られるが、鎌倉から南北朝時代には、八幡座・篠垂・斎垣・などに打つ鍍金の星に行われた。

筋兜と星兜の頂上に穴が開いている。その穴を頂辺（天辺）に穴と言う。天辺の穴は浅野誠一の『兜のみかた』(1998 年，雄山閣出版)によると，天辺の穴は鉢幡座と天辺という金物で飾っている。鉄は布のように容易に形を作られないし、大きな鉄板を作るのが難しいので小鉄片を矧ぎ合わせて頭に被れるように形を作っていたので縦矧式の鉢にはこのような穴ができた。小鉄片でもそう簡単には作られなかったという。

時代とともに鉄工技術が進歩し，それにつれて縦矧式の鉢の天辺の穴がおのずれ小さくなった。鎌倉時代（１１８５年－１３３３年）には直径４センチぐらい、南北朝時代（１３３６年－１３９６２年）３センチ前後、室町時代には２．５センチ前後。このように小さくなってきたが,無くすことはできなかったという。ところが横矧式の鉢を製作してから天辺の穴は無くなった。

山岸・宮崎(1990）によると，平安時代後期から鎌倉前期の鉢は、径四、五センチの大きいな穴をあけているが、これは兜の着用胡法の基づくものである。頂辺の穴は平安時代に五センチ前後を最大とし、鎌倉時代の前期は四センチ前後、鎌倉中期頃以降、髻を出さなくなると三．五ー二．八センチに縮小し、南北朝時代ごろには三ー二．四センチになった。室町時代には二センチに満たないものが多くなって、平安時代以来の伝統を形式的に継承し、用途は主に蒸れを防ぐものになった。鉢の後ろには鐶を付けている。その鐶には赤色の糸を下げられている。それは戦場で敵から味方を区別するためのものでいくつかの神社や美術館の展示物を見た時ほとんど星兜と筋兜に見られた。

兜の飾りには金銅や銀銅製の八幡座篠・垂･地板･斎垣･覆輪というのがある。八幡座は、頂辺の穴の廻りにつけた金物で、篠垂は細長い筋の金属の飾りである。地板は、板のような金属飾りで斎垣は、鉢の下の部分の金属飾りである。覆輪は縁を包む金属や革の飾りものである。平安時代末期頃に現れた板状の装飾金物で、鉢の前後、あるいは四方に板金一間～五間分を覆って伏せる。普通は篠垂と組み合わせてこの下に伏せるが、篠垂の代わりに金銅の星を打つことある。兜を称して二方白･四方白などというのは金銅や銀銅の篠垂、篠垂と地板、あるいは地板を据えた鉢の呼称である。

斎垣は、一間ごとに据える入八双形の中央に猪目を切り透した小板と、筋の上に懸ける覆輪からなる。南北朝時代には斎垣の覆輪を延長し、板金の縁を捻り返して立てた筋のすべてに覆輪を懸けて装飾した兜が現れた。これがいわゆる総覆輪で、星兜･筋兜ともに見られるが、特に室町時代には筋兜に盛んに行われ、総覆輪筋兜が流行した。

6.3 シコロ

シコロは兜の鉢の後ろから頸の辺あるいは肩まで下げている鉄や革でできたものである。段数は兜の形や時代によって違うけど三ー六段が多い。小札製のシコロと板札製のシコロというのがある。山岸・宮崎(1990) によると,中世のシコロは、本小札を縫い重ねて毛引威にするのが原則とし、板札製は室町時代の末期に至り用いられた。星か兜は一般的には五段数が多く、筋兜は五段数から三段数が多い。諸町時代の後期ころ三段数のシコロが流行し、末期には二段数、一段数が流行した。

シコロの一段目を鉢付板と称し、二段目を二の板、以下三の板、四の板と呼び、最下段は畦目・菱縫を施して装飾したので菱縫板と呼ぶ。シコロは一般的には革小札を主体として作り、小札は大きくて厚いため、札頭に漆を盛り上げない平小札を用い、鉢付板から菱縫まで自然に威しを下げた。この形状は杉の木に似ているから後世杉形と称した。平安時代のシコロは防護力を強化を目的として原則の革小札に鉄小札を交ぜるようになった。

鎌倉時代の後期頃にシコロの形状に変化が起こり、鉢付板から菱縫板まで斜めに開いて笠形になった。この形状のシコロを笠シコロと言います。鎌倉時代末期から南北朝時代には大笠ジコロが流行した。吹返は大形になるとともに強く折り返したため、吹返とシコロを合わせて二重となり肩廻りの防護が強化された。この傾向は室町時代に入るとより顕著となり、鉢の腰巻ほぼ水平に開き、これに鉢付板を水平に取り付けてシコロの開きを大きくした。そして三の板、四の板の小札に縦撓を付けて丸みを持たせ、菱縫板を垂直に近く威し付けるようになった。

6.3.1　本小札製のシコロ

大山祇神社の国宝館に保存されている逆沢瀉威大鎧シコロは本小札製のシコロである。山岸・宮崎(1990)によると,鎌倉時代の後期頃にはシコロの形状が変わって、鉢付板から菱縫板まで小札板の裾を開き、広く張長出すようになった。この形式を笠ジコロという。厳島神社・浅葱綾威大鎧シコロは笠ジコロである。

6.3.2 板物製のシコロ

室町時代の末期頃から現れた金胴丸・金腹巻など、板物製の甲冑に添う兜のシコロ物製が多い。板物のシコロは、構造の相異により、板札を威し下げて足掻を持たせた板札製のシコロと、威毛のない板ジコロと区分されている(山岸・宮崎, 1990)。

板物製のシコロは、戦乱によって急増した需要に応えるため、製作上の省力化、迅速化をはかる目的から発生した。小札製のシコロに比べて、美観や気品、迫力など著しく劣ることは否めないが実用的には遜色なく、作製・修理とも容易な利点がある。これが近世に至り、当世具足の兜に設けた日根野ジコロ・越中ジコロなど板札の当世ジコロとして発達した。

板ジコロは、板札のシコロと紛らわしい区分名称で、これは威毛を用いず、二舞いの板

札を鋲留して形成した足掻のないしころである。　シコロの両側の上のほうからちょっと後ろに曲がったものが見える。これを吹返という。

笠ジコロ

饅頭ジコロ

日根野ジコロ

ありジコロ

6.4 立物

立物は兜の鉢に立てる物で鉢のどこに立てたによって名称が違う。鉢の前につける立物を前立と言い、後ろに付けたのが後立、兜の左と右側に付けたのが脇立という。

立物の種類

前立–　日輪、兎耳、半月、三日月、扇、蜻蛉、ノシ、

頭立–　鳥毛、熊毛、兎耳、天衝

脇立–　鹿角、牛角,蟹の鋏、蝶之

後立–　大釘、馬藺、

山口県の岩国美術館を見学して驚いた。美術館の二階に上がると甲冑に関するものだけ展示されていた。『岩国美術館』には鎧よりは兜の展示物の方が多かった。一番目立った兜は蟹に鋏の立物を付け兜でした。いろいろな立物を付けた兜見ていたが蟹の形の兜と立物があると思わなかった。日本人は昔から海と関係があって生活して来ただろうし、海の生物を食生活に使って来た。それとは関係があるだろうけど海の生物から蟹の鋏の形を立物があった。立物は武士の権力を表すものだったので蟹よりは強い、大きな生物いるけど蟹を立物にしたのが不思議に思った。インターネットで兜について調べていたら面白い立物の写真あった。桃の形の前立。おそらくそれは桃山時代の兜だろう。

6.5　大鎧

大鎧は「鎧」と呼ばれていた。大鎧は騎射戦に適応した鎧である。山岸・宮崎(1990)に

述べられた大鎧の構造上の主な特徴は下の通りである。

大鎧の特徴：

- 騎馬の射戦に適応する機能をもつ小札の甲冑である
- 構造は小札・威毛・金具廻・革所・緒所・金物からなる
- 兜・胴・袖の三つの部分を同作皆具して一領を構成する
- 胴は立挙前二段・後三段、長側四段、草摺は四間に作り、五段下がりを普通とする。
- 胴の右側を分離して引き合わせとし、この分離した部分を脇楯と言います。
- 後立挙の二段目を逆板とし、肩上に障子の板を設ける
- 胴の前面に弦走韋を張る
- 胸脇の防護と威容のため、栴檀の板、鳩毛板を下げる
- 兜は星兜が普通で、袖は馬上での持楯的意義を有する大袖を原則とする。

大鎧は三つの物で完成する。兜や袖がない大鎧を「兜欠」「袖欠」と言う。本物の袖や兜がないけど別の物を付けて展示した大鎧を「兜付」「袖付」と言う。小札・威毛・金具廻は大鎧を構成する三大要素となります。前立挙の上部に設けられる、胸板、左脇の脇板、右板の脇楯の壷板、肩上の障子板、大袖や栴檀板の冠板、鳩尾板など大鎧の特有なものである。

6.6　胴丸

胴丸は,大鎧の後で普及したもので、上級の武士達が来ていたという。山岸・宮崎(1990)に述べられた胴丸の主な特徴は，次のようなものである.

- 初期には兜・大袖を添えない軽快な構成で、肩の防御として肩上に杏葉を付けた。
- 胴は長側を一続きに作って右脇を引合とし、後胴を上に重ねて引き合わせる。
- 立挙は前二段・後三段、長側は四段で、草摺は八間五段下がりを原則とする。
- 金具廻として胸板・脇板・押付板を設け、肩上は蔓肩上とする。

これらの特徴は胴丸を徒立戦に適応しているということを示す。

南北朝時代以降、騎射戦用の大鎧は衰退して、胴丸を上級の武士達が用いるようになると胴丸の地位が上昇して兜・大袖を同作皆具した。

6.7　胴丸鎧

胴丸鎧は、大鎧と胴丸の長所を併せた甲冑である。愛媛県の大山紙神社にはただ一領遺物が国宝館に保存されている。山岸・宮崎(1990)によると,

胴丸鎧の構成式：

- 兜・胴・大袖を同作皆具して一領を構は成する（大鎧式）
- 胴の長側は一続きに作り、右脇で引き合わせる（胴丸式）

- 草摺七ー八間と細かく分割する。(同丸式)
- 壷走韋を張る（大鎧式）
- 逆板を設け、これに大座の鐶を打って総角を下げる（大鎧式）
- 栴檀板・鳩尾板を胸板に下げる（大鎧式）
- 肩上に障子板を立てる（大鎧式）

6.8 腹巻

胴丸は徒立戦用の甲で、上級の武士達に用いられていた時腹巻は下級の武士達の着ていたものである(山岸・宮崎, 1990).

腹巻の一般的な特徴：

- 胴のみの甲で、甲と袖は原則として付けないが後に甲・袖を同作皆具するようになった。
- 背面を引き合わせとする。従って背割りとなり、押付板と後立挙が二分され、背中に隙間ができる
- 立挙は前・後とも二段、長側四段、草摺七間五段を普通とする。
- 杏葉を設けない
- 胴丸より小形で軽量かつ機能的で、腰廻りを引き締め、胸が張る
- 背面引合式の構造上、左右対称形となる

引き合わせの位置の違いが胴丸と腹巻の大きな相異点で、小　札・威毛・金具廻・革所・金物などの形制と製法は同様である。中世の腹巻の遺物の大部分は室町時代の中期以降のものである。

９. 終わりに

日本にいる間にいろいろなところへ見学や旅行に行った。博物館、特に美術館とお城には少なくとも一領の甲冑、もしくは兜が必ずあった。説明には、どこの殿様、何という将軍が使っていたかもちゃんと書かれてあった。大山紙神社には国宝になった甲冑の９０％が収集した国宝館があった。モンゴルの博物館にも甲冑は展示されているものの、日本の甲冑のように詳細の歴史的記述は、残ってない。また、甲冑の研究者も少ない。モンゴルの甲冑について書かれた書物もほとんど目にすることがない。驚いたことは、日本には、甲冑の教室まであった。甲冑を売っているお店も沢山あった。はじめにで、述べたように日本甲冑は武具でもあり、芸術である。本当に素晴らしい国宝だと思う。

参考文献

山岸素夫・宮崎眞澄（1990)『日本の甲冑の基礎知識』雄山閣出版

笹間良彦（1988)『図解日本甲冑事典』雄山閣出版

浅野誠一（1998)『兜のみかた』雄山閣出版

見学調査

厳島神社

岩国美術館

大山祇神社

『外国人労働者』と日本社会

トルスンバエウ・アリシェル

１．はじめに

1980 年代末のバブル経済真っただ中に巻き起こった労働『開国』『鎖国』論争以来、日本で働くアジア人やアフリカ人中南米からの日系人たちは、一貫して『外国人労働者』と呼ばれてきた。近年では『稼ぐ』ことを第一義的な目的としない外国人や外国人主婦／未青年層の増加と言う実態もあり、労働者であると同時に多面的な問題に関わる社会的存在でもある外国人を表現すべく､移民という言葉が代わって用いられるようにもなってきた。

日本で使われている『外国人労働者』という用語法は、決して、字義通り日本で労働する外国人すべてを指すわけではない。だとしたら､『外国人労働者』というカテゴリーで総称されるのはどのような人々なのか確認しておきたい。五十嵐泰正（2003）は、誰が『外国人労働者』であることと、彼らの職場がどのようなものなのかということの間には本質的に非常に政治的な対応関係があると指摘している。

まず、出入国管理お呼び難民認定法制上の特別永住者、つまり在日韓国人や朝鮮人、中国人などのいわゆる『オールドカマー』は、外国籍であっても､『外国人労働者』には含まれない。では、1970 年代後半あたりから就労目的で日本社会に流入してきた『ニューカマー』たちならば、すべてが『外国人労働者』かというと、そうではない。『外国人労働者』とは常に、語尾に『問題』という文字がつけられて語られてきた集団であり、80 年代以降の日本の文脈において、その存在自体が論争的であった人々を指すカテゴリーである。構築主義立場から言うと、バブル経済期の『開国』『鎖国』論争を通して、社会問題領域としての『外国人労働者』が発見され、言葉として定着していくのである。だとするならば、『外国人労働者』とは、人手不足に悩む３k 現場からの強い期待が存在していたにも関わらず､『出入国管理及び難民認定法』によって建前上は一貫して存在を否定されてきた外国人たち、つまり『単純労働者』というきわめて暧昧に分類された仕事に従事している外国人たちのことである。『出入国管理及び難民認定法』に規定された在留資格区分で言えば、『教授』『報道』から『投資経営』『企業内移転』に至るホワイトカラー労働に従事する外国人は、一般的に『外国人労働者』とは呼ばれないのである。

それに加えて､最近は､介護従事者やITエンジニアといった外国人の『戦略的導入』が、論争の中心になっている。たとえば、二カ国間EPA、FTA協定により『介護』『看護』ビザの創設をあげられる。『出入国管理及び難民認定法』で規定されているビザの在留資格において従来は単純労働の領域に属していた分野を専門/技術的労働として分類し､それに関わるビザの種類を増やす。そのことによって日本で必要な人材を戦略的に導入できるのである。また､ITエンシジニアの場合は相当の高給を保証されるインド系の労働者の場合、あらゆる意味で『単純就労』外国人とはいえない。しかし、彼らの導入の是非は、確実に

『外国人労働者問題』の一環として語られている。『外国人労働者』として問題化される人々こそが『外国人労働者』であるという構築主義的な定義に従うと、IT技術者は専門的職業従事者にもかかわらず、『外国人労働者』という論争的なカテゴリーに入れられていることになる。これに、五十嵐は『外国人労働者』には『単純就労』外国人という第一の定義に加え、もう一つ隠された定義があることを示している。インド系ITエンジニアの場合に多く示唆されるように、『外国人労働者』という用語にはやはり、アジア・アフリカ・ラテンアメリカからの労働移民を指す人種的に定義されたカテゴリーでもあることを指摘する。つまり、『外国人労働者』とは、第一義的には『単純就労者』という(職業)階層的に定義される外国人である。それに加えて、『非欧米圏（非先進国）からの労働者』と人種・出身国から補助的に定義されていることが明らかになる。さらに、『外国人労働者』問題が社会問題として認知された契機になったのが、男性外国人労働者の増加というジェンダー的な要因も見逃すことはできない。

２．外国人労働者はどのように入国するのか

＊あっせんブローカの役割

以下ではあっせんブローカを単にブローカと戦略するが、ブローカとは、広く外国人労働者を稼働先にあっせんすることにより利益を得るものをさすことにし、就労が合法であるか不合法であるかは問わない。日本人ブローカと外国人ブローカの役割分担については、法務省資料は次のような四つのタイプを区別している。第一は、『日本人・外国人分担ケース』であって、外国人ブローカが来日させた出稼ぎ希望者を、日本人ブローカが出迎え、各地の工場等にあっせんまたは管理するものである。第二は、『日本人・外国人共謀ケース』であって、外国人ブローカ及び日本人ブローカが共謀して出稼ぎ希望者を同行するなどして来日させ、あっせんまたは管理するものである。また第三は、『日本人ケース』であって、外国において日本人ブローカが、自らまたは外国人ブローカを通じて募集した出稼ぎ希望者を、自らの手で来日させ、あっせんまたは管理するものである。最後に第四は、『外国人ケース』であって、在外の外国人ブローカが、自らの手で募集した出稼ぎ希望者を同行して来日させ、あっせんまたは管理するものである。ブローカは外国人労働者の就労を相当支配し、その活動には中間搾取や詐欺等きわめて悪質な要素も含まれている。また、ブローカは国別に大きな違いがあり、その活動形態も研修生や就学生、あるいは日系人など合法的とみなされるカテゴリーの利用を含んでいる。

＊研修生としての資格外就労

かつての深刻な労働力不足に直面して、経済界も政府諸省庁も外国人労働者の導入を検討したが、その突破口の一つが研修生である。研修生という名目があるので、単純労働者は導入しないという建前とは抵触しない。また、研修生は期限付きの帰国を前提しているから、欧米にみられるような社会問題の発生を回避することができると考えられた。1980

年８月、法務省は、研修の実施に問題があるのではないかと思われた企業40社について、1988年４月以降行った調査結果を発表した。その内容は、低賃金労働力の確保の手段として研修生のカテゴリーが乱用されている実態をまざまざと示すものであった。すなわち、研修を名目として研修生を受け入れ、事実上労働者として就労させている事実が相当数判明した。入国事前審査時に提出した研修カリキュラムの中で実施が予定されている講義方式による学科研修を実施していない企業があり、また、従業員と区別なく生産ラインに組み込まれ、活動内容が研修か労働かの区別が判然としていないものや研修時間帯が深夜におよぶ等の問題が一部に認められた。研修終了後、本国において当該研究の成果を発揮しうることにつき疑義のもたれる研修が一部に認められた。

ここにみられるような研修生の現場作業への従事は、オンザジョブトレーニング（OJT）という口実で正当化されている。OJTとは、本来は実際の作業／労働を通して技術を習得させる実地教育を意味する。

この発表の40企業のうち８企業については、1989年６月研修生に対して初めて行われた立ち入りの調査に関する情報がある。８企業も提出されていた学科研修を全く行わず、いきなり現場作業に従事させていた。また日本語を習得するための時間は存在しなかった。ある調査官は、「臭気と暑さで職場環境は悪く、作業は単純労働に近く、研修にはほど遠かった。人手不足を反映し、学科などやる余裕すらうかがえない」と語っている。

このように、実質的には研修ではなく文字通り就労させていたにも関わらず、研修生たちにたいする報酬は極めて低かった。

研修生名目の資格外就労が出現した大きな理由は、法務省の審査が不十分であったことにある。従来は、書類審査だけで実地審査が行われることがないので、書式さえ整っていれば研修ビザが発給されると一般に言われてきた。特に、現地法人が実体として存在しないのに、研修生導入のための手段としてこれから設立する予定と言う口実がよく使われたと言われている。

研修生を隠れみのにした単純労働者の流入の激増という事態に対処するため、法務省は、改定入管法の実行に施行に際して研修生受入に関する基準省令を定めた。その内容は以下の通りである。

（１）研修生が習得しようとする技術、技能または知識が同一の作業の反復のみによって習得できるものではないこと。

（２）研修生は18歳以上であり、かつ帰国後習得した技術を要する業務に従事することが予定されていること。

（３）研修生が習得しようとする技術は、本国での習得が不可能または困難であること。

（４）研修は、受け入れ機関の常勤の職員で技術について５年以上の経験を持つ者が指導すること。

（５）研修の中に実務研修が含まれている場合には研修生の受け入れ機関は以下の要件を満たさなければならない。(a) 宿泊施設の確保。(b) 研修施設の確保。(c) 研修生の人数は、常勤職員の１／20以内であること。（後ほど変更された）(d) 生活の指導を担当する職員が置かれていること。(e) 死亡，負傷、疾病に対

する保険への加入。(f) 研修施設について労働安全衛生法に則った措置を講じていること。

（6）研修の中に実務研修が含まれている場合は、研修生は次のいずれかに該当する本国の機関の常勤の職員でなければならない。(a) 国、地方公共団体、またはこれに準ずる機関。(b) 受け入れ機関の合弁企業または現地法人 (c) 受け入れ機関と引き続き１年以上の取引の実績または過去の１年間に 10 億円以上の取引の実績を有する機関

（7）実務研修を受ける時間は、研修を受ける時間全体の２／３以下であること。

（8）受け入れ機関や関係者が過去３年間研修について不正行為を行ったことがないこと。

（9）研修のあっせん機関は、営利を目的するものでないこと。

＊日本語学校と修学生

就学生というカテゴリーは外国人労働者の流入のための格好の受皿とされてきた。そもそも、改定入管法までは就学生に関する明文化された規定が存在していなかったが、それはこのカテゴリーが法務省により「創作」されたためである。

就学生という名称は、学校教育法に基づく短大以上の教育機関もしくは専修／各種学校ではない学校等で学ぼうとする者に与えられる入国カテゴリーである。就学生には就学ビザが発給されるが、このビザによる入国者のほとんどが日本語学校の入学者である。ただし、日本語学校以外に就学生の受け入れを認められている学校も少数存在している。

ところで、日本語学校の一部は学校教育法に基づいているものもあるが、その設立については何の法的根拠もなく、また文部省を含めてどんな省庁も、最近まで指揮／監督を行うことがなかった。就学生の流入は、「21 世紀までに留学生を 10 万人受け入れる」という中曽根首相（当時）1983 年の提唱に端を発している。

これに基づいて、1984 年に就学ビザの発給手続きが簡素化された。すなわち、受け入れ校による事前審査の一括申請が認められたのである。その結果は、ただちに就学生の新規入国者数に反映され、激増したのである。
その背景には、「日本ではアルバイトもできる」という日本語学校による学生募集とともに、第一節で述べたようなブローカーの暗躍もあった。

以下、就学生の資格外就労の代表的事例をみることにしよう。日本語学校そのものが就学生を労働させていた事例としては、フィリッピン人を寮室に詰め込み、学校近くのゴルフ場などで１日９時間も働かせ、月やく 12 万円の報酬のうち１万５千円をしか手渡さなかったため、学生が集団脱走したという事例がある。(『産経新聞』1988 年 6 月 23 日)

この他に，特定企業が低賃金労働力を確保するために、日本語学校を開設したケースが注目に値する。あるラーメン屋さんは人材確保のためわざわざ日本語学校をつくり、かなりの学生をラーメン店で働かせていた事例がある。

すでに述べたように、日本語学校設置のためには何の基準も認可も必要でなかったため、不動産屋、貸しビル業、旅行代理店、予備校等が、極端な場合にはアパートや一部改装した店舗等を用いて、営利目的のための日本語学校を続々と作ったのである。

もちろん良心的な日本語学校も存在してはいたが、日本語学校の多くは、ブローカーとも結託しながら、就学生から徹底的な収奪を行ってきた。入学許可書の販売、就学ビザの必要な身元保証人の紹介料、水増入学による入学金や授業料の着服に加えて、アルバイトや下宿の紹介料、ビザ更新に必要な出席率や成績の改ざん料など、取れるものをどんどん就学生から取り立ててきたのである。また教師は主婦のパートなどを使い、できるだけ教育に金をかけないようにした学校もあった。上記された問題がよくあったため、法務省は改定入管法の施行に際して、次のような内容を持つ省令を公表した。

（1） 申請者は生活費用をまかなうのに十分な資産、奨学金その他の手段を持っていること。ただし、誰かほかの人がまかなってもよい。

（2） 日本語学校以外の専修学校や専門学校に入学しようとする場合は、(a) 認定された日本語学校で6か月以上の教育を受けていること、あるいはこれに準ずる日本語能力を持っていること。(b) 帰国後習得した技術、技能または知識を要する業務に従事することが予定されていること。(c) 入学しようとする教育機関に、外国人学生の生活の指導を担当する常勤の職員が置かれていること。

（3） 日本語学校については，認定されたものであること。

３． 日本政府の外国人労働者政策

『経済社会のあるべき姿と経済新生の政策方針』—（1999 年 7 月 8 日閣議に決定された，2010 年までの経済運営の指針となる日本政府の経済計画） （第３部　経済新生の政策方針 : 第１章　多様な知恵の社会の形成 : 第２節　多様な人材の育成と科学技術の振興 : ２．外国人労働者の受け入れによる多様性と活力の確保）

「進展するグローバリゼーションの中で、多様な知恵の時代を迎え、日本がこれからも世界の中で豊かさを維持するためには、多様で異質な才能の積極的活用や創造的な発想に基づく経済活動の拡大が不可欠である。こうした観点からは、日本国内で海外の異質な文化的背景を持つ人々や企業が日本人や日本企業と協力し合い、あるいは、競い合いながら活躍するという状況を創り出していくことが望ましい。このため、次の点を基本的方向として、専門的／技術的分野の外国人労働者の受け入れを積極的に進めるための具体的方策等を検討し，推進する。

なお、いわゆる単純労働者の受け入れについては、日本の経済社会と国民生活に多大な影響を及ぼすとともに、送り出し国や外国人本人とっての影響も極めて大きいと予想されることから、国民のコンセンサスをふまえつつ、十分慎重に対応することが不可欠である。

（1） 専門的／技術的分野の外国人労働者の積極的な受け入れ

専門的／技術的分野の外国人労働者や外国の文化に基盤を有する思考または感受性を必要とする分野の労働者の受け入れは、日本の経済社会の活性化に有するものと考えられる。また、日本において開かれた経済社会を構築し、異質な文化を持つ外国人が安心して日本で就労／滞在しその能力を発揮できるようにすることは、日本の経済社会の多様性に資す

るものと考えられる。
　こうした観点に立って、専門的／技術的分野の労働者の受け入れをより積極的に進めるための方策を推進する。このため、構造改革などを進めることにより、国内の人材にとって魅力の高い就労、生活環境をつくる。また、留学生宿泊の整備等支援策の充実により、留学生の受け入れ拡大を図ることや卒業後の就職支援等を推進する。
（２）　経済社会の状況変化への対応
　在留資格及び在留資格に関する審査基準によって規定される外国人労働者を受け入れ範囲については、今後も日本の経済社会の状況変化に対応して見直していくことが必要である。ただし、受け入れ国としてみた日本には、周辺に巨大な人口を有しかつ経済的に発展途上にある国が多いことから、巨大な潜在的流入圧力が存在していることに留意すべきである。このため、日本の産業及び国民生活に与える影響その他の事情を勘案しつつ、雇用情熱の悪化など日本の労働市場の状況を反映して的確かつ機動的に入国者数の調節ができるような受け入れのあり方についても検討する。」

４．外国人労働者受け入れをめぐる論議と論点

＊開国論

　外国人労働者の日本への参入が増えるにつれて、日本は、これまでのような外国人労働力導入の原則禁止チオ言う方針を変更し、むしろ積極的に外国人労働者を日本国内に受け入れるべきだと言う議論が盛んに行われるようになった。いうならば、これまでの労働鎖国から、労働開国へと国の基本方針を転換すべきだと言う議論である。そうした論議にはさまざまな論拠がある。
　第一は、外国人労働力の導入は経済的にメリットがあるということである。日本は人口増加が逓減し、やがて人口の絶対的減少がはじまると予測されている。いいかえれば、労働力不足が深刻になるということであるが、同時にそのプロセスは高齢化が進展するということでもあり、若年労働力の不足が一層深刻になる。こうした労働力のボトルネックを労働力供給が比較的過剰で、不完全就業や失業に悩む近隣諸国から若い労働力を導入することによって緩和することができれば、それは日本経済の円滑な発展のためにも有益であるし、同時に労働力送り出し国にメリットにもなるという議論である。
　第二は、外国人労働者の受け入れは先進国として不可避であり、また当然の役割でもあるということである。先進諸国は経済発展の必然的な帰結として、富や資本の蓄積が豊富で所得も高く、相対的に労働力不足しがちである。したがって、不足がちの労働力を外国人労働力の導入によって埋めるのは当然であり、また所得の低い発展途上国の人々が所得の高い先進国で働きたいと思うのも当然であって、先進国が門戸を開放し、外国人労働力を受け入れるのは、古今東西、先進国で外国人労働力を受け入れなかった国はなく、日本もこれだけの先進国になった以上、その例外ではないという議論である。
　第三に、いわゆる国際化論である。国際化は世界各国の間の経済的な相互依存の深まり、

物、金、人、情報の往来、文化の交流の深まりなどを通じて進展する。そうした時代において労働力の移動や交流を制限するのは不自然であり、時代錯誤である。したがって、日本も外に向けて労働市場を開放し、外国人労働者が自由に参入できるようにすべきである、という議論である。労働市場のそうした開放は、働き方、慣習、価値観など、人々の仕事や暮らし、そして社会のあり方など根底的な部分で異文化の浸透をともなうことになるが、むしろそうした異質な要素を取り入れて日本の社会文化の変革を促進すべきだとの意見もある。

＊鎖国論

こうした外国人労働者の積極的導入論に対して、外国人労働者の受け入れにともなうさまざまな混乱、弊害、社会的費用などを憂慮して、外国人労働者の受け入れには慎重ないし否定的な態度をとる議論も一方では根強く展開された。論者によって程度の相違はあるが、これらを鎖国論と総称してもよいだろう。労働鎖国論にもいくつかの重要な論拠がある。

第一に、外国人労働者を安易に受け入れることは社会的な混乱を招くということである。現状の日本のように法的にも、制度的にも、そして社会的にも外国人労働者受け入れの体制や準備が必ずしも十分に整っていないところで、外国人労働者を安易に受け入れれば、不当な差別や搾取、あるいは人権の侵害などが行われないという保証はなく、社会生活面でも住居や教育など地域社会でさまざまな問題が生じ、また犯罪が増加する危険もあるという懸念である。

第二に、経済的にも弊害が多いということである。現状のような日本の社会に安易に外国人労働者を導入することは、労働力不足に悩む一部の産業や企業には人手が確保できて助けになるかもしれないが、それが一時しのぎの短期的なもので、長期的にみると、そして経済全体からみると、得策にはならない。ひとつには、労働条件が低く労働集約的な産業や企業は安価な外国人労働力に頼って合理化、近代化が送れ、長期的にはその結果、産業の競争力を失うことになる。いまひとつは、比較的低賃金で働く不熟練の外国人労働力の導入は日本人の季節労働者やめぐまれない立場にある限界的労働者層の労働条件の改善を妨げ遅らせる。さらに、不熟練の外国人労働者は、労働市場の底辺に沈澱し、労働市場の二重構造を形成し、経済の近代化、効率化をを妨げる要因となる。

第三に、将来、多大な社会的コストを発生させることである。外国人労働力の導入は目先の労働力不足の解消には役立つようにみえても、それにともなってやがて大きな社会的コストが発生する。外国人労働力が日本の職場で働く場合、賃金、福利厚生、教育訓練などの費用は彼らの働きで当然カバーされるとしても、労災、医療、衛生等に関わる社会的費用や、やがて家族を呼び寄せ、定着していくことから発生してくる子供たちの教育や地域社会の受け入れ体制の整備等の社会的費用が嵩んでくる。これらを総合すると、外国人労働力の導入は経済的／社会的なコストで見てもむしろ便益よりも負担が大きくなる可能

性が大きい。1980 年代に大量の外国人労働者を導入したドイツが、彼らの社会的インテグレーションをはかるために直面している困難な課題と膨大な社会的費用を見ても、この問題の難しさと深刻さが容易に推察される。

第四に、日本の社会の文化的統合性の維待の問題である。外国人労働者の大量な日本の社会への参入は、単に経済的次元だけでなく、生活様式、社会秩序、文化的伝統など、社会、文化のさまざまな側面に大きな変容をひきおこす可能性がある。一部の論者はそうした変化が日本社会の文化的統合性を損ない、社会の安定性を揺るがす恐れがあると懸念している。

＊不可避論と対応策

開国論にも鎖国論にもそれなりの論拠はあり、問題のさまざまな側面を理解するには有益であるが、真の問題は、外国人労働者参入の事実の方がこうした論議よりも遥かに先に進んでしまっていると言うことである。事態の進展にともなって、社会的論議の重点は次第に､外国人労働者の日本社会へのなしくずし的参入ないし浸透という重い現実をふまえ、そこから発生するさまざまな弊害を最小限にとどめ、事態を望ましい方向に誘導するにはどうすればよいかというより現実的な方向へ移行してきている。これらの論議にはいくつかの重要な論点があるが、主要なものを三点あげておこう。

第一は、外国人労働者の人権をどう守るかという問題である。現在の日本の外国人労働者問題の最も深刻な側面は日本社会で現実に働いている外国人労働者のおそらくは大部分が不法就労の状態にあるということである。日本の法律は不熟練の外国人労働者の就労のための入国を禁じている。ところが現実にはいわゆる単純労働のための外国人労働者に対する根強い需要が国内にあり、または海外から日本の高い所得をめざして働きに来ようという外国人労働者の強い希望があるため、多数の外国人がさまざまな形で入国し、単純労働者に労働に従事するという実態が形成されている。

この人々は不法就労であるために届出もなく、実態も掌握されない。すべてのこれらの労働者が不当な労働条件や搾取を受けているのではないとしても、闇の労働市場で働くこれらの人々が不当な取り扱いを受けたり、人権を侵害されるような状態に置かれたとしても、これを保護する手だてがない。

しかも、違法であるとはいえ、これらの人々の一部は次第に定着し、結婚したり、家族を呼び寄せたり、また子供をつくるなど、職場をこえて社会的存在になりつつある。それにともなって、医療、教育、地域社会の形成などさまざまな広がりのある問題が展開しつつある。

こうした事態の発展を前にして、彼らの人権を守り、さまざまな社会的な問題をどのように解決していくかという問題が大きな焦点となりつつあり。

第二には、送り出し国に雇用機会をつくるための協力である。不法就労の外国人労働者が増えた原因のひとつは、単純労働の人手を欲する日本国内の雇主の需要であるが、いま

ひとつは労働力送り出し国の側の供給圧力である。外国人労働者にとって日本の高所得、高賃金が大きな魅力となっていることは事実であるが、同時に、送り出し国の国内に良好な就業機会が不足していることも大きな原因である。外国への出稼ぎは高収入が期待できたとしても、ルスクは高いし、また家族生活への影響や出身地の労働力空洞化など望ましくない効果も少なくない。自分の国や自分の地域に雇用機会があれば、それが最も望ましいことはいうまでもない。

そこで、日本のような先進国が果たすべき役割は、外国人労働者の日本国内での研修や雇用よりも、むしろ直接投資や海外開発援助等通じて、外国人労働者の出身国に雇用機会を創出することにあるのではないかという議論である。

これは正論であり、日本としては最大の努力をつくすべき課題である。しかし、一国の雇用機会の成長は基本的にはそれぞれの国の発展努力の最大に中心課題であって、他の国が投資や援助によってある程度それに貢献することはできるとしても、その役割はおのずから限られたものにしかならないだろう。

第三は、注意深い秩序だった受け入れ策の実現である。日本は比較的高い知識や技能のある外国人以外は就労のための外国人の入国を原則として禁止するという建前をとっている。ところが他方では、単純労働に従事する労働力に対する国内の根強い需要に応えて多数の外国人不法就労者がなしくずし的に日本の労働市場に参入している。この建前と現実との大きな乖離が現実に多くの困難な問題を発生させていることは繰り返し述べてきたところである。

５．結論

単純労働者の受け入れを行わない理由はいくつか考えられるが、『経済社会のあるべき姿と経済新生の政策方針』は「国内の治安に与える影響、国内労働市場に与える影響、産業の発展／構造転換に与える影響、社会的コスト等」をあげている。これをちょっと判断していこう。もしかして賃金は低く抑えることのできる外国人労働者が導入されれば、日本人の賃金は低下する可能性がある。したがって，雇用する企業にとって、グローバル化する経済状況の中では競争力をつくという点ではメリットがあり、労働市場に悪い影響を及ぼすという点で外国人の導入は避けるべきということになる。さらに安価な労働力を抱えることによって新技術の導入のインセンチブを失ってしまうなどのデメリットのあり方も考えないといけないだろう。長期的に見ると単純労働者の受け入れはさらに問題が大きいと言われる。単純労働者の滞在の長期化は、家族統合や子供の教育、さらに社会福祉面での国や地方の支出を増加させるばかりか、社会にうまく統合できない場合には治安の悪化につながるということである。こうした一般的な外国人労働者のデメリットの根拠に対してはよく理解できない面もあり、その検討については別の理解、その検討については別の機会に検討するが、ただ基本計画では「人口減少時代における外国人労働者の受け入れのあり方を検討すべき時期に来ている」として受け入れの可能性を示している。では、「単純

労働者」が導入されない場合の企業の対応について考えていきたい。例えば、製造業などにおいては、海外直接投資によって製造の拠点を移すことにより外国で外国人労働者を雇用するか、日本国内については、ロボットの導入によって生産性を上げ、「効率化」することである。両者とも日本人労働力の節約を可能にするので少子化時代に対応する基本の論理としては、グローバル競争とあわせてみても考えられる。

しかしこの方法は、サービス業などの非貿易財には適用することができない。例えば、建設業や介護といった部門は生産と消費が同じ場所で行われるという点において特徴的であり、海外直接投資によって労働力を外国人に置き換えることもできない。

『外国人労働者』と日本社会の運命はこれからもっと厳しい状況でみられると思うが、さまざまな研究によってぜひ解決されると思う。日本に対して深い愛情を持っている者としては、日本政府に『外国人労働者問題』よりは出産をどう維持していけばいいのかについて考えていただいて、よりよい道を探していきたいと思っている。

オマエって誰？
－日本語の第二人称代名詞・対称詞－

Han Eliza （ハン・イライザ）

１．はじめに

日本語を勉強し始めた時に使っていた教科書に、よく「あなたは何歳ですか？」という人称代名詞が書いてあった。勉強をするにつれ、「あなたではなく、相手を名前で呼んでください」と先生に言われるようになった。日本語には「あなた」以外に「お前」「君」など多くの第二人称代名詞があると言われるが、「お前」や「君」なども使いにくいと聞く。なぜ使われていないのか、また使われないのになぜ多くの第二人称代名詞があるのか、非常に不思議に思っている。本レポートは、日本語の第二人称代名詞とそれに代わる語（名前や親族名称など）についての調査とその分析である。

２．第二人称代名詞と対称詞

２．１．定義

人称代名詞というのは，英語で言えば「I」「You」「he」「she」などである。この中で「You」を第二人称代名詞という。日本語にも人称代名詞はある。それどころか、非常に数が多い。第二人称代名詞について言えば、「あなた」、「きみ」、「おまえ」などである。ところで、それらと同じように相手を示す言葉として親族名称や職業名などもある。ここでは、これらを全部まとめて、対称詞と呼んでいる。対称詞とは話の相手に言及する言葉の総称である。

２．２．対称詞の用法

対称詞の使い方は二つに分けることができる。一つは、呼格的用法と言い、相手を呼びかける時や感情的に呼ぶ時に使われている。ギリシャ語など名詞活用のある言語にたくさん見られる。日本語では、「父よ」のように使うが、文語ではわずかに見られるが、全体的にあまり使わない。

もう一つは、代名詞的用法で、相手のことを指す時に使う。このレポートでは代名詞的用法に焦点をあてる。

２．３．他の言語と日本語の違い

英語などのラテン系の言語には会話中の役割が人称代名詞の交換により表現される。話し手は第一人称代名詞を使って、「今は自分が喋っている」ことを表す。これを能動的行為者という。他方、第二人称代名詞の方は、受動的行為者といい、聞き手を指し、聞く役割が与えられる。これらは相互相称で互いに交換しながら会話を進める。

ところで、日本語には、英語のようないわゆる“you”がない。“you”は「あなた」と

訳されることがあるが、日本語では「あなた」以外に「お前」や「君」など色々な表現があり、you＝あなたではない。また、多くの第二人称代名詞があるものの、実際の会話ではあまり使われていない。さらに、ラテン系の言語と違って、日本語の人称代名詞の使われ方は非相称である。

日本語では、人称代名詞を含む対称詞は会話中の役割（話し手と聞き手）だけではなく、社会的な役割を明示する機能がある。社会的役割には比較的短期と比較的長期の二つの種類があり、短期間には、売り子と客、同じ乗り物にいる乗客間の関係が考えられる。長期間では、職業や家族、社会的な身分、男女の性別等により使い分けられる。

３．日本語の第二人称代名詞の使用について

３．１．使われにくい理由

日本語の人称代名詞は実際の会話ではあまり使用されないが、その理由としては、相手のことを直接に言うのはタブーだと考えられているからであろう。そのため、人称代名詞を使わず、間接的に言うことになっており、他の対称詞（固有名詞、親族名称など）を使う。これらは上下関係によって使い分けがなされる。

３．２．タブーである理由

ヨーロッパ諸語と違って、日本語の人称代名詞は歴史が短く、百年前後である。相手を直接に指すのは失礼なので、場所や方向を表す言葉を使って、相手のことを暗示する。例えば、現在人称代名詞とされているおまえやあなた、こちらなどは、前、あちらの方、こちらなどの場所を表す表現であった。

これらの人称代名詞はもともと、丁寧な言葉だったが、使えば使うほど敬意がだんだん減ってしまい、そのことにより、様々な第二人称代名詞がどんどん新しく作られた。しかし、敬意低減現象は必至である。

また人称代名詞の中にはもともと第一人称であったものが第二人称として使用されるという例もある。「てまえ」「われ」「自分」などで、反転対称と言われる。これらの二人称に転用された一人称は、相手が尊敬の対象に絶対ならないニュアンスがあるので、軽卑語と罵称と言える。この使い方は相手との関係が親しく呼んでいて、一体化だと思っている人もいる。話し手と聞き手はそれぞれ区別する必要がないほど仲良いから。

子供に対する「ぼく」と「あたし」のような反転対称は庇護という意味がある。子供を可愛がっているので、親切にするつもりで、自分の立場から相手である子供のレベルに降りる。

４．日本語の対称詞

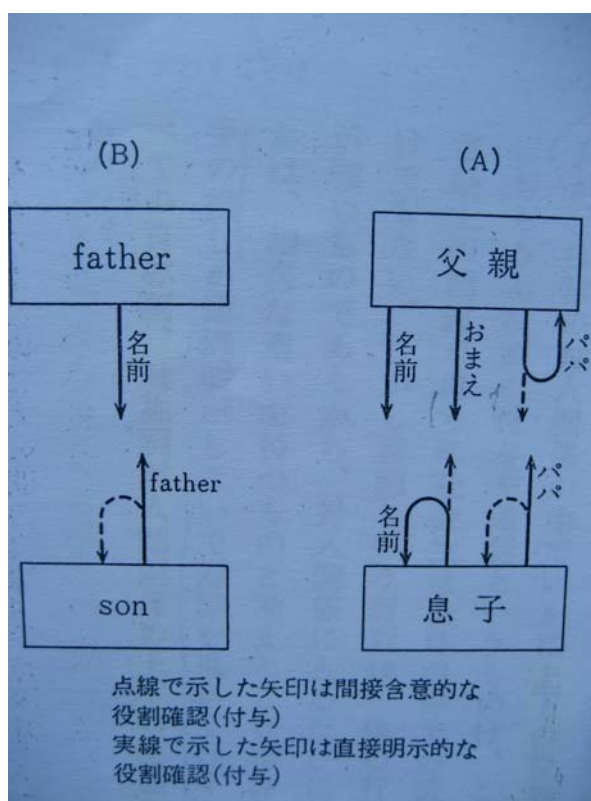
４．１．第二人称代名詞以外の対称詞

日本語では、第二人称代名詞の使用はタブー視されているので、特に目上の相手には使

用が避けられる。その代わりに、親族名称（お父さん）や職業名（八百屋さん）、肩書き（社長）、固有名詞（花子、花子さんなど）などの対称詞で相手を指すことが多い。しかし、このような語であっても、全体的には相手のことを示す言葉はよく省略されている。

４．２．親族名称

親族名称というのは家族達を家族の中の地位で呼ぶことである。そうすることによって、家族の一員として、与えられた役割が明らかになる。日本語には相互の役割を確認する仕方として、次の八種類がある。

① 自分のことを「お父さん」と呼んでいる父親は上位者である役割を言語的に表す。
② 自分のことを「お父さん」と呼んでいる父親は間接的に子供に従属的な役割をさせる。
③ 父のことを「お父さん」と呼んでいる子供は直接に父親に親としての役割を明示する。
④ 父のことを「お父さん」と呼んでいる子供は含意的に自分が子供としての役割を取ることを表明する。
⑤ 子供の名前を呼んでいる父親は上位者の役割を取る表明する。
⑥ 子供のことを人称代名詞で呼んでいる父親は自分が上位者であることを強化する。
⑦ 自分のことを名前で呼んでいる子供は、相手が上位者であること、つまり二人の役割を言語的に確認する。
⑧ 自分のことを名前で呼んでいる子供は下位者の役割を取ることを表す。

４．３．英語などの言語との違い

英語には、４．２に書いてある項目の ③、④、⑤ しかない。
たまに、子供を非常に可愛く思っている父親が「son/sonny（息子）」と呼ぶこともある。そのため、子供は「son（息子）」という身分をはっきされるとの同時に、父親は親であることも強調され、この２つの確認方法を加えて、合計五種類となる。要するに、親族の上下関係の確認のし方という点からいえば、日本語には八種類があるのに対して、英語などでは普通三種類である。基本的な人間関係である親族の例を見ても、人称代名詞は上下関係を付与することが明らかになる。

４．４．社会的な機能

社会的な機能（例えば部長などの地位名称）も親族名称と同じように、役割を示す。目上の相手に対しては地位名称を使えるが、人称代名詞は使えない。名前を使う場合でも、名前だけではなく地位名称も一緒に使わなくてはいけない。逆に相手が目下であれば、人称代名詞で呼べるが、地位名称で呼ぶことはできない。

また地位名称には、固定的な役割も付随している。「部長」と呼ばれている人は平社員の面倒を見たり、重い責任を持ったりすることになる。関係が明らかでない場合には、どの役割を取ればいいか分からないので、会話者たちは不安定な気持ちになる。だから、対称詞は自分と相手の位置を明らかにさせる座標系のようなものである。

４．５．関係の変化による対称詞

知り合ったばかりの時に、名前さえ知らぬうちに、人称代名詞を使うのは珍しくない。親しくなるにしたがって、ほかの対称詞を使うようになる。つまり、人称代名詞はだんだん使われなくなるわけである。例えば、新婚夫婦は結婚という契約に入ったばかりの時に、まだ慣れていないし、不安定なので、半ば意識的に夫としての、妻としての役割を演じる。たいてい夫は妻のことを名前で呼ぶが、妻は夫のことを名前か、あるいは「あなた」という代名詞で呼ぶ。

子供ができると、安定度が高まる。夫婦だけでなく、親である役割も与えられるからだ。家族の中の縦関係に入り、付き合い方は子供に基づくことになる。夫婦はお互いのことを「パパ」と「ママ」と呼ぶようになり、永続的な安定状態に入る。日本人の結婚は原理的にスタテイックで不変だと言われている。

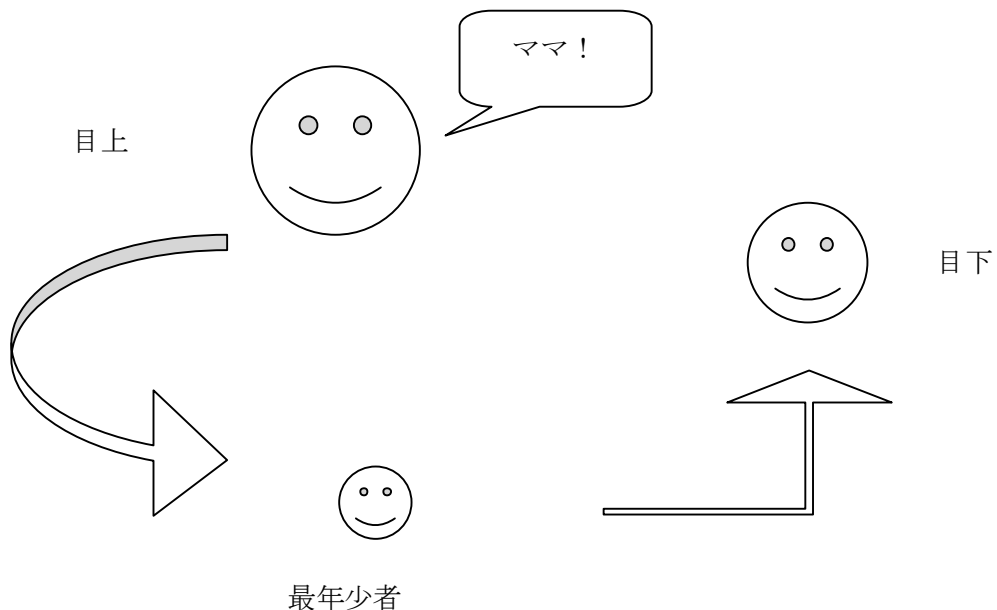
既に決まっている役割が変わった場合、いわゆる変化を受けにくい日本人はどうやって付き合ったらいいのか分からなくなる。例えば、妻が教授の夫の授業に出ると、夫は妻に対する自己規定と他の学生に対する役割が衝突してしまい、妻をどのように呼べばよいか迷うと言う。

４．６．親族名称の虚構的用法の第一種

知り合いに対しては、役割が含まれた対称詞が使われるが、見知らぬ人やまだ知り合いとは言えない関係の場合にも親族名称の虚構的用法が使用できる。これは、相手を仮に家族と見なすことによって、それに合った親族名称で呼ぶことである。例えば、お年寄りの男性のことを「おじいさん」と呼ぶ。友人の母親と話している時にも「お母さん」と呼んでもいい。友人の立場に移ってから、言うからである。また、私が町で年配の人から「お姉さん」と呼ばれたりするのも、この用法である。ただ，年配の人から見て私は年上ではないので、仮に家族としても「おねえさん」にはあたらない。これは、次の４．７に紹介するもう一つの虚構的用法がプラスされたものだと思われる。

他の言語ではこんな虚構的用法がなくて、必ず「誰かの誰々さん」と呼ばないといけないことが多い。例えば、A という友人の母親は「A のお母さん」となる。

４．７．親族名称の虚構的用法の第二種

第一種との違いは自分より年下の相手のことを自分より年上の親族として呼ぶことである。例えば、あるお年寄りは娘と孫と一緒に電車に乗って席を見つけた時に、自分の娘に「ママここにいらっしゃい」と声を掛ける。年下の相手に対しても、最年少者を原点にし、こういうふうに呼ぶことができる。日本語の特徴の一つは自己中心語である。自己中心語とは話し手によりその対象物が変わるものを言う。例えば、話し手が「右」と言っても、それは他者，例えば聞き手には「左」になってしまうものなどをさす。上の例なら、「ママ」がそれで、これは話し手によって異なる人物を指し示す。上の例では、自己中心語の他者中心的用法と言い、孫の立場から呼んだものであるが、それを省略しても誤解することがない。

上の例と同じように、二人の子供がいる時に、年上の子のことを虚構的な親族名称で呼べる。例えば、二歳の娘と四歳の息子がいれば、息子のことを「お兄さん」と呼んでいる親もいる。そうすることによって、息子の地位を少し高めているようだ。末っ子は親族名称で呼べないので、高めることができない。

家族ではない若い子に対しても親族名称が使える。例えば、若い女の子はよく、「お姉さん」と呼ばれるだろう。親類でも年上でもないけれども、虚構的最年少者の視点から見れば、年上になるので、「お姉さん」となる。

５．第二人称代名詞の使用実態

５．１．先行研究—日本語母語話者

大浜・荒巻・曽（1999）は、日本語母語話者が自称詞と対称詞を実際どのような頻度で使用しているかを、インタビュー形式の会話資料を用いて調査している。結果は、2088 話者交替数の中で、対称詞と自称詞の使用が見られたものは、そのうちの 10.6%しかなかった。対称詞はその中の 1.5%にすぎなかった。母語話者の自然会話によれば、日本語では対称詞と自称詞がよく省略されることが明らかになった。中でも特に第二人称代名詞を避けるようにしている現象が見られることがわかった。なお、使われた場合は、対比や話題導入、特定、明示、強調という機能を持っていた。

５．２．先行研究－非日本語母語話者

大浜・荒巻・曽（2001）では、日本語教科書における自称詞と対称詞の使用頻度の調査も行っている。18 冊の教科書の会話部分の分析によると、教科書によって使用頻度に大きな差はあったものの、平均自称詞は 57.8%、対称詞は 42.2%と高頻度で、母語話者の自然会話との違いは明白であった。

６．インフォーマルな調査

６．１．調べたいこと

参考文献や先行研究を読んだ後、自分自身が日本人たちにどういうふうに呼ばれるのか大変興味を持つようになった。先行研究で言われていることが本当にそうなのかが知りたくなって、インフォーマルな調査をすることにした。調査は、2007 年二月末から七月末にかけて、周りの人が私のことをどのように呼んでいるのか、呼ばれたたびに記録していくというものである。

６．２．記録の仕方

この五ヶ月に自分が呼ばれたことを、日本人と外国人の二つのグループに分類し、記録していった。このことにより、日本人と外国人が使っている対称詞に違いがあるかどうかが分かるのではないかと考えた。

これらの集計は、以下の２グループに分けて行なった。

① 使用者別人数の方は、同じ人に同じ表現で呼ばれた場合は、それらを一つとして数えた。例えば、三月一日にも二日にも花子さんに「イライザさん」と呼ばれたとしたら、「イライザさん」の数を一つとした。
② 延べ回数の方は、同じ人に同じことと呼ばれても別々として数え上げた。例えば、昨日花子さんに「イライザさん」と呼ばれれば、「イライザさん」の数に入ってました。今日も花子さんに「イライザさん」と呼ばれたら、またもう一つとして入れた。

６．３．結果と分析

表１　どの人にどんな表現で呼ばれた

		①使用者別人数	②使用延べ回数
日	固有名詞	74（71.2）	241（85.2）
	あだ名	0（0.0）	0（0.0）
	親族名称	2（1.9）	2（0.7）
	社会的役割	7（6.7）	7（2.5）
	人称代名詞	21（20.2）	33（11.7）
	合計	104（100.0）	283（100.1）
外	固有名詞	23（67.6）	155（67.7）
	あだ名	3（8.8）	4（1.7）
	親族名称	0（0.0）	0（0.0）
	社会的役割	0（0.0）	0（0.0）
	人称代名詞	8（23.5）	70（30.6）
	合計	34（99.9）	229（100.0）

固有名詞としては、イライザ、ハンイライザ、イライザさん、ハンイライザさん、ハンイライザ様、ハンさん、イライザちゃん、エリザ、エリザさん、ハンエリザベスさん、イさん、ハン様が使用された。

あだ名としては、イライザルとおばあさん（年下の友人がいたずら心から使用）の二種類であった。

親族名称には、お姉さんが、社会的役割語には、お客様が使用された。

人称代名詞としては、あなた、あんた、おまえ、きみ、あなたがた、自分たち、あなたたちが使用された。

ここで外国人というのは、日本人以外の人を指し、その出身国はインドネシア、ドイツ、モンゴル、ベトナム、香港、中国、ウズベキスタン、フィリピン、インド、台湾、アメリカ、ネパールである。本調査ではこれらの外国人と日本語で会話した際のものだけを記録した。

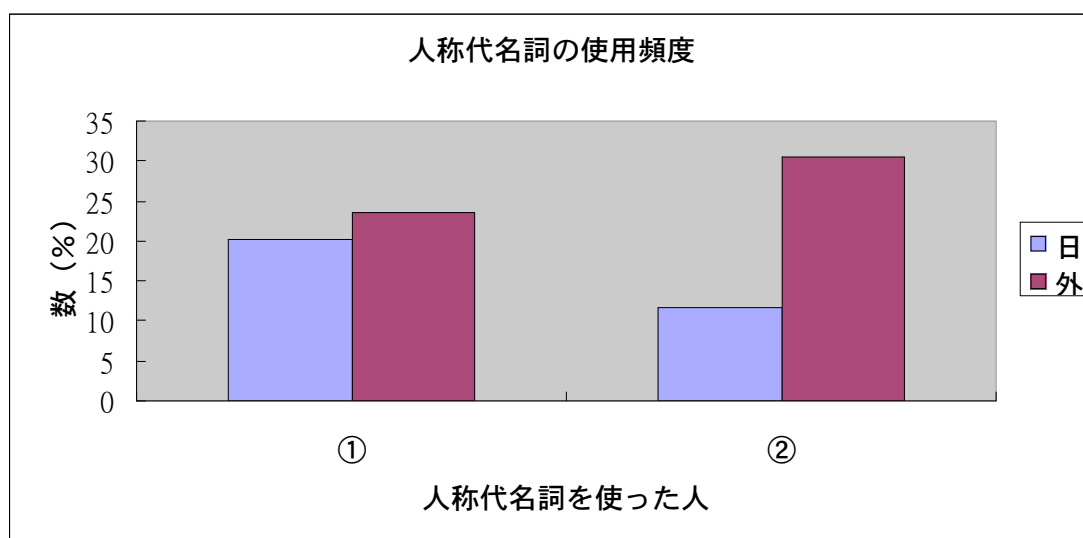



図１　人称代名詞が使われた頻度

図１を見てみたら、日本人と外国人の人称代名詞が使われた比率は明らかになる。日本人より、外国人は人称代名詞を使うことが多い。

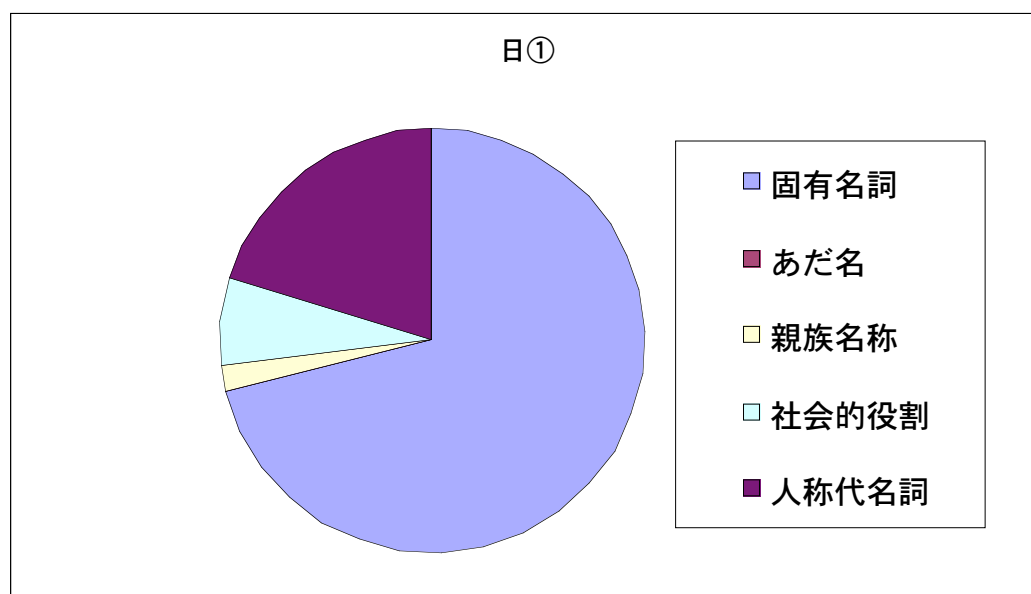



図２　使用者人数別に見た対称詞の割合（日本人の場合）

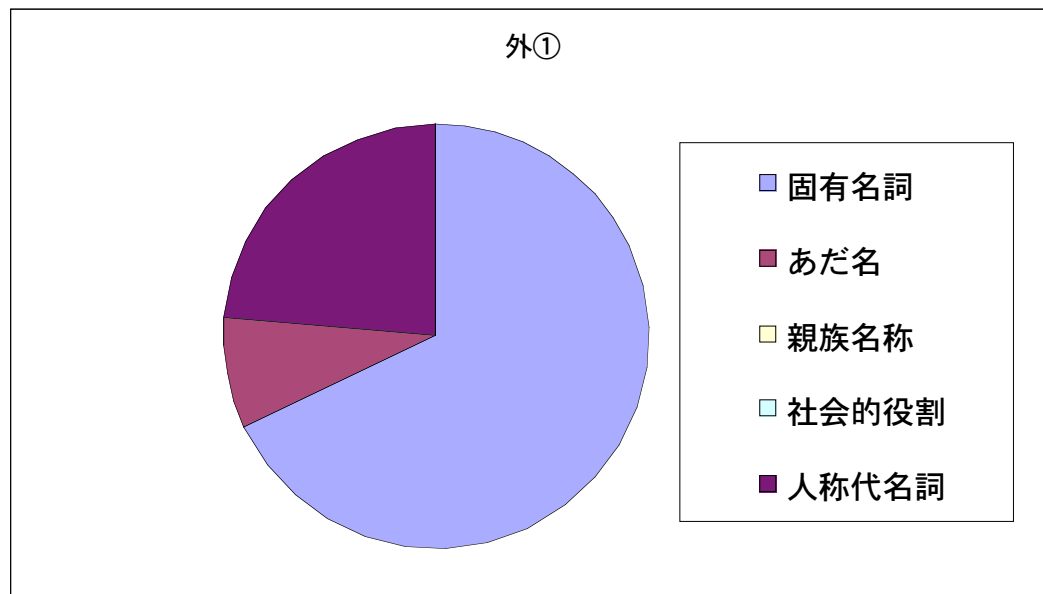



図３　使用者人数別に見た対称詞の割合（外国人の場合）

図２と図３を見ると、日本人と外国人の人称代名詞使用頻度はあまり違わないようである。しかし、日①の２０．２％の中で、半分以上は大学の先生が使われたのである。他にはホストファミリや先輩などの目上の相手に呼ばれたのである。一方、外①の場合は、私のことを人称代名詞で呼んだ２３．５％の人は、全員同級生である。日本人と違って、外国人は上下関係について意識せず、人称代名詞を使っていると言えるであろう。

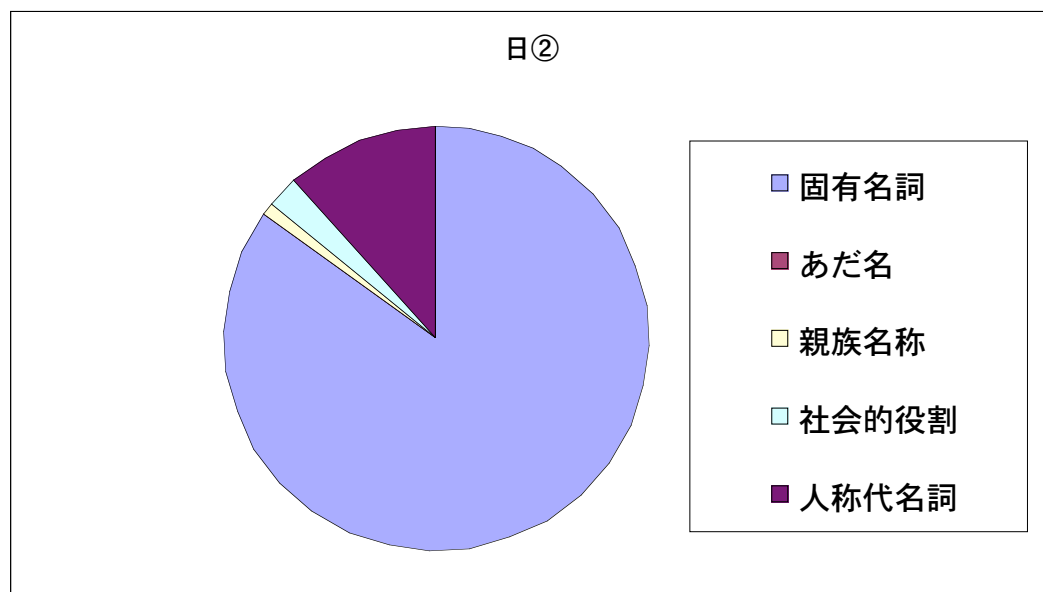



図４　使用延べ回数から見た対称詞の割合（日本人の場合）

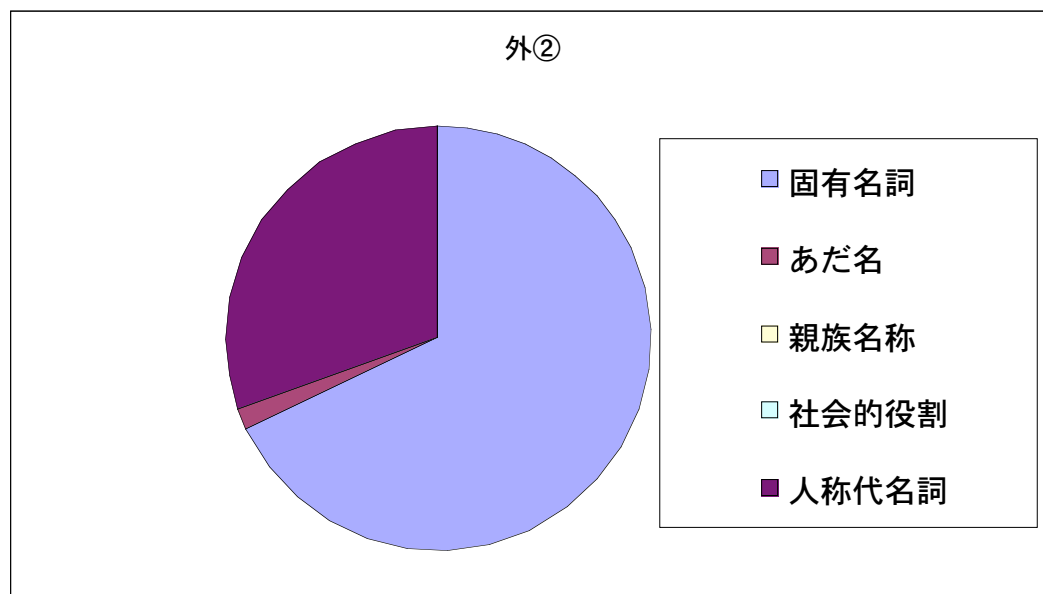



図５　使用延べ回数から見た対称詞の割合（外国人の場合）

インフォーマルな調査の結果を先行研究と比べると、日②の１１．７％は自然会話の１４．０％（大浜・荒巻・曽　2001）に近い。外②は３０．６％となり、教科書の中にある会話の３２．５％（大浜・荒巻・曽　2001）に似ていると言えるだろう。

表１の①（使用者別人数）と②（使用延べ回数）の合計を比較してみれば、外国人のほうが急に上がってくる。例えば、①に日本人は１０４人がいて、外国人は３４人しかいない。しかし、②に日本人は２８３人がいるけど、外国人の数も２２９人となる。これは、もしかすると外国人との付き合いはある決まった人に限定されていたのかもしれない。あるいは、日本人の場合、対称詞を省略することが多かったのかもしれない。対称詞はどんな時に、なぜ省略するのかも調べたいが、残念ならが、それは今後の課題である。

７．おわりに

日本語の第二人称代名詞は他の言語と違って､特別な使い方やニュアンスを持っている。相手のことを尊敬するのを言葉で表すために、あなたなどの暗示的な第二人称代名詞が作られた。しかし、使用につれて、敬意減少が避けられないことになったので、第二人称代名詞は僅かに使われている状態となっている。相手との関係によって、第二人称代名詞を使う時もまだある。第二人称代名詞以外の対称詞のほうが使いやすく、話し手と聞き手の役割もはっきりさせる。日本人母語話者と非日本語母語話者の対称詞の使用を調べてみると、非日本語母語話者のほうがよく対称詞と、対称詞の一つの第二人称代名詞を使っていることが明らかになった。

参考文献：

鈴木孝夫（1973）「ことばと文化」第六章『人を表すことば』pp.129-206　岩波新書

縫部義憲（2006）「講座・日本語教育学　大二巻　言語行動と社会・文化」第二章『待遇・敬意表現』pp. 121-127　スリーエーネットワーク

大浜るい子・荒牧ちさ子・曽儀婷（2001）「日本語教科書に見られる自称詞・対称詞の使用について」『中国四国教育学会　教育学研究紀要』第４７巻２部

若者ことばについて

沈　恵芬（シン・ケイフン）

はじめに

若者ことばについて考察するきっかけになったのは、日本人の若者同士が非常に楽しそうに会話を交わしている時、その会話の中に私に通じないことばがよく出てくることに気づいたからである。日本人に質問することによって、やっと分かるようになった。それは彼ら自分が作ったことばで、いわゆる「若者ことば」というものだとか。「フルコマ」や「チャイゴ」、「セブンル」など、今は誰でも分かっており、よく使うような言葉にもなっているかもしれないが、最初に教えてもらわないと理解できないものである。教科書で教える堅苦しそうに感じられる言葉と違って、聞いたりその意味を探ってみたりすることが、なんだか目新しい感じを与えてくるような気がする。なかなか面白く思われて、インターネットで調べてみたら、若者が勝手に作り出した、日本語を乱している、問題な日本語だとかという批判がある一方、新たな造語法により、日本語を豊かにしたり、会話のテンポをよくし、仲間意識を強めたりするに役立つというような積極的な見方もあることが分かった。興味深いものであると同時に、難解なところもあるようで、このテーマについてもっと詳しく調べることにした。日本語のレベルの向上及び一層深く日本文化への理解を目標に、考察を行っていきたい。

第１章　定義と特徴

若者ことばというのは、年齢層からすると、主として 10 代前半から 30 歳前後の男女に使われており、一般的に国語辞書には載っておらず、いわば俗語としても扱われる、一つ一つの集団や、仲間同士などに限って通じることばや単語、言い回しのことをさす。仲間内で、会話促進・娯楽・連帯・イメージ伝達・隠蔽・緩衝・浄化などのために使う、規範からの自由と遊びがそれの特徴である。また、時代によって違ってくる。若者語ともいう。

その特徴についてすこし説明すると、

① 仲間内で使うこと

ヨソ者、つまりまったくの他人は当然のこと、名前を知っている
人でも仲間意識がない人々に対しては使わない。そこから、ヨソ
者には何を言っているのか分からない隠語めいた語に聞こえる。
そこで、若者言葉がしばしばよそ者に訳の分からない変な言葉だ
と批判されている。

② 会話促進・娯楽・連帯・イメージ伝達・隠蔽・緩衝・浄化などのために使う

これは若者ことばの使用の目的と其れの果たす機能から見た特徴である。会話のノリを

楽しむために語を省略したり、倒置したりして、新しい語形を作り出し、また本来の意味を変えて別の新しい意味で使用し、さらに今までにない新しい用法をして見せる。

③ 規範からの自由と遊び

近代化によって、個人の解放・自由を追求し続けた結果、現在、個人の自由は行き着く所まで来た感があるが、とりわけ若者は最も先鋭的に個人の自由を主張しており、服装、持ち物、考え、行動、ことばのどの面を見ても従来の規範から自由である。其の中でことばの規範から自由に、悪く言えば勝手に新たな語を作り出し、新たな意味と用法で使っているのが若者ことばと言える。

第２章　できた時代背景ときっかけ

若者ことばはある特定の時代に急に生まれ出したわけではなく、いずれの時代にも存在している。それぞれの時代背景に応じて、様々な若者ことばが生まれるわけである。そのため、特定の時代を定めないと若者ことばというもののできるきっかけや特徴などに関するすべてが考察しにくくなる。それらを考えたうえで、本レポートでは明治時代から今までの若者ことばを考察の対象にすることにした。

以下、若者ことばが生まれる社会的要因を、米川明彦氏の『現代若者ことば考』に書かれてあることを参考しながら簡単にまとめた。

日本において若者文化が形成されたのは一九六〇年代である。高度経済成長を背景に六五年には高校進学率が七〇％になり、大学生が百万人を突破したことがその大きな要因である。

六十年代から七〇年代にかけて「青年」という語が使われ、青年文化論が盛んに展開された。次いで七〇年代から八〇年代にかけて「青年」に代わって「若者」の語が使われるようになり、新たな若者文化論が展開された。七〇年代後半の「モラトリアム人間」、八〇年代前半の「新人類」、「メディア人間」、八〇年代後半カラ九〇年代にかけての「おたく」などがどの代表例である。

１.「まじめ」の崩壊

七〇年代前半まで続いた高度経済成長期の日本社会では「まじめ」、「努力」、「汗」、「能率」が価値基準として高い地位を占めていたが、七〇年代後半から、豊かになったことで目標を喪失し、豊かさを楽しむ高度消費社会へと変化していった。そこでは先の「まじめ」が軽蔑され、今では「マジ」という若者語になってしまった。経済成長期はスポーツ根性（スポコン）物のマンガ『巨人の星』がはやったが、八〇年代以後、スポコン物ははやらず、軽いノリでふざけた面白さを持つ自分と等身大の主人公に人気が移った。こうして日本社会は楽しむことを第一とするようになった。このような緩んだ社会は消費を謳歌するのと相まって、ことばに縛られるのではなく、娯楽の手段としてことばを遊ぶようになった。ここに若者ことばがそれ以前に増やして会話をより楽しむために、より自由に、より

多く生産されるようになっていたのである。若者ことば――「ノリ」の会話はまさに日本の高度経済成長期の所産なのである。

２．高度消費社会

八〇年代、若い女性がマーケットのターゲットとなり、時代のトレンドを握るようになったといわれる。そこで、女性達の消費傾向と若者ことばとを結びつけて考えると、八〇年代はブランド物が流行し、次のようなことばが使われた。

□イタモン：イタリア製の服飾品
□イタメシ：イタリア料理
□イタカジ：イタリアンカジュアル
シャネラー：「シャネル」でコーディネートした女性

３．ボーダーレス社会

高度成長によって日本は高度成長社会となり、それまで支えられて来た男性の価値観は否定される方向に向かっている。七〇年代から八〇年代にかけてボーダーレス社会になった日本は、男女の性的規範も崩れユニセックス化しており、若者ことばにおいては女性が男性を品定めをして表す時代となった。こういうことばが使われた。

□アバウト君：いい加減な男性
□キープ君：結婚相手の本命が見つかるまでキープしておく男性
□パセリ君：売れ残りの男性
□ギャル男：ギャルのような男性
□ゲロ男：不細工な男性
□ケミ男：ケミカルウオッシュのジンズをはいているダサイ男性

また、一九八六年四月に男女雇用機会均等法が施行され、総合職につく女性に関わるOL 用語が生まれた。

□寝たきり OL：残業続きでくたくたになり帰ったら寝るだけの OL
□自由流通 OL：能力を持っているためいつでも転職できる OL
□バリキャリ：ばりばり働くキャリアウーマン
□エレキャリ：エレガントなキャリアウーマン

４．高度情報社会

若い女性の間にポケットベル（ポケベル）が流行している。このようなポケベルの流行から、女子高生達はポケベルに関する新語を造っている。

□いたベル：いたずらポケベルの略
□からベル：ポケベルにメッセジーが入っていないこと

□ベル友：ポケベルだけの友達
□ベル番：ポケベルの番号
□ブルってる：ポケベルが振動してかかってきたことを知らせる

５．サービス社会

サービス化が進んだ日本社会では、ファーストフードやコンビニが若者の間人気があり、それらの名称が略されたり、動詞化されたり、比喩化だれて使われている。

□マック：マクドナルド。関東で使う。
□マクド：マクドナルド。関西で使う。
□ミスド：ミスタードーナツ
□ファミマ：ファミリーマート
□マクる：マクドナルドに行く
□ファミる：ファミリーマートに行く
□ロソる：ローソンに行く。「ローソる」とも。
□人間ローソン：休みなしに働いている人

６．おしゃべり社会

現代はおしゃべり文化の時代である。おしゃべりはおしゃべりすること自体に意味があり、楽しみがある。若者達はこのおしゃべりの時代にもっとも過激にことばを造語し、用法を変え、意味を変えておしゃべりを楽しんでいる。まさに会話の「ノリ」を楽しんでいるのである。また、大げさな表現、強調する表現、新奇な比喩表現を使って笑いをねらった会話をしている。

例えば、強調表現には、「めっちゃ」「めちゃくちゃ」「すごい」「超」「激」「バリ」「メッサ」「鬼」「スーパー」「マックス」などがある。

第３章　若者ことばについての批判

規範とされる国語・標準語からずれている若者ことばが日本語の乱れだと批判する人が少なくない。主として意味不明や文法、敬語などの表現に関するものが批判の対象とされる。また、自由を追求し、会話の「ノリ」を楽しむために使われる若者ことばは日本語の乏しさの現れだという声も聞こえてくる。

まず、ここで「乱れ」とは何なのだろうかを見てみよう。ウィキペディアによると、「日本語の乱れ」とは、規範とされる日本語（標準語）（国語）と現実の日本語の食い違いを否定的に捉えた語であるという。それでは、「乱れ」と見なされる理由をいくつか見てみよう。

１．理解できない

若者のしゃべりに耳を傾けてみたとしても、何をしゃべっているのか分からない。例え

ば：

ってユーカー、この前ゴーコン行ったんだけどさー、イケメン期待してたら、マジありえないブタメシそろえやがって、ホント死んだワー、てか、むしろチョー、テンパッたー。しかもケイバンとか聞かれてー、スで無理なんだけどー。

いきなりこういう話を聞かされて、よそ者で聞き取れる人は恐らくいないだろう。

「ブタメシ」：

「イケメン」の反対で、「ブサメン」（不細工な男）、「シケメン」（シケてる男）などの内の、とにかく「ブサメン」の「ブサ」に「ブタ」の響きが重なり、「メン」に「メシ」の字面が重なって、さらに BSE 問題で登場してきた「豚丼」「豚飯」がかぶっていると。

「テンパる」：

せっぱ詰まって緊張の極にあることを示している。麻雀のあと一枚の牌がそろえば上がりという状態の「聴牌」からきているということだ。

「ケイバン」：

携帯電話の番号

「ス」：

「素」であって、「そのまま」「ダイレクトに言って」「なんら考えずとも」というような意味になる。

こうした若者のお喋りに出てきた「ブタメシ」「テンパッたー」「ケイバン」「ス」のようなことばはどういう意味か、その語源や発生のプロセスなどを説明しないとヨソ者にはさっぱり見当がつかないため、彼らに「訳の分からないことば」として扱われるのも仕方なさそうなものだ。

２．文法に従わない

規範とされる従来の標準語の文法に反する使い方の中で、「ラ抜き言葉」と「全然」の使い方がよく取り上げられている。

「ラ抜き言葉」：文法によると、「書ける」のような「可能動詞」を作ることができるのは「五段活用」する動詞だけで、「食べる」のような「下一段活用」する動詞や「見る」のような「上一段活用」する動詞は、助動詞「られる」を使って「食べられる」「見られる」としなければならないことになっている。そこで、「食べることができる」の意味での「食べれる」のように「ラ」を落としてから使う、いわゆる「ラ抜き」というのは文法上のひずみで、文法的に誤っているのだと指摘される。

「全然」：「全然ーない」などと後ろに否定や打ち消しを伴うのが正しいとされる「全然」は、若者達の手によって、「全然大丈夫」「全然平気」「全然 OK」「全然楽しかった」のような使い方が作り出された。言うまでもなく、規範に反するものだと見られる。

３．若者流の敬語表現に違和感がある

よく耳にするのは下降調で言う「私って、〇〇が好きじゃないですか。」というのがある。自分の意見をことさら強調して押しつけがましく思われる可能性があると指摘される。

４．語尾上げ（半疑問イントネーションがおかしい）がおかしい

最近このような話がよく聞こえる。「このホームページ？の管理人？彼の名前？は山戦士？だと思う」とか。このように言葉の最後を問いかけるふうに上げて話すことを語尾上げという。こうした話し方が蔓延するのは現代人の自信の無さの現れだと言われる。つまり、自分の意見を断定的に言った時に予想される反発を緩和させるため、或は使う言葉に疑問形をつけることで相手の様子を判断し、自らの引き際を定めたいとの思惑があるようだということで否定されている。

（とかとか、みたい、感じ、状態、モード、微妙など）

５．語彙が貧困だ

会話のノリのよさを求める若者達が、言葉を交わす時に、早く相手の話に反応ができるように、さほど思考せずに、直接「マジ」「チョー」「バリ」などを連発しながら、何事も「スゴイ」「カワイイ」「ムカつく」といったような単純な言葉で一括にして済める。いかにも語彙量が乏しく思われそうだ。

以上、批判者による批判する主な理由を五つ挙げた。それらを通して、若者ことばはなぜ批判されるかが分かった。

第４章　若者ことばについての肯定評価

若者ことばは第三章でまとめたように「おかしいことば」と言われ続けてきている一方、「決してくだらない、間違ったことば」ではないというふうにも考えられる。文法上ではちゃんとした造語法が見られ、コミュニケーション効果では会話をスムーズに運んだり、仲間意識を強めたりするような機能があるという。さらに、こんな耳新しいことばの出現の背後ではたらくメカニズムや日本語変化の大きな流れが見えてくるという新たな見方も最近よく耳にするようになってきた。筆者もこちらの見方に傾いている。さて、以下に若者ことばに肯定な評価を与える証拠をいくつか見ていこう。

（一）　ちゃんとした造語法が見出せる：

意味不明に見える若者ことばは実際ちゃんとした造語法がある。大きく分けて、既存の語とは無関係な新語を造語する方法と、既存の語を利用して新語を造語する方法の二つに分類される。以下は、米川明彦の『現代若者ことば』を参照しながら、まとめたものだ。

１．既存の語と無関係な新語の造語：

全く新しい語を造るもので、マンガなどの擬音語・擬態語・擬声語などによく見られるが、若者ことばでは次のような語がある。

ゲロゲロ：嫌な感じがする時発する語

例）A：あした哲学休講やろ？

B：えっ？あれ取り消しになってたよ。

A:うっそー、ゴロゲロ！

ルンルン：心が弾む時に言う語

ウルウル：悲しいさま。涙が出るさま。

ギンギン：力がみなぎっているさま。

ギョエー：気持ち悪い時やびっくりした時に発する語

このような擬音語・擬態語などの造語は既存の語を無視して造られた。こうした音を繰り返すことによってリズミカルになり、面白さが出る。

２．既存の語を利用して新語の造語

１）借用：外国語から借用することが多い。本来の意味が変えられて、遊びの精神から生まれた語が多い。

アウト：だめ。ダサイ。「オフ」とも言う。

アメリカン：アメリカンコーヒーが薄いことから、頭髪の薄いこと。また、話などの中身がないこと。

カセット：録音用カセットテープは「音入れ」だから「おトイレ」の意。

クリスマスケーキ：二十四日を過ぎるとクリスマスケーキが売れなくなることから、二十四歳を過ぎても結婚しないでいる女性を指す。

マックス：とても、非常に。「マック」とも。

デビュー：今までダサかった人が、おしゃれになってあか抜けすること。または悪いことを始めること。

例）A:〇〇って知ってる？

B:同じ高校だったけど、話したことない。暗かったし。

A:え、おしゃれで面白い人でしょ。

B:ウソ、じゃ大学デビューなのかな。

２）省略：語句の一部を省略する方法である。この省略にも色々な種類がある。

a.上略：単語の上部を省略したため、元の語形が分かりにくいため秘密保持のための

犯罪者隠語によく見られる方法である。一般語には無く、若者語には次のような例があるが、俗っぽく、また不良っぽく聞こえる。()内が省略された部分。

（ハイ）ヒール

（サラ）リーマン

（喫）茶店

（ケンタッキーフライ）ドチキン

（その）まんま

（ス）マップ

（使い）走り……ぱしり

例）A:なあ、ジュース買ってきて。

B:私はあんたのぱしりか？！

b.中略：単語の途中を省略したもの。数は少なく、形容詞が多い。

きも（ち悪）い

はず（かし）い

むず（かし）い

うっと（うし）い

はげ（はげし）い

フラ（ンス）語

c.下略：単語の下部を省略したもので、省略語の中で最も多く、四割以上を占める。省略されても、元の語が分かりやすいので普及　　　　　　　　　　　している。そして、省略されて三拍になることが多い。

キャラ（クター）

ケンタ（ッキーフライドキチン）

マクド（ナルド）

なにげ（なく）

ごち（そう）

おそろ（い）

お気に（入り）

うれし（がり）

色ち（がい）

d.複合語の各要素の下部を省略

各要素を省略して二拍＋二拍、計四拍とすることが多い。省略の中でも数の多いものである。

かて（い）教（師）

スノ（ー）ボ（ード）

カラ（ー）コン（パクト）

追い（出し）コン（パ）
一（方）通（行）
いた（ずら）電（話）

３．動詞の派生――“る”ことば

「る」をつけた派生動詞は「タクシーに乗る」を「タクる」、「コピーをとる」を「コピる」というように述語動詞を「る」で代行させて短く簡潔に表すことで会話のテンポを良くしており、会話測深に一役買っている。中でも、コンビニやファーストフード店に行くことを表す語が多い。
マクる：マクドナルドに行く
ローソる：ローソンへ行く
オケる：カラオケへ行く
デニる：デニーズで食事する
タコる：たこ焼きを食べる
たばる：タバコを吸う
コンパる：コンパをする
トラブる：トラブルが起きる
パニクる：頭がパニックになる
ウニる：頭がウニのようにごちゃごちゃになる
ブタる：太る
がきる：ガキのようなことをする
馬耳る：馬耳東風から、人の言うことを聞かない

４．形容詞・形容動詞の派生

これには活用する接尾語「い」「っぽい」をつけて形容詞を造る方法と、英語の接尾語「チック」「フル」「レス」をつけて形容動詞を造る方法とがある。「チック」はどんな語にも付きやすく、造語しやすいが、「フル」「レス」は臨時的で、例は少ない。
今い：当世風のさま
いもい：田舎っぺのようなさま
水っぽい：水商売風のさま
アホっぽい：アホであるようなさま
ヤバチック：少しヤバイ
変チック：少し変
羞恥フル：羞恥心があるさま
元気レス：元気がないさま
バスレス：スクールバスに乗ろうと思った時間にバスがないさま

根拠レス：根拠がないさま

その他、「てるてる言葉」というのもある。例えば「ゴリってる」はゴリラのような顔のさまを言う。この形式は動詞であるが、意味的には形容詞である。主体の状態、様子を描写したもので、在来の形容詞の不足を補う造語法になっている。

ウルフってる：「一人狼」から。一人ほかと違ったことをしている
きょどってる：挙動不審の様子である
つちってる：化粧していないこt。疲れがたまって顔色が悪いこと
ロリってる：大学生位の女の子が小学生風の可愛い格好をするさま
オニってる：激しくする。ひどいことする。
例）A:昨日の朝七時から晩十時までずっとバイトやっててん。
　　B:それはかなりオニってるわ。

５．動詞の複合

「する」をつけてサ変動詞を造る方法である。この造語法は本来、動きを表す運動性の意味を持つ名詞に付くが、若者ことばでは人に関する語を始め、運動性の意味を持たない名詞にも付く。これは上にくる名詞のイメージがはっきりしている場合である。従って、イメージ伝達機能を果たす。

お茶する：喫茶店へ行く
大人する：めかす
おばさんする：中年のおばさんのような言動をする
女子大生する：ミーハーっぽく騒いで遊び回る
マルシアする：変な日本語を使う

６．名詞の複合：

主体の状態を表している。

与謝野晶子状態：髪が乱れている
空腹状態：お腹がすいている
おやじ状態：おやじのようなさま
クラゲ状態：暑くてだれたさま
勉強モード：勉強している

以上、よく見かける若者ことばの造語法を分類してまとめた。

検証してみると、若者ことばは一般語と違い、造語法がかなり豊富であり、ユーモアを含んでいるということに気付く。この豊富な造語法によって作り出された若者ことばは現代日本語を乱しているというより、日本語をカラフルにしていると言ったほうが適切なのではないだろうか。古くから、日本人が語尾の付き替えによって品詞を転換したものが無

数にある。例えば、「明るい／明かり／明らか」「群れる／村」「欠ける／欠片（かけら)」「白／白い」のような語がある。また、近くの「サボる」は「サボタージュ」を省略して、「る」をつけてできたもので、今現在全く違和感を感じずに使われている。仮にこのような造語法を誤りとして排除してしまうとしたら、日本語の語彙は非常に乏しいものになってしまっただろう。これからの日本語の美しさを守るどころか、かえって日本語の造語力を低下させ、本当の日本語の貧困化を招くのでは。

（二)「ラ抜き言葉」により「意味明晰化」「動詞活用単純化」の実現

「文法的に誤っている」「日本語が乱れている」例として常に取り上げられている「ラ抜き言葉」に関して、井上史雄氏の『日本語ウオッチング』においてその広まった理由について新たな意見を述べた。以下、井上氏の観点をまとめてみた。

１．意味の「明晰化」が実現できる

従来、助動詞「られる」には、受け身と尊敬、可能、自発との４つの意味がある。だから、「見られる」とか「食べられる」とかという言葉を聞いたり読んだりした時、その４つの中のどの意味になるのかを文脈から判断しなければならない。例えば：

「彼は熊に食べられた」→受け身

「先生はそのお菓子を食べられた」→尊敬

「私は納豆を食べられる」→可能

「私には、それは正しいことのように思われる」→自発

しかし、曖昧になってしまう恐れもある。例えば、「先生はその料理を全部は食べられなかった」の場合では、尊敬の表現か可能の表現か判断がつきかねる。一方、「ラ抜き言葉」を使うと、可能の意味はもっぱら「ラ抜き言葉」で表現し、尊敬の意味は相変わらず「られる」で表現するので、曖昧さが丸ごと吹っ飛ばされるのである。つまり、上の例そのままだとすれば、尊敬の意味になり、可能の意味を表したいなら「先生はその料理を全部食べれなかった」になるわけだ。こうして、可能と尊敬の意味の明晰化が実現できたわけである。

２．動詞活用の「単純化」ができる

日本語の動詞の可能形にはいくつかの活用パターンがある。例えば、五段動詞の「読む」は「読める」になり、一段動詞の「見る」は「見られる」になることになっている。しかし、もし「ラ抜き言葉」を使えば、「見られる」は「見れる」になって、可能の形が「読める」とそろうことになる。つまり、一段動詞と五段動詞の可能の形が同じようになることだ（図１)。これはカ変動詞の「来る」（最近は「来る」の可能形も「来れる」になったようだが）とサ変動詞の「する」以外の全ての動詞に当てはまるので、動詞活用が単純になるわけだ。

図１

	読む	見る
終止形	yom-u	mir-u
受け身・可能	yom-ar-eru	mir-ar-eru
新しい可能形	yom-eru	mir-eru

図が示したように、「来る」と「する」以外の全ての動詞の可能形は終止形「-u」の代わりに「-eru」をつければ良い。分かりやすいし覚えやすい。

また、動詞の簡略化はかなり昔からあったものである。例えば「読む」の可能形はもともと「読まれる」だったが、平安時代から続く動詞の簡略化の流れを受けて、室町時代に「読める」になったのだ。そして、この表現が徐々に他の動詞に広まって、最近に至って「見られる」が「見れる」になったわけだ。同じ動詞の変化にも関わらず批判するのは納得しかねる。それは動詞活用の整備で、文法の更新であると考えたほうが適切だと思われる。

（三）コミニュケーシ効果

現代の若者ことばは会話の娯楽や会話促進などのための手段として、一言で言えば会話の「ノリ」を楽しむ手段として使用されている。そこで、コミュニケーションにおける多くの機能が見られる。

１．会話が楽しくなる

若者は会話を面白くするために、面白い話題を選択するだけではなく、面白い言葉を造り、使って楽しんでいる。

ピッコロ大魔王：飲み会で飲み過ぎて吐いてしまうこと。『ドラゴンボール』というアニメに出てくるキャラクター名で、自分の分身を口から出す時、とても激しい顔をするところから。

会話の中で、「昨日吐いちゃった。すごかったよ」というふうに眉をしかめながら淡々と語るよりも、「ピッコロ大魔王」一言で自分の吐く時の激しさをありありと表現するのが面白い。他に「クラゲ状態」「馬耳る」などようなことばも場合によって使われる。それによって、会話が盛り上がって、楽しくなっていく。

２．連帯感が強まる

若者ことばはそもそも仲間内のことばなので、使うことによって、仲間同士に親近感を持たせ、「ウチの人間」という仲間意識を強めるわけである。それに、使えば使うほど連帯感が強化される。前に挙げた「ブタメシ」のようなことばもそういう機能が持っている。ヨソ者には通じないものの、仲間同士の間で使うことによって、代わらぬ間柄であることが確認され、さらに仲間意識が強化されている。

３．緩衝に効果的

相手の感情を害したり傷つけたりするのを避けて､相手への印象を和らげる機能であり、言葉の暴力性を緩和する働きである。近年、若者は、他者と深く付き合うと傷つけられることになりはしないかと恐れ、人とあまり関わろうとしないと言われる。自分が傷つけられるのを避けるために、他者に対する批判的な言葉は言い換えてやわらかくしている。こういう意味での若者のやさしさ志向は本来のやさしさから程遠いが､「ノリ」の会話をしている間も傷つけられることのないように気を使っているのである。例えば､「いい加減なやつ」と面と向かって言うと相手は腹を立てるが､「アバウトなやつ」と言うとそれほどでもない。語感がずっとやわらかになる。その他、「自己中心」と言わずに「自己中」と言い、「不器用」と言わずに「ブッキー」､「変な子」と言わずに「ヘンコ」と言うなど、いずれも冗談っぽく聞こえ、刺々しさがなくなり、言われても気まずい関係になりにくい。

また、上に触れた「語尾上げ」のような耳触りの表現も実は、コミュニケーションの上で効果的な面を持っている。それは何故かというと、こういう「半クエスチョンん」とか「半疑問」とかの表現を使うと、自分が話そうとしている事柄について、相手が知っているかどうかをその都度確かめることができるからだ。よどみなく、すらすらとしゃべった場合には、しゃべり終わってから相手が質問することになるのだが、この半クエスチョンを使いながらしゃべると、相手の反応を確かめながら続けることができて、お喋りを二人で作っていくという効果がある。また、この半クエスチョンは、自分がしゃべっている、使っている表現が適切かどうか、ちょっと自信がない時に、ねえ、これでいい？と相手に助けを求める時にも使える。相手が頷いたりしてくれると、安心して次に進めることができる。こうして、二人で会話を楽しむことができるわけだ。

その他､「ーって感じ」とか「ーみたいな」とかのような、断定を避ける言い方も会話をスムーズに運ぶ効果がある。

第５章　私の考えと収穫

若者ことばについての勉強を通して､私は若者ことばについての認識が深まったと思う。第三章に書いてあるように、若者ことばはかなり多くの面で批判を受けている。しかし、落ち着いて第四章をまとめながら、真剣に吟味してみると、私としては、本当に若者ことばが日本語を乱しているのか疑問に感じるのである。もう一度考え直す余地があるのではないかと思う。そもそも言語は生き物であるため、常に変化する性質が備わっているである。ある世代の言葉は既に、前の世代の言葉と幾分違っているものである。ある短い年月では同じ言葉を使っているが、100 年 200 年では大きく変化するに違いない。その変化の原動力を考えてみると、恐らくこの「若者ことば」というものになるだろう。だから、日本語を乱すというより、むしろ日本語に変化を与えるというほうがふさわしいのではないだろうか。そして、もたらされた変化は決して悪いものとは限らない。例えば、前章にも

書いてあるように、「ラ抜きことば」の使用によって、「意味の明晰化」と「動詞活用の単純化」が同時に実現できたので、日本語を学ぶ外国人にとって幸いなことだし、また造語法においては数多くの耳新しい言葉が作りだし、日本語を豊かにすることもできた。確かに、「若者ことば」を理解したり、覚えたりするのには苦労するが、でも一旦覚えて、さらに使いこなせるようになったとすれば、友達との会話が面白くなるのは勿論、ひょっとしたら自分が人に受け入れられるようになり、友達との友情関係も知らないうちに深まるのではないかと思われる。この面で、私は、「若者ことば」を楽しんで受け入れ、使っていこうではありませんかと、訴えたい

また、日本の若者はかなり空気を読めるので、服を着るのと同じように、ことばも場面によって選別すべきだということが分かると思っている。仮に、部外者に対して仲間内でしか通じない言葉を使って相手を傷つけたり、目上の方に向かって「ーじゃん」とか失礼なことを言ったり、表現すべき言語を失い、最終的に漢字仮名交じって表記したりすることになれば、それはことばの問題ではなく、家庭のしつけと国語教育現場に問題があるのではないかと思う。家庭においてきちんと子供のしつけを行って、学校で国語教育にもっと力を入れれば、このような本当の意味上の誤りが出なくなるかもしれない。

今回の「若者ことば」の考察をきっかけに、これから現代日本の若者のライフスタイルや価値観に見つけられる若者像を探っていき、さらに深く現代日本文化に触れたいと思う。

参考文献：

米川明彦『現代若者ことば考』　丸善ライブラリー　1996/10
米川明彦『若者ことばを科学にする』　明治書院　1998
井上史雄『日本語ウオッチング』　岩波書店　2004/9
北原保雄『問題な日本語』　大修館書店　2004/12
加賀野井秀一『日本語を叱る！』　ちくま新書　2006/4
金田一秀穂『新しい日本語の予習法』　角川書店　2003/4
R・M・Wディクソン（大角翠　訳）『言語の興亡』岩波書店　2001/6

参考サイト：

http://ja.wikipedia.org/wiki/
http://contest2005.thinkquest.jp/tqj2005/80019/w_word.html
http://www/athome-academy.jp/archive/literature_language/0000000194_01html
http://www.001.upp.so-net.ne.jp/ketoba/kooen6.html

第２２期（2006年10月～2007年9月）

日本語・日本文化研修留学生名簿（11名）

氏　　名	性別	国　名・地域名	出　身　大　学	受　入　部　局	指　導　教　員
BHOGE, NETRA ARUN	女	インド	プネー大学	留学生センター	深見　兼孝
PAI, CHITRA VIVEK	女	インド	プネー大学	留学生センター	中川　正弘
YANG HAIYAN（楊　海燕）	女	中国	四川大学	留学生センター	中川　正弘
CHEUNG TSZ CHING（張　子静）	女	香港	香港大学	留学生センター	中矢　礼美
LAI SZE LAM（黎　斯琳）	女	香港	香港大学	留学生センター	田村　泰男
LU LING LING（呂　玲玲）	女	香港	香港大学	留学生センター	石原　淳也
HOANG MAI THU	女	ベトナム	フオン・ドン大学	留学生センター	深見　兼孝
MUNKHBAT, ENKHEE	女	モンゴル	人文大学	留学生センター	玉岡　賀津雄
TURSUNBAEV, ALISHER	男	ウズベキスタン	タシケント国立東洋学大学	留学生センター	石原　淳也
HAN, ELIZA LIN-HSUEN	女	ニュージーランド	オークランド大学	教育学部	大浜　るい子
SHEN HUI FEN（沈　惠芬）	女	中国	首都師範大学	文学部	狩野　充徳